

# 大学院要項

情報科学研究科  
理工学研究科

2026 年度

法政大学大学院

## 2026 年度 小金井大学院要項 I

## 情報科学研究科・理工学研究科

小金井大学院の概要	4		
1. 情報科学研究科	4	3. 入学前修得単位の認定	22
(1) 研究科長の挨拶	4	4. 学習支援システムの利用	23
(2) カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ	5	成績について	24
(3) 2026 年度情報科学研究科研究指導教員一覧	6	1. 成績発表	24
2. 理工学研究科	7	2. 成績調査	24
(1) 研究科長の挨拶	7	3. 成績評価制度	24
(2) 理念・目標 / 教育目標 / 3つのポリシー / カリキュラムツリー・マップ	8	学位論文について	26
(3) 2026 年度 理工学研究科専任教員一覧	9	1. 修士課程	26
年間スケジュールと授業時間について	10	(1) 情報科学研究科	26
1. 2026 年度大学院学年暦(小金井)	10	(2) 理工学研究科	26
2. 授業時間	11	(3) 両研究科共通	27
3. 修了までのスケジュール(概要)	12	2. 博士後期課程	27
4. 小金井大学院担当窓口	14	(1) 情報科学研究科	27
5. 大学院担当からの通知連絡	14	(2) 理工学研究科	31
6. 教員との連絡	15	(3) 両研究科共通	32
7. 大学からの情報発信	15	3. 博士後期課程早期修了の申請について	33
授業について	16	教職・資格について	38
1. 授業回数	16	1. 専修免許状	38
2. 授業科目の選択	16	2. 一種免許状	39
3. 休講	16	3. 資格	42
4. 授業改善アンケート(FD)	16	留学について	43
修了要件について	19	1. 法政大学大学院における留学制度	43
1. 修士課程 修了要件	19	2. 法政大学派遣留学制度	43
(1) 情報科学研究科	19	3. 交換研究員制度	43
(2) 理工学研究科	19	4. グローバル教育の推進について	43
2. 博士後期課程 修了要件	20	学生生活の諸手続きについて	45
(1) 情報科学研究科	20	1. 事務取扱について	45
(2) 理工学研究科	20	2. 窓口取扱時間	47
(3) 両研究科共通	20	3. 掲示・お知らせ	47
履修について	21	4. 事務上の諸手続き	47
1. 履修登録	21	5. 学籍	49
2. 他専攻・他研究科設置科目の履修について	22	6. 学費	50
		7. 特別学生	54
		8. 留学生	54
		研究助成制度・奨学金等について	55
		1. 研究助成金	55

2.奨学金について.....	56	2.大学院英語名称一覧.....	59
3.首都大学院コンソーシアムについて.....	57	3.法政大学プライバシーポリシー.....	60
4.総合研究大学院大学(総研大)との単位互換協 定について.....	57	(1)個人情報の保護、安全管理措置.....	60
5.教育訓練給付制度.....	57	(2)個人情報の取扱い.....	60
6.ゼミで契約宿舎を利用する場合の宿泊費補助 .....	57	(3)問い合わせ先.....	60
7.チューター制度(外国人留学生対象).....	57	4.学生相談室.....	61
<b>資料</b> .....	58	5.障がい学生支援室.....	61
1.法政大学大学院諸規則一覧.....	58	6.ハラスメント相談室.....	62
		<b>大学院の歩み</b> .....	65

## 2026年度 小金井大学院要項 II

### 情報科学研究科 履修案内

<b>情報科学研究科</b> .....	67	2.博士課程のカリキュラム.....	72
1.修士課程のカリキュラム.....	68		

## 2026年度 小金井大学院要項 III

### 理工学研究科 履修案内

<b>理工学研究科</b> .....	74		
1.機械工学専攻.....	75	5.システム理工学専攻(創生科学系・経営システム 系).....	109
2.応用化学専攻.....	85	6.生命機能学専攻(生命機能学領域・植物医科学 領域).....	123
3.電気電子工学専攻.....	92		
4.応用情報工学専攻.....	102		

\*各研究科固有の内容については情報科学研究科、理工学研究科と表示しています。  
特に表示がない場合は両研究科共通となります。

# 小金井大学院の概要

## 1. 情報科学研究科

### (1) 研究科長の挨拶

大学院 情報科学研究科長 日高 宗一郎

情報科学研究科の大学院生の皆さんへ

大学院でそれぞれの新学期を迎えるにあたり、気持ちを新たにしていることと思います。研究科長として、自らの経験も踏まえ、皆さんにいくつか伝えたいことがあります。

まず、情報科学的視点から、本質を見抜く力を養って頂きたいと思います。近年では様々な情報科学的問題へのアプローチがますます洗練されています。しかし、全く新しいように喧伝されている技術も、よく分析すると古い技術の焼き直しかも知れません。原理原則にいつでも立ち返ることができるようにしてください。本質を見抜くことにより、表面上使いこなすのではなく、原理と倫理的側面を理解した上で、適切な利用を実践し、周囲にも促すことができます。

大学院の講義は学部の講義と異なり、更に主体的な取り組みが求められます。課題やレポートについても、教員は学部の講義のように条件を詳しく説明しないかも知れません。問題自体を発見することが求められる場合もあります。受講者とのやりとりは大いに歓迎される筈です。疑問があれば担当教員によく確認することを心がけてください。

大学院では研究活動がより重視されることも学部と大きくことなるところです。所属研究室のセミナーや学会発表、論文執筆を通して、研究成果を世に問うことが求められます。自分は先輩方のような立派な発表ができるだろうかと心配になるかも知れません。しかし、たとえ小さな成果でも、既存研究からの差分を明確にすることにより、ひとまとまりの成果として切り出すことが重要です。成果の発表にあたり周到な発表準備や論文の入念な練り直しはもちろん必要です。その過程では指導教員や周囲の学生と大いに議論をしてください。そのように準備を重ねた発表でも、会場では思いがけない質問が飛んでくるかもしれません。それも重要な機会と捉え、謙虚に受け止めて研究の発展に繋げましょう。発表しないことに比べればとても大きな収穫になる筈です。発表して大いに恥をかいてください。恥をかくのを恐れないでください。

大学院では、じっくり物事を考える時間を比較的とりやすいと思います。本質を見抜く力を養いつつ、有意義な大学院生活を過ごして頂きたいと思います。

**(2) 理念・目標 / 教育目標 / 3つのポリシー / カリキュラムツリー・マップ**

情報科学研究科 理念・目標・教育目標

<https://cis.hosei.ac.jp/gs/about/introduction/>

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire\\_hoshin/daigaku\\_in/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/)

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku\\_katei/daigaku\\_in/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/daigaku\\_in/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/)

カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ

<https://cis.hosei.ac.jp/gs/courses/curriculum/>

研究指導の方法等

<https://cis.hosei.ac.jp/gs/courses/degree/>

## (3)2026年度情報科学研究科研究指導教員一覧

身分	氏名		備考
教授	アイシマ ケンスケ 相島 健助	D	
教授	アカイ ミナ 赤石 美奈	D	
教授	イトウ カツノブ 伊藤 克亘	D	
教授	オバナ サトシ 尾花 賢	D	
教授	カワバタ シロウ 川畑 史郎	D	
教授	キョウチ セイスケ 京地 清介	D	
教授	コイケ タカフミ 小池 崇文	D	
教授	コニシ カツミ 小西 克巳	D	
教授	ササキ アキラ 佐々木 晃	D	
教授	サトウ ユウジ 佐藤 裕二	D	
教授	ゼンボ ヤスナリ 善甫 康成	D	
教授	タカムラ セイシ 高村 誠之	D	
教授 主任	ヒダカ ソウイチロウ 日高 宗一郎	D	研究科長
教授	ヒロツ トシオ 廣津 登志夫	D	
教授	ファン ルンヘ 黄 潤和	D	
教授	フジタ サトル 藤田 悟	D	
教授	ホソベ ヒロシ 細部 博史	D	
教授	マ ジェンファ 馬 建華	D	
教授	リー ヤミン 李 亞民	D	
准教授	サトウ ショウヘイ 佐藤 周平	D	
准教授	スドウ ユウイチ 首藤 裕一	D	

2026.04.01 時点

D: 修士課程・博士後期課程の研究指導担当

## 2. 理工学研究科

### (1) 研究科長の挨拶

大学院 理工学研究科長 岡本 吉史

理工学研究科大学院生の皆様へ

いま、私たちの地球は大きな変化の時代を迎えています。夏の厳しい暑さや激しい気象現象は、もはや日常の一部となり、「地球沸騰化」という言葉さえ聞かれるようになりました。持続可能な脱炭素社会の実現や、平和で安定した国際社会の構築は、私たち人類が共に手を取り合って取り組むべき大切なテーマです。理工学という知の最前線に身を置く皆さんには、このような課題に真摯に向き合い、科学技術の力で未来を明るく照らしていく役割が期待されています。

正解のない難問に挑むとき、力強い助けとなるのは、単なる知識・技術の蓄積だけではありません。自らの専門性を深めながらも、異なる視点を持つ人々と柔軟に手を取り合い、答えを探し出せるリーダーシップです。現代の社会課題は非常に複雑であり、一つの専門領域に閉じこもっていても解決の糸口が見つからないこともあります。だからこそ、皆さんに大切にしてほしいのが「知の融合」です。自身の研究室や専攻の枠を少しだけ超えて、他分野や他研究科の知見にも触れてみてください。異なる背景を持つ仲間と対話し、新しい発想を掛け合わせることで道が開ける瞬間があります。

専門性を核とした高度な問題解決能力を真に自分のものにするために、ぜひ博士後期課程への進学も視野に入れてみてください。修士課程で培った研究をさらに深化させ、自らの手で新しい知を切り拓く経験は、皆さんの専門性を世界レベルへと引き上げます。産業界においても、複雑な課題を多角的に分析し、根源的な解決策を提示できる博士人材への期待は年々高まっています。研究者として、またリーダーとして高みを目指し、産業界や社会の最前線で活躍する道が、大きく開かれています。

そして何より、研究という営みは、全力で打ち込んだ人にだけ見える特別な景色を与えてくれます。私の研究室では、日々の努力を積み重ねることで大きく成長し、自信に満ちた姿へと変わっていく学生を数多く見てきました。研究には、過去の自分を塗り替え、人生を劇的に変える力があります。ぜひ、国内外の学会へ積極的に挑戦し、研究成果を世界に発信してください。研究に没頭できる時間は、決して長くはありません。一日一日を大切に、未来を切り拓く研究者・リーダーへと羽ばたいてください。理工学研究科の教職員一同、皆さんの果敢な挑戦を全力で応援し、共に歩んでまいります。

**(2)理念・目標 / 教育目標 / 3つのポリシー / カリキュラムツリー・マップ**

理工学研究科 理念・目標

<https://www.hosei.ac.jp/gs/riko/>

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ

<https://www.hosei.ac.jp/gs/riko/> (各専攻ページ内)

(3)2026年度 理工学研究科専任教員一覧

2026.4.1

専攻	身分	氏名	担当	専攻	身分	氏名	担当	専攻	身分	氏名	担当
機械工学 (13名)	教授	相原 建人	D	システム理工学 (25名)	創生科学系			応用化学 (10名)	教授	明石 孝也	D
	教授	新井 和吉	D		教授 主任	金沢 誠	D		教授	緒方 啓典	D
	教授	石井 千春	D		教授	小林 一行	D		教授	河内 敦	D
	教授	川上 忠重	D		教授	小宮山 裕	D		教授	杉山 賢次	D
	教授	チャビ ゲンツイ	D		教授	佐藤 修一	D		教授	高井 和之	D
	教授	塚本 英明	D		教授	鈴木 郁	D		教授 主任	森 隆昌	D
	教授	辻田 星歩	D		教授	松尾 由賀利	D		教授	山下 明泰	D
	教授 主任	平野 利幸	D		教授	吳 曉林	M※		教授	渡邊 雄二郎	D
	教授	御法川 学	D		准教授	柴田 千尋	D		教授	小鍋 哲	M科
	教授	吉田 一朗	D		准教授	鮎川 矩義	D		准教授	藤井 孝太郎	M
	教授	加藤 友規	M		准教授	田中 幹人	D	生命機能学領域			
	教授	小泉 隆行	M		准教授	山本 晃輔	M※	教授	金子 智行	D	
	専任講師	東出 真澄	M		准教授	柳川 浩三	M※	教授 副主任	川岸 郁朗	D	
	電気電子工学 (13名)	教授	伊藤 一之		D	専任講師	堤 瑛美子	M	教授	佐藤 勉	D
教授 主任		岡本 吉史	D		経営システム系			教授	曾和 義幸	D	
教授		斉藤 利通	D		教授	磯島 伸	D	教授	廣野 雅文	D	
教授		柴山 純	D		教授	木村 光宏	D	教授	水澤 直樹	D	
教授		鳥飼 弘幸	D		教授 副主任	五島 洋行	D	教授	山本 兼由	D	
教授		中村 壮亮	D		教授	高澤 兼二郎	D	准教授	竹田 哲也	D	
教授		中村 俊博	D		教授	寺杣 友秀	D	准教授	西川 正俊	D	
教授		藤澤 剛	D		教授	林 俊介	D	植物医科学領域			
教授		安田 彰	D		教授	劉 慶豊	D	教授	大井田 寛	D	
教授 (任期付)		岩城 敏	M科		准教授	田村 信幸	D	教授	大島 研郎	D	
教授		川口 悠子	M科		准教授	千葉 英史	M	教授	佐野 俊夫	D	
准教授		笠原 崇史	D		准教授	安田 和弘	M	教授	津田 新哉	D	
准教授		佐々木 秀徳	D	准教授	劉 子昂	M	教授	濱本 宏	D		
応用情報工学 (11名)		教授	彌富 仁	D	専任講師	作村 建紀	M	准教授	池田 健太郎	D	
	教授	尾川 浩一	D				准教授 主任	廣岡 裕吏	D		
	教授	金井 敦	D				専任講師	鍵和田 聡	M科		
	教授	品川 満	D								
	教授	周 金佳	D								
	教授 主任	藤井 章博	D								
	教授	山岸 昌夫	D								
	教授	李 磊	D								
准教授 (任期付)	余 恪平	D									
准教授	和佐 州洋	D									
准教授	平原 誠	M									

D : 修士課程・博士後期課程研究指導担当  
M : 修士課程研究指導担当  
M※ : 修士課程(修士(学術))研究指導担当  
M科 : 修士課程授業科目担当

# 年間スケジュールと 授業時間について

## 1. 2026年度大学院学年暦(小金井)

学年開始	4月1日(水)
入学式	4月3日(金)
春学期授業期間	4月1日(火)～8月1日(土)
夏季休業期間	8月2日(日)～9月17日(木)
夏季集中 特別授業期間	サマーセッション : 8月3日(月)～8月8日(土) オータムセッション : 9月11日(金)～9月17日(木)
9月修了学位授与式	9月12日(土)
秋学期授業期間	9月18日(金)～12月23日(水)
	1月8日(金)～1月18日(月)
冬季休業期間	12月24日(木)～1月7日(木)
春季休業期間	1月31日(日)～3月31日(水)
春季集中特別授業期間	スプリングセッション : 3月8日(月)～3月20日(土)
学位授与式	3月24日(水)
学年終了	3月31日(水)

- 4月10日(金)創立記念日は授業実施(5月1日(金)に振替)
- 4月28日(火)、4月30日(木)は暦の関係で休講
- 5月1日(金)は、創立記念日の振替により休講
- 5月2日(土)は、レクリエーションデーにより休講
- 7月20日(月)海の日、9月21日(月)敬老の日、9月22日(火)国民の休日、9月23日(水)秋分の日、10月12日(月)スポーツの日、11月23日(月)勤労感謝の日(振替)は授業実施
- 4月29日(水)昭和の日、5月4日(月)みどりの日、5月5日(火)こどもの日、5月6日(水)憲法記念日(振替)、11月3日(火)文化の日、1月11日(月)成人の日は授業を実施しない
- 1月15日(金)大学入学共通テスト準備日のため、市ヶ谷文系・多摩は補講、小金井は予備日、デザイン工学研究科は1～2限補講
- 1月16日(土)大学入学共通テスト実施日は、市ヶ谷文系・デザイン工学研究科は休講、多摩は補講、小金井は予備日

## 2. 授業時間

	月曜日～金曜日	土曜日 ※全学共通時間割
1 時限	9 : 00～10 : 40	9 : 00～10 : 40
2 時限	10 : 50～12 : 30	10 : 50～12 : 30
昼休み	12 : 30～13 : 20	12 : 30～13 : 10
3 時限	13 : 20～15 : 00	13 : 10～14 : 50
4 時限	15 : 10～16 : 50	15 : 00～16 : 40
5 時限	17 : 00～18 : 40	16 : 50～18 : 30
6 時限		18 : 35～20 : 15
7 時限		20 : 20～22 : 00

## 3. 修了までのスケジュール(概要)

## 修了までのスケジュール

## 修士課程

時期	内容	担当
1年次		
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>専攻主任・研究科長の紹介</li> <li>履修登録方法、大学院授業科目先取り科目単位認定、成績評価、教員免許、助成金・奨励金等のガイダンス</li> <li>履修指導 登録する科目の選択に際し、指導を行う</li> </ul>	専攻主任全員 大学院事務部  指導教員
4～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会における論文発表の奨励</li> <li>論文誌への投稿指導</li> </ul>	指導教員 指導教員
4～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画に対する指導</li> </ul>	指導教員
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修指導 登録する科目の選択に際し、指導を行う</li> </ul>	指導教員
9～1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画に対する指導</li> <li>ゼミ等で中間発表会 研究課題・研究計画に対し、講評、指導を行う 他の学生の発表に対し、講評を行う</li> </ul>	指導教員 指導教員  指導教員 学生
2年次		
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修指導 登録する科目の選択に際し、指導を行う</li> </ul>	指導教員
4～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会における論文発表の奨励</li> <li>論文誌への投稿指導</li> </ul>	指導教員 指導教員
4～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ等で中間発表会 研究課題・研究計画に対し、講評、指導を行う 他の学生の発表に対し、講評を行う</li> </ul>	指導教員 学生
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修指導 登録する科目の選択に際し、指導を行う</li> </ul>	指導教員
9～1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文に対する指導</li> </ul>	指導教員
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文審査委員(主査、副査)決定</li> <li>修士論文について指導</li> </ul>	教授会 修士論文審査委員
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文提出</li> <li>紀要執筆</li> </ul>	学生
1～2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文発表会</li> <li>論文審査及び修了判定</li> </ul>	口頭試問 修士論文審査委員 教授会
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>修了審査</li> </ul>	修士論文審査委員会、教授会、研究科長会議

## 修了までのスケジュール

## 博士後期課程

時 期	内 容	担 当
1年次		
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>専攻主任・研究科長の紹介</li> <li>履修登録方法、大学院授業科目先取り科目単位認定、成績評価、教員免許、助成金・奨励金等のガイダンス</li> </ul>	専攻主任全員 大学院事務局
4～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画(論文)に対する指導</li> <li>ゼミ等で他の学生に対し、実験・研究指導の補助をおこ</li> </ul>	指導教員 指導教員、学生
9～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究指導科目での発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画に対し、講評、指導を行う</li> <li>他の学生の発表に対し、講評を行う</li> </ul> </li> <li>国内外の学会、研究会での研究発表を奨励</li> <li>国内外の学術雑誌への投稿を奨励</li> <li>年次研究報告書の提出を奨励する</li> </ul>	指導教員 学生 指導教員 指導教員 指導教員
2年次		
4～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画(論文)に対する指導</li> <li>ゼミ等で他の学生に対し、実験・研究指導の補助をおこ</li> </ul>	指導教員 指導教員、学生
9～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究指導科目での発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画に対し、講評、指導を行う</li> <li>他の学生の発表に対し、講評を行う</li> </ul> </li> <li>国内外の学会、研究会での研究発表を奨励</li> <li>国内外の学術雑誌への投稿を奨励</li> <li>年次研究報告書の提出を奨励する</li> </ul>	指導教員 学生 指導教員 指導教員 指導教員
3年次		
4～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画(論文)に対する指導</li> <li>研究指導科目での発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題・研究計画に対し、講評、指導を行う</li> <li>他の学生の発表に対し、講評を行う</li> </ul> </li> </ul>	指導教員 指導教員 学生
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>博士論文提出</li> </ul>	学生
9～2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文審査委員決定</li> <li>口頭試問、総合試験</li> <li>論文審査及び判定</li> </ul>	教授会 学位審査委員 教授会
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>修了審査</li> </ul>	学位審査委員会、教授会、研究科長会議

2016年1月

## 4. 小金井大学院担当窓口

以下の内容については、管理棟 2 階の小金井事務部大学院担当が担当します。

詳細は「学生生活の諸手続きについて」を参照してください。

- ① 授業実施に関すること
- ② 単位修得上の指導、履修科目の登録に関すること
- ③ 試験の実施(修士論文等も含む)、成績の発表に関すること
- ④ 各種証明書の発行に関すること
- ⑤ 学生証の発行に関すること
- ⑥ 学籍(休学・退学・復学・復籍等)の異動に関すること
- ⑦ その他教務に関すること

## 5. 大学院担当からの通知連絡

円滑な大学生活を送ることができるように、必要に応じて各種の通知、連絡を行います。

主に下記 3 つの方法で通知連絡を行いますので、日常的に活用し、必要な情報を見逃さないよう注意してください。

### (1) Web 掲示版

大学からのお知らせは、全 Web 掲示版に掲示されます。Web 掲示版には所属研究科からのお知らせや、大学の様々な部局からのお知らせが掲示されます。所属研究科からのお知らせは、特に重要な情報ですので、こまめにチェックしてください。

#### アクセス方法

「法政大学ポータルサイト Hoppii(Hosei portal to pick up information)」から Web 掲示版にアクセスしてください。「法政ポータルサイト」は、履修や成績、シラバスなど、学生が利用する様々なシステムやサイトのリンク先をひとまとめにしたポータルサイトです。

法政大学ポータルサイト Hoppii <https://hoppii2025.hosei.ac.jp/portal/>



### (2) お知らせ配信

Web 掲示版から重要な事務手続き日程や至急の連絡事項等のお知らせを学習支援システムに登録されたメールアドレス宛に配信します。Hoppii の個人設定より配信希望のメールアドレスを必ず登録してください。初期設定は大学から付与されたメールアドレス(〇〇〇@stu.hosei.ac.jp)になっています。なおシステムの仕様上、配信メールにはファイルが添付されません。お知らせに添付ファイルがある場合は、Hoppii にログインし Web 掲示版から該当のお問合せをご確認ください。

### (3) 大学院担当へのお問い合わせ

何か困ったことやわからないことがあったときは、大学院(情報・理工)のお問い合わせフォームをご活用ください。 <https://forms.gle/bkrQeVes1XYs3vo38>



### (4) 大学院ホームページ「在学生の方へ」

大学院ホームページにて研究助成・学生生活に関する在学生向けの情報を発信していますので、活用してください。 <https://www.hosei.ac.jp/gs/>

## 6. 教員との連絡

### (1) オフィス・アワーの公開について

オフィス・アワーとは、授業科目の内容や学修上の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことです。

専任教員のオフィス・アワーは、法政大学ポータルサイト Hoppii で一覧を公開しています。

兼任教員は、原則として授業終了後に教室で質問・相談を受け付けます。別の指示がある場合は、それに従ってください。

### (2) 教員の連絡先公開について

大学院担当では、教員の連絡先をお伝えすることはできませんので、授業内に直接、連絡先や連絡方法を伺うようにしてください。

### (3) 教員への電話連絡・伝言について

教員宛での電話を取り次ぐことはできません。教員への伝言を大学院担当で承ることもできませんので、予めご了承ください。

例えば、不測の事態による授業の遅刻や欠席について、大学院担当が授業担当教員に代理で連絡することはできません。

## 7. 大学からの情報発信

大学は様々なソーシャル・メディアを活用して、日々の情報を発信しています。ご活用ください。

### (1) 法政大学公式ホームページ <https://www.hosei.ac.jp/>

### (2) 広報課 SNS

- |             |                      |   |
|-------------|----------------------|---|
| ・ X         | hosei_pr             | 法政大学のニュースを紹介しています。<br>災害時の休講連絡等にも活用しています。 |
| ・ Facebook  | 法政大学 HoseiUniversity | 法政大学のニュースを紹介しています。                        |
| ・ YouTube   | hoseiPR              | 法政大学の「今」を動画で紹介しています。                      |
| ・ LinkedIn  | 法政大学カレッジページ          |   |
| ・ Instagram | hosei_university     | 法政大学の「今」を画像で紹介しています。                      |

### (3) グローバル教育センター <http://www.global.hosei.ac.jp>

### (4) 小金井キャンパスサイト <https://www.hosei.ac.jp/koganei/>

# 授業について

授業開始までに、カリキュラムと講義内容をよく把握して、1年間の履修計画を立ててください。最終学年での学位論文完成に向けて、指導教員と円滑なコミュニケーションを図るよう努めましょう。大学院における教育は、開講科目の授業と、学位論文の作成等に関する研究指導によって行われます。

## 1. 授業回数

### (1) 通年開講科目

週 1 時限開講し、年間 28 回を標準として授業を行います。(4 単位科目)

### (2) 2 期制開講科目(春・秋学期)

各期週 1 時限開講し、合計 14 回を標準として授業を行います。(2 単位科目)

※科目によっては上記以外の変則的な開講形態をとることもありますので、担当教員の指示に従ってください。

## 2. 授業科目の選択

授業は 4 月 7 日(火)から始まります。

授業開始までにシラバスのカリキュラム、履修上の注意、授業計画をよく読んで授業科目を選択し、初回授業から必ず出席し、所定の期間内に、Web 履修登録申請を行ってください。履修登録の詳細は本要項の「履修登録」を参照してください(「履修について」)。

シラバスは Web で確認できます。

Web シラバス URL <https://syllabus.hosei.ac.jp/>



## 3. 休講

授業は、担当教員の病気や行事のために休講となることがあります。なお、不可効力により教員が大学へ連絡できない場合や、出席者のみに伝えて大学に連絡していない場合もあり、授業開始時間から 30 分経過して担当教員が出講しない時は休講とします。

### (1) 注意事項

- ・ 表示される休講情報は教員からの連絡に基づくものであり、追加や変更の可能性があります。
- ・ 直前に連絡のあった休講情報は反映されない場合があります。

### (2) 休講情報の確認方法

法政ポータルサイト(Hoppii)にログインし「時間割」から授業名をクリックすると休講情報が表示されます。

## 4. 授業改善アンケート(FD)

各期の授業終了時に、「学生による授業改善アンケート」を実施しています。学生の声を教員に届け、授業の質の向上を目指すものですので、アンケート回答へのご協力をお願いします。

### (1) 大学院アンケート実施科目

大学院では、修士課程設置科目を対象としています。ただし、研究科・専攻により少人数で実施する授業や演習科目は対象としていない場合もあります。また、博士後期課程設置科目は対象外です。

### (2) アンケート実施方法

アンケートはインターネットに接続している PC やタブレット、スマートフォンなど、Web を利用して回答する匿名式で、アンケート実施期間中は「いつでも・どこでも」回答可能です。

アンケートに回答する際は、法政ポータルサイト(Hoppii)から「法政大学アンケートシステム」にアクセスしてください。

※アンケート実施対象科目を履修登録している学生以外は、回答できません。

※該当科目に関する自由記述等、内容に関するコメント欄もありますが、回答者の特定はされません。

### (3) アンケート実施期間(予定)

アンケート実施期間は以下のとおりです。詳細は、各実施期間前に Web 掲示板等でお知らせします。

対象科目	実施期間
春学期科目	7月上旬～8月上旬ごろ
通年・秋学期科目	12月上旬～1月下旬ごろ

※集中授業については上記期間外に実施される場合もあります。

## 特別の休講措置について

### ■大規模地震の発生が予想される時

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想される時に、気象庁所管の「地震防災対策強化地域判定会」が召集され、状況によって「警戒宣言」が発令されます。

本学では、大規模地震の発生が予知される時には、上記「判定会」が召集された段階で、次のような措置をとることにしていますので、ご承知おきください。

(1)「地震防災対策強化地域判定会」が召集されたことを確認できた時点で(テレビ、ラジオ等によって)休講とします。したがって次のように行動してください。

- a 在宅中のときは、そこにとどまってください。
- b 通学途中、または帰宅途中のときは、直ちに帰宅してください。
- c 在校中のときは、大学からの連絡、指示により直ちに帰宅してください。

(2)警戒宣言が解除されたとき、または判定会が解散されたときは、休講を解いて平常授業を行います。授業再開については、後述する交通機関のストライキの場合に準じます。

※以上の措置は、地震発生の際の被害を極力減らすためのものですので、学生の皆さんのご協力をお願いします。

### ■台風等自然災害の場合の休講措置について

法政大学では授業実施期間中に、台風や大雪等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは学生の通学に危険が生じると判断した場合は、以下の通り授業を休講することがあります。

但し、授業担当教員の判断により、オンライン授業へ切り替えて実施する場合がありますので、学習支援システムを確認してください。

オンライン授業は、休講せずオンラインにて実施する場合があります。

(1)天候悪化等により首都圏の公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは暴風警報の発令等により通学に危険が生じると考えられる場合、大学は当日の授業の実施について協議し、その結果を以下の通り周知します。

- a. 1・2 時限の授業について、当日 6:00 までに法政ポータルサイト Hoppii「大学からのお知らせ」に休講措置の有無を掲載します。
- b. 3 ～ 5 時限の授業について、当日 10:00 までに法政ポータルサイト Hoppii「大学からのお知らせ」に休講措置の有無を掲載します。
- c. 6・7 時限の授業について、当日 15:00 までに法政ポータルサイト Hoppii「大学からのお知らせ」に休講措置の有無を掲載します。

(2)事前に台風上陸等により公共交通機関の大きな乱れが生じることが予想される場合は、前日 17:00 までに上記周知の方法を法政ポータルサイト Hoppii「大学からのお知らせ」に掲載し、学生・教職員に周知します。

(3)上記によらず、前日において翌日の授業実施に大きな影響があると判断される場合は、前日 17:00 までに翌日の休講措置の有無を決定し、法政ポータルサイト Hoppii「大学からのお知らせ」に掲載することがあります。

(4)上記の内容は必要に応じて大学公式ホームページにも掲載いたします。

### ■交通機関のストライキによる休講措置について

交通機関のストライキに際しての授業の取り扱いは、次のように決められています。

(1)JR のストライキにより JR が運行されないときは、原則として次により授業を休講とします。

- ・午前 6 時までにストライキが解除されないとき、1・2 時限の授業を休講とします。
- ・午前 10 時までにストライキが解除されないとき、1 ～ 5 時限の授業を休講とします。
- ・正午までにストライキが解除されないとき、すべての授業を休講とします。

(2)上記のほか、京王線・京王バス・神奈中バスの全部またはいずれかのストライキにより、全部またはいずれかが運行されない(バスは、法政大学発着の路線が運行されない)ときは、原則として次により授業を休講とします。

- ・午前 6 時までに(バスは 8 時までに)ストライキが解除されないとき、多摩キャンパスにおける 1・2 時限の授業を休講とします。
- ・午前 10 時までに(バスは正午までに)ストライキが解除されないとき、多摩キャンパスにおけるすべての授業を休講とします。

# 修了要件について

## 1. 修士課程 修了要件

修士課程の修了には、2 年以上在学し、指導教員の指導のもとに授業科目より 30 単位以上を修得し、修士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。

※情報科学研究科・理工学研究科においては、修士課程については、早期修了制度は実施しないことが決定されています。

### (1) 情報科学研究科

以下の必修科目 10 単位、講義科目 18 単位以上(他専攻・他研究科設置科目 10 単位以下を含めてもよい)、情報科学オープンセミナーまたは CIS グローバルセミナーから 2 単位以上、を含む合計 30 単位を修得する必要があります。

#### ● 研究指導科目(必修科目) 全て半期科目

- ・「特別研究1A」1 単位、「特別研究1B」2 単位、「特別研究2A」1 単位、「特別研究2B」2 単位
  - ・「特別演習1A」1 単位、「特別演習1B」1 単位、「特別演習2A」1 単位、「特別演習2B」1 単位
- また、これ以外に 2 年次秋学期には「修士論文」を必ず登録してください。

### (2) 理工学研究科

以下の必修科目 10 単位を含む 30 単位を修得する必要があります。授業科目については、各専攻で定める要件を満たす必要がありますので、各専攻の履修案内(「小金井大学院要項Ⅲ」)を確認してください。

他専攻・他研究科が設置する修士課程の科目は 10 単位を上限として修了所要単位とすることができます。

#### ● 研究指導科目(必修科目) 全て半期科目

- ・「特別研究1A」1 単位、「特別研究1B」2 単位、「特別研究2A」1 単位、「特別研究2B」2 単位
  - ・「特別実験1A」1 単位、「特別実験1B」1 単位、「特別実験2A」1 単位、「特別実験2B」1 単位
- また、これ以外に 2 年次には「修士論文」を必ず登録してください。

#### < 単位制度について >

修士課程の授業科目の履修には、単位制度を採用しています。単位制度とは、法政大学学則および大学院学則に定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、所定の試験に合格することにより、その授業科目の単位を修得していく制度です。

#### < 半期修了について >

4 月入学生で、修了要件を満たし、その年の 5 月末日までに「半期修了申請書」を大学院担当に提出した申請者についてのみ、9 月にも修了判定を行います。期日までに申請書の提出がなかった場合は、9 月に修了することはできません。

9 月入学生については、10 月末日までに「半期修了申請書」を大学院担当に提出した申請者についてのみ、3 月にも修了判定を行います。期日までに申請書の提出がなかった場合は、3 月に修了することはできません。

## 2. 博士後期課程 修了要件

博士後期課程の修了には、3 年以上在学し、指導教員の指導によりそれぞれの専攻に示された博士後期課程の授業科目を履修または単位修得し、更に必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、別に定めるところにより 1 年以上在学すれば足りるものとします。

博士後期課程早期修了の申請については、「学位論文について」の「早期修了の申請について」を参照ください。

### (1) 情報科学研究科

以下の必修科目計 19 単位を履修し、更に必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。

- コースワーク科目 4 科目のうち、2 科目 4 単位
- 研究指導科目(必修科目)全て半期科目
- ・「特別研究1A」1 単位、「特別研究1B」2 単位、「特別研究2A」1 単位、「特別研究2B」2 単位、「特別研究3A」1 単位、「特別研究3B」2 単位
- ・「特別演習1A」1 単位、「特別演習1B」1 単位、「特別演習2A」1 単位、「特別演習2B」1 単位、「特別演習3A」1 単位、「特別演習3B」1 単位

### (2) 理工学研究科

以下の必修科目計 17 単位を履修し、更に必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。

- コースワーク科目 1 科目 2 単位
- 研究指導科目(必修科目)全て半期科目
- ・「特別研究1A」1 単位、「特別研究1B」2 単位、「特別研究2A」1 単位、「特別研究2B」2 単位、「特別研究3A」1 単位、「特別研究3B」2 単位
- ・「特別実験1A」1 単位、「特別実験1B」1 単位、「特別実験2A」1 単位、「特別実験2B」1 単位、「特別実験3A」1 単位、「特別実験3B」1 単位

### (3) 両研究科共通

< 指導教員への研究成果の報告 >

博士後期課程は、専攻が定める科目を履修または単位修得するだけでなく、研究指導を受け博士論文をまとめることを目的とします。したがって毎年、当該年度の研究の成果を報告書にまとめ、指導教員へ提出しなければなりません。(詳細は指導教員に確認してください。)

< 紀要への掲載 >

博士学位論文の要旨および審査結果の要旨を大学院紀要に掲載しなければなりません。

# 履修について

## 1. 履修登録

以下のとおり履修登録を行ってください。

### 情報科学研究科(年 2 回)

4 月に春学期の科目を、9 月に秋学期の科目を登録してください。

研究指導科目および修士論文については事務で履修登録を行いますので、各自で登録する必要はありません。

### 理工学研究科(年 1 回)

4 月に春学期と秋学期のすべての科目を登録してください。

9 月に設けてある登録期間中に秋学期科目の追加・削除・取消しが可能ですが、予めシラバスをよく読み、修正を最小限になるよう努めてください。ただし秋学期の履修登録期間より前に実施済みの秋学期集中授業については追加・削除・取消しはできませんので、ご注意ください。

### (1) 履修登録(Web による履修登録申請)

#### ①登録受付期間

【春学期】4 月 6 日(月)～4 月 20 日(月) 各日 10:00～26:00

【秋学期】9 月中旬～下旬予定。詳細は後日 Hoppii を通じてお知らせいたします。

#### ②登録方法

事前に Web シラバスをよく読んだ上で、履修を希望する科目を「情報システム」から登録を行ってください。履修登録の手続きを経していない授業科目については、単位・評価ともに与えられません。

情報システム <https://www.as.hosei.ac.jp/kyomu/index.jsp>

※情報システムにログインするために、大学が発行するユーザ ID・パスワードが必要となります。入学時に学生証と併せて ID・パスワードの通知書を配付します。内部進学の方には、学生証の配布を以て新しいユーザ ID をお知らせします。新しい ID 受領後、パスワードの設定を必ず行ってください。

#### ③注意事項

- ・ 修士1年生は Web 履修登録の前に必ずキャリア就職システムで「進路希望登録」を行う必要があります。「進路希望登録」を行わないと履修登録ができません。
- ・ 修士課程 2 年生の方は受講する科目がない場合でも必ず「修士論文」を履修登録してください。
- ・ 博士後期課程の方はコースワーク科目を含め指導教員と相談の上で履修登録を行ってください。
- ・ 履修を希望する研究指導科目またはコースワーク科目(博士後期課程のみ)がシステムに表示されない場合は、春学期科目は 4 月 10 日(金)までに、秋学期科目は 9 月 24 日(木)までに大学院担当に申し出てください。

## (2) 履修登録科目確認通知書の確認(履修登録の確定)

### ① 確認期間

春学期履修登録期間に申請された内容は 4 月 23 日(木)に確定し、その翌日以降、「履修登録科目確認通知書」を確認することで、履修登録が完了となります。各自、必ず確認してください。

【春学期】4 月 24 日(金)～6 月 30 日(火) 各日 10:00～26:00

【秋学期】10 月上旬予定。詳細は後日 Hoppii を通じてお知らせいたします。

### ② 確認方法

情報システムから「履修登録科目確認通知書」を出力し、自分が履修登録した科目と一致していることを確認してください。

## (3) 履修取消

誤った科目を履修登録してしまった場合は、以下の履修取消期間に情報システムから履修取消を行ってください。取消後、必ず履修登録科目確認通知書を出力し内容に間違いがないか確認してください。

秋学期履修取消期間中は、秋学期科目のみ取消しができます。ただし秋学期の履修登録期間より前に実施済みの秋学期集中授業の履修取消はできませんので、ご注意ください。

履修取消し期間以外には一切履修の取消を受け付けません。

【春学期】履修取消期間:5 月 7 日(木)～5 月 8 日(金) 各日 10:00～26:00

取消し後の「履修登録科目確認通知書」出力期間:5 月 9 日(土)～6 月 30 日(火)各日 10:00～26:00

【秋学期】履修取消期間:10 月上旬予定。詳細は後日 Hoppii を通じてお知らせします。

## 2. 他専攻・他研究科設置科目の履修について

他専攻・他研究科が設置する修士課程の科目は 10 単位を超えない範囲で修了所要単位とすることができます。

### ① 他キャンパス(市ヶ谷・多摩)の研究科が設置する科目

指導教員と授業担当教員の承認のもと、学習支援システムから科目を仮登録して授業を受けてください。

同時に、他研究科科目履修申請書に記入し、指導教員の印をもらった上で大学院担当の窓口で春学期科目は 4 月 14 日(火)まで、秋学期科目は 9 月 30 日(水)までに提出して下さい。受講を希望する研究科での必要な手続きを経て、事務が履修登録を行います。

### ② 小金井キャンパスの他専攻(IIST 主催科目含む)が設置する科目

他研究科科目履修申請書の提出は不要ですが、授業担当教員の承認のもと、履修登録を自分で行って、授業を受けてください。科目によって、他専攻の学生が履修できない場合もありますので、予めご了承ください。

## 3. 入学前修得単位の認定

大学院に入学する前に法政大学の学部4年次に先取り履修した単位は、情報科学研究科は 8 単位、理工学研究科は 10 単位を超えない範囲で大学院入学後の履修単位(入学年度)として認定します。

法政大学学部 4 年次に修得した先取り科目の単位は、大学院入学後に自動的に認定されるため、申請手続きは不要です。認定は 1 年次の 4 月末頃に行われる予定です。

大学院に入学する前に特別学生として修得した単位を認定する場合は、修士課程に進学した年の 4 月 1 日～4 月 10 日の間に、認定してほしい科目を記載して大学院担当にメールでお知らせください。

#### 4. 学習支援システムの利用

授業を補助するツールとして、「学習支援システム」を導入しています。教材の配布、レポートや小テストの実施、授業に関するお知らせ等を行うシステムです。学習支援システムを通じた教材の配布、レポートや小テストの実施等はすべての授業で利用しているわけではなく、授業によって利用の有無・方法等が異なりますので授業毎に確認してください。

学習支援システムへのアクセス

法政ポータルサイト(Hoppii) > 時間割 > 時間割に表示される「W」をクリックしてください。

<https://hoppii2025.hosei.ac.jp/portal/>

学習支援システムに関する質問は、Hoppii トップページのリンクメニューよりアクセスしてください。

注意事項

- 法政ポータルサイト Hoppii の「学習支援システム」と「情報システム」は別のシステムです。履修登録より実際の授業の開始が先行しますが、「学習支援システム」に科目を登録(仮登録)したからといって履修登録(本登録)されたわけではありません。履修登録(本登録)は必ず「情報システム」から行ってください。情報システムで履修登録(本登録)した授業情報は、翌日中に学習支援システムに連携されます。履修登録(本登録)は、余裕を持って完了させてください。
- 上述の通り、情報システムから学習支援システムへの連携処理にはタイムラグがあります。即日中に授業教材の参照やダウンロード、与えられた課題や小テストの実施、授業に関するお知らせなどを受け取るためには、学習支援システムに授業科目を自身で仮登録し、次に情報システムに履修登録(本登録)してください。仮登録の方法は法政ポータルサイト(Hoppii)に掲載のマニュアル等で確認できます。
- 委託研修生、研究生、研究員、科目等履修生も学習支援システムを利用できます。統合認証 ID とパスワードの交付を受けてください。

# 成績について

## 1. 成績発表

学業成績は、授業科目ごとに行う試験その他の方法(レポート、口頭試問等)によって評価されます。

試験およびレポート提出等は、授業担当教員が指示します。

成績評価基準に沿って付けられた評価は、春学期末および秋学期末の 2 回に分けて、以下のとおり発表されます。

### (1) 修了発表

修了の発表は、Web による成績通知書の配付をもって行います。

修了の決定は、成績通知書の「判定結果」欄に「修了」と表記することをもって通知いたします。

#### < 注意事項 >

修士 2 年生は修了発表日前に必ずキャリア就職システムで「進路決定報告」を行う必要があります。

「進路決定報告」を行わないと成績通知書を Web で確認することができません。

### (2) 在学成績発表

在学生の成績通知書は Web で配付いたします。

成績通知書は、新年度の履修科目の登録等の資料となるため、保管して参考にしてください。

## 2. 成績調査

登録した科目を受験し、また、レポート提出等の定められた義務を果たしているにもかかわらずその評価に疑問がある場合は、成績調査の申請を受け付けます。調査の申請は成績発表日より 2 日以内です。期限日以降の申し出については調査を行いませんので注意してください。

## 3. 成績評価制度

### (1) 成績評価基準、GP 換算および合否 (2019 年度以降)

#### ① 成績評価基準

成績評価	素点評価する場合	素点評価しない場合	GP	合否
S	100 ~ 90 点	学習目標を満たし卓越した成績をあげた	4.0	合格 (単位修得)
A+	89 ~ 87 点	学習目標を満たし優秀な成績をあげた	3.3	
A	86 ~ 83 点		3.0	
A-	82 ~ 80 点		2.7	
B+	79 ~ 77 点		2.3	
B	76 ~ 73 点	おおむね学習目標を満たしている	2.0	
B-	72 ~ 70 点		1.7	
C+	69 ~ 67 点	最低限の学習目標を満たしたが不十分な点も見られる	1.3	
C	66 ~ 63 点		1.0	
C-	62 ~ 60 点		0.7	
D	59 ~ 0 点	学習目標を満たしていない	0.0	不合格
E	未受験、採点不能	未受験、採点不能		

**②上記以外の成績評価 (2019 年度以降)**

成績評価	内容	GP の付与及び GPA への算入
RR	他大学院及び入学前の修得単位認定	行わない
RS	留学による外国大学の修得単位認定	行わない
P	合格 (研究科の定めるところによる)	行わない
F	不合格 (研究科の定めるところによる)	行わない

**(2)GPA 制度****① GP (Grade Point) について**

上記成績評価(未受験・採点不能の評価 E を含む)に、それぞれ GP(Grade Point)がつきます。成績評価と成績評価基準と GP(Grade Point)の関係は「(2)成績評価基準、GP 換算および合否(2019 年度以降)」の表とおりです。なお、RR、RS、P、F は GP の付与及び GPA の算入はしません。

**② GPA (Grade Point Average) について**

GPA は個々の学生が受講した全科目の習熟度の平均を以下の計算結果により表すもので、成績通知書、成績証明書などに表示されます。計算値は小数点以下第 3 位を四捨五入して表記します。GPA は学習成果を総合的に判断できる指標を提供し、学習意欲の向上や学習計画などの自己管理に資することを目的としています。また、奨学金の学内選抜などに利用される場合があります。不合格の D 評価(0 ~ 59 点)や E 評価(未受験、採点不能)の科目(どちらも GP は 0.0 ポイント)も GPA 算出の計算式に含まれますので注意してください。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した科目の GP} \times \text{その科目の単位数の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

**③ GPA に算入されない科目等について**

- RR、RS、P、F で評価された科目は GPA に算入されません。
- 修士論文および博士論文は単位制科目ではないので、GPA に算入されません。
- 「〇〇特別研究」「〇〇特別演習」「〇〇特別実験」は GPA の対象にはなりません。
- 情報科学研究科設置科目「インターンシップ」は GPA の対象にはなりません(P/F の評価になります)。

**④ GPA を表示する書類について**

- 成績通知書:各セメスターの GPA、年度の GPA および直近のセメスターまでの在学期間を通算した GPA
- 成績証明書:直近のセメスターまでの在学期間を通算した GPA

# 学位論文について

## 1. 修士課程

### 修士論文の審査

修士論文の審査は各専攻が設定した日程で行われます。  
事務から必要なお知らせは Hoppii でお知らせします。

### (1) 情報科学研究科

情報科学研究科の修士論文の評価は、1. 修士論文抄録、2. 修士論文、3. 修士研究発表会によって与えられます。修士論文に関する作成基準や提出日程は別途掲示します。

- ・ 学位論文の評価基準
  - 専門分野の現状と問題点を正しく認識し、その解決に客観的な視点から取り組んでいる。
  - 学外の学術誌、学術会議等で発表(予定を含む)を行い、評価を得ている。

### **\* 情報科学研究科修士課程学位審査内規**

(修士論文の審査基準)

第 2 条 修士論文は、広い視野に立ち専門分野における深い学識と研究能力を有することを示すものとする。

学生は修士の学位申請にあたっては、修士論文学位審査を経て、研究科教授会の承認を必要とする。

(修士論文学位審査)

第 3 条 修士の学位申請に対し、その受理の可否を決定し、審査にあたる主査と 2 人の副査を定める。

学位申請者は、以下の項目について、修士論文発表会における学位申請論文に関する諮問を受ける。

- (1) 専門分野の現状と問題点を正しく認識し、その解決に客観的な視点から取り組んでいる。
- (2) 学外の学術誌、学術会議等で発表(予定を含む)し評価を得ている。

以上に関する評価結果に基づき、情報科学研究科教授会において当該学生に修士の学位を授与することの可否を議決する。

### (2) 理工学研究科

#### ・ 学位論文審査基準

本学学位規則が求める申請要件を満たし、研究科および、各専攻が定める手続きの下に提出された学位申請論文は、以下に記す基準に従って審査される。

本研究科の各専攻会議(大学院教室会議)は、修士の学位申請に対し、その受理の可否を決定し、審査に当たる主査と1人以上の副査を定める。学位申請者は、以下の項目について、主査と副査による査読または予備審査、および修士論文発表会における学位申請論文に関する試問を受ける。

### **\* 理工学研究科修士課程学位審査内規**

(修士論文の審査基準)

第 2 条 修士論文は、広い視野に立って精深な学識と専門分野における研究能力を有することを示すものとする。

- ・ 修士論文作成基準

修士論文は pdf データで提出する。

- ① ファイル名は「学生証番号[スペースなし]氏名.pdf」とする。(例) 25R0000 法政太郎.pdf
- ② Acrobat5.0 以上で読めること。LaTeX を使った数式や特殊記号が含まれる場合、「フォントを含める」オプションを付けて pdf 化する。
- ③ データ容量は 20MB 以下とする。
- ④ 原稿は和文、または欧文とする。
- ⑤ 表紙には以下の事項を記載する

「2026 年度修士論文」、論文題名、指導教員、所属、学生証番号、氏名、フリガナ

### (3) 両研究科共通

修士論文は貴重な学術成果であり、後で必要となる場合があるので、各自でも必ず保管してください。

修士論文と要旨(抄録)については、原則非公開となります。公開を希望する学生は、大学院担当から別途ご案内する手続きを行ってください(最終在籍年度の 2 月第 3 金曜日まで)。

## 2. 博士後期課程

本学博士後期課程 3 年次に在学中で、所定の科目を履修済または履修見込の者および本学博士後期課程に 3 年以上在学し、所定の科目を履修した後、退学して 3 年以内の者が博士の学位を取得する場合を、「課程による者の学位」として課程博士と呼び、上記以外の者が博士の学位を申請する場合を、「課程によらない者の学位」として論文博士と呼びます。

申請予定者は、申請の前に必ず「博士学位申請ガイド」を読んでください。博士学位申請ガイドと申請書様式は大学院のウェブサイトからダウンロードできます。

【博士論文の申請について(小金井大学院)】[https://www.hosei.ac.jp/gs/shuryosei/hakase\\_ronbun\\_koganei/](https://www.hosei.ac.jp/gs/shuryosei/hakase_ronbun_koganei/)

情報科学研究科の学生は予備審査が必要です。上記ページ下部の「予備審査」項目より、「博士学位予備審査ガイド」をダウンロードし、よく確認してください。

正式な申請手続きを行う前に、必ず、指導教員と学位申請についての打合せを行ってください。

専攻によっては、正式な申請手続きの前に予備審査を行う場合があります。提出書類をもって論文受理の可否を審議し、受理が決定した場合は審査へ移行します。

学位授与日	申請期日	学位授与日
9 月授与	4 月 27 日まで	9 月 15 日
3 月授与	11 月 30 日まで	3 月 24 日

### (1) 情報科学研究科

情報科学研究科の博士後期課程の学位申請は、学位論文作成着手申請・予備審査申請、本審査申請の手順で行います。申請予定の方は必ず予備審査を申請してください。また、手続きを行う前に、必ず指導教員と打合せを行ってください。予備審査申請者は、以下の書類を大学院担当にメール等で提出します。提出書類を以って学位申請への可否を審議し、審査を通過した場合は、本審査申請を行います。本審査申請後、審査委員会における審査の結果、受理が決定した場合には、審査委員会の中に主査と 2 人以上の副査からなる審査小委員会を設けます。審査小委員会では、学問的な内容に関する審査、試験、試問および評価を行います。以上により、審査小委員会は審査の結果を審査委員会に報告し、審査委員会は博士の学位を授与することの可否を議決します。

**①予備審査 提出書類**

提出書類	備考
① 学位論文作成着手申請書	指定様式、PDF形式
② 学位論文予備審査申請書	指定様式、PDF形式
④ 論文 *	PDF形式

\*論文

- ・ 使用言語は指導教員の指示に従う。
- ・ 書式は使用する言語により、下記扱いとする。

日本語の場合、文字は10.5ポイント、行間はシングルスペース、段組はシングルカラム。

英語の場合、文字は10ポイント、行間はダブルスペース、段組はシングルカラム。

**②予備審査申請期限**

予備審査を申請する方は下記期日までに(1)の提出書類を大学院担当にメールで提出する必要があります。指導教員と相談の上、余裕をもって大学院担当までメールでお問い合わせください。

	期日	学位授与日
9月授与	前年度の2月末日まで	9月15日
3月授与	当該年度の8月末日まで	3月24日

**③本審査 提出書類**

提出書類	課程博士	論文博士	備考
① 博士論文審査願（課程博士）	○	—	指定様式、PDF形式
① 博士学位申請書（論文博士）	—	○	指定様式、PDF形式
② 博士論文目録	○	○	指定様式、PDF形式
③ 論文	○	○	PDF形式
④ 論文要旨（4,000字以内）	○	○	指定様式、PDF形式
⑤ 履歴書	○	○	指定様式、PDF形式
⑥ 研究業績	○	○	指定様式、PDF形式
⑦ 副論文目録（必要に応じて）			指定様式、PDF形式
⑧ 副論文（必要に応じて）			
⑨ 電子公開複写許諾書	○	○	指定様式、PDF形式
⑩ 電子公開に関する報告書	○	○	指定様式、PDF形式
⑪ 住民票（論文博士のみ提出）	—	○	原本を大学院担当へ郵送または窓口提出
⑫ 最終学歴証明書（論文博士のみ提出）	—	○	

- ・ 「論文のデータファイル」の1ページ目には、論文題目と氏名、及びに、法政大学審査学位論文であることを記載した表紙データを収めます。
- ・ 「最終学歴証明書」とは、卒業証明書、修了証明書、学位証明書、等です。

**※情報科学研究科博士後期課程学位審査内規**

(目的)

第1条 本規定は、法政大学学位規則第5条に定める博士論文の審査のため、博士後期課程における博士学位取得に必要な審査基準を定める。

(博士論文の審査基準)

第 2 条 博士論文の審査にあたっては、法政大学学位規則第 5 条に定める要件に加え、次の 3 つの審査過程を経て、全ての審査において審査委員会および研究科教授会の承認を必要とする。

- (1) 論文作成資格審査
- (2) 論文予備審査
- (3) 学位審査

(論文作成資格審査)

第 3 条 学生は希望する研究題目について研究指導教員と協議の上、指定された学習・研究を行う。

研究指導教員によって博士論文作成のための研究に着手可能と判断された場合には、博士論文の予定題目を決定し、研究計画を作成し研究科に提出する。研究科委員会において研究計画が承認された学生は、博士候補学生となり、研究指導教員の指導を受けて、研究を行う。学生はこの論文作成の資格審査基準として下記の規定のいずれか一つを満たさなければならない。尚、下記条件の適用は申請からさかのぼり 6 年以内での業績とする。

(1) 別紙にさだめる国内外の学術誌(注 1)および国際学術会議議事録(注 2)を対象として、下記に示す研究業績のうち、いずれか一つを満たすこと。論文についてはいずれも筆頭著者であり、国際学術会議においては発表者でなければならない。

- a) 学術誌 2 件以上(発行予定を含む)
- b) このうち 1 件は、国際学術会議議事録 2 件で代えることができる(発行予定を含む)

(2) 学術誌 1 件以上の発行と、その研究が筆頭者として優れた成果を上げ評価(学術賞等の受賞あるいは確定)されること。

(3) 学術誌 1 件以上の発行と、その研究の筆頭者として、その成果を計算モデルとして実装・稼働させ、その一部あるいは全部が社会的な評価(実用化等)を得たことが立証されること。

(注 1) 学術誌: Journal あるいは Transaction

(注 2) 議事録: Proceedings

(論文予備審査)

第 4 条 前記第 3 条の規定により、博士論文の作成に十分な研究成果が得られ、論文の完成が見込まれた場合研究指導教員の承認を得て、学生は論文の予備審査を申し出る。

予備審査の請求があった場合、研究科において、予備審査委員会を設置する。主査は研究指導教員以外から教授会が指名する。副査は主査が指名する。予備審査委員会は研究指導教員を含む 3 名以上の、同一あるいは関連する領域を専門とし、且つ、当該大学において博士学位授与の資格を有する教員で構成する。審査委員は、2 名以上の情報科学研究科の教員を構成員として、国内外の他大学における研究科担当教員が加わることができる。

予備審査の結果、学位論文として提出可能であると判断された場合、研究指導教員の指導を受けて、論文完成に努める。論文の完成後、論文の学位審査を申し出る。

(学位審査)

第 5 条 学位審査については、研究科教授会に審査委員会を設置し、論文審査を行う。審査の結果、学位論文として認められると判断された場合、公開の審査会において学生は発表する。論文内容、発表、質疑応答を含めて総合的に判断し、最終的な合否を研究科教授会に報告するものとする。学位審査委員構成は予備審査と同等とする。

付 則

- 1 第3条(1)の基準については2017年3月学位授与分の予備審査請求から適用する。

※博士学位申請資格対象となる学術誌及び学術会議基準

博士学位申請にあたり、資格申請の評価基準となる研究成果は、下記の条件を満たすものとする。

1. 発表される論文は、下記の規定を満たす学術組織より発行されたものとし、いずれも査読付き審査プロセスを経たものとする。
2. 研究領域が新しいために、その研究を公表する学術組織が少ないと研究科委員会で判断された場合は、下記の学術組織に限定されない。但し、この場合は全ての査読審査結果を予備および学位審査委員会に提出し、その査読システムが有効であるか否かの判断を得なければならない。

(学術団体)

- (1) 国内 学協会に登録された学術組織。但し、学術誌のみを対象とする。
- (2) 海外 IEEE および ACM 学会誌あるいは当該学会が支援(注3)する国際会議。
- (3) その他 論文査読システムに関して前記学術団体の実施するものと同等の規定を有し、該当する専門領域に関して10年以上の国際的な論文刊行実績を持つ組織。但し、学術誌のみを対象とする。また、申し出があった場合は教授会で審議する。

(注3) 支援:論文発行機関となること。

**(2)理工学研究科**

## ・ 学位論文審査基準

理工学研究科および工学研究科において、学位規則が求める申請要件を満たし、研究科および、各専攻が定める手続きの下に提出された学位申請論文は、以下に記す基準に従って審査されます。

博士の学位申請に対し、その受理の決定および論文審査のため、本研究科内に審査委員会を置き、審査委員長は原則として研究科長が務めます。受理の決定に当たっては、学位申請論文が以下の要件を満足しているかについて確認します。ただし、以下の要件に該当しない特別な事例については、審査委員会で審議し、受理の可否を決議します。

**①申請**

提出書類	課程博士	論文博士	備考
① 博士論文審査願（課程博士）	○	—	指定様式、PDF形式
① 博士学位申請書（論文博士）	—	○	指定様式、PDF形式
② 博士論文目録	○	○	指定様式、PDF形式
③ 論文	○	○	PDF形式
④ 論文要旨（4,000字以内）	○	○	指定様式、PDF形式
⑤ 履歴書	○	○	指定様式、PDF形式
⑥ 研究業績	○	○	指定様式、PDF形式
⑦ 副論文目録（必要に応じて）			指定様式、PDF形式
⑦ 副論文（必要に応じて）			
⑧ 電子公開複写許諾書	○	○	指定様式、PDF形式
⑧ 電子公開に関する報告書	○	○	指定様式、PDF形式
⑨ 住民票（論文博士のみ提出）	—	○	原本を大学院担当へ郵送または窓口 に提出
⑩ 最終学歴証明書（論文博士のみ提出）	—	○	

- ・ 「論文のデータファイル」は、PDF形式での提出を必須とします。
- ・ 「論文のデータファイル」の1ページ目には、論文題目と氏名、及びに、法政大学審査学位論文であることを記載した表紙データを収めます。
- ・ 「最終学歴証明書」とは、卒業証明書、修了証明書、学位証明書、等を指します。

**※理工学研究科博士後期課程学位審査内規**

(目的)

第1条 本規定は、法政大学学位規則第5条に定める博士論文の審査のため、博士後期課程における博士学位取得に必要な審査基準および申請受理基準を定める。

(博士論文の審査基準)

第2条 博士論文の審査にあたっては、法政大学学位規則第5条に定める授与要件に加え、次の各号に掲げる項目に留意する。

- (1) 博士論文の独創性
- (2) 博士論文の体系性と一貫性
- (3) 研究テーマの意義の適切性と有効性

(学位申請の受理基準)

第3条 法政大学学位規則第15条に定める審査委員会では、法政大学学位規則第13条に基づく博士の学

位申請の受理基準を、次のように定める。

博士論文に関する専門およびこれに関連する領域について、国内外の権威ある学術誌(注 1)、国内外の権威ある学術会議の議事録(注 2)、あるいは同等と認められるもの(公刊著書など)として公表された(予定を含む)業績が 3 件以上あること。また、これら業績のうち、少なくとも一つは筆頭著者(またはこれに相当)であること。

(課程によらない者の博士の学位申請の受理基準)

第 4 条 法政大学学位規則第14条に基づき、課程によらない者の博士の学位申請の基準は、上記学位申請の受理基準に準じる。ただし、受理基準となる業績については、申請者の業績であり博士の学位論文とすることに共著者が同意していることとする。

(注1) 審査付きプロセスを有する学術誌、Journal あるいは Transaction

(注2) 審査付きプロセスを有する議事録、Proceedings

審査委員会における審査の結果、受理が決定した場合には、審査委員会の中に主査と2人以上の副査からなる審査小委員会を設けます。審査小委員会では、学問的な内容に関する審査、試験、試問および評価を行います。

以上により、審査小委員会は審査の結果を審査委員会に報告し、審査委員会は博士の学位を授与することの可否を議決します。

### (3) 両研究科共通

#### ① 審査料

審査委員会において受理が決定した後に、審査料の振込方法について履歴書に記載のメールアドレス宛にご連絡いたします。金融機関にて納入後、納入済票を大学院担当へ提出してください。審査料の納入をもって正式な受理とし、審査小委員会によって審査が開始されます。

【課程博士】

- ① 博士後期課程在学学生 — 無料
- ② 退学後 3 年以内の者 — 11 万円

【論文博士】

- ① 本学専任教職員(本学教務助手含) — 11 万円
- ② 上記以外の者 — 22 万円

#### ② 審査

本学学位規則に基づいて審査を行います。学位規則は大学院ホームページにてご確認ください。

#### ③ 学位の授与

論文審査および最終試験に合格すれば 3 月または 9 月に学位が授与されます。

9 月学位授与式 2026 年 9 月 12 日(土)

3 月学位授与式 2027 年 3 月 24 日(水)

#### ④ 論文の保存・論文作成形式

学位が授与された博士論文は法政大学図書館および法政大学大学院にて永久保存いたしますので、製本業者による上製本(ハードカバー)したうえで、3 月修了者は 3 月 24 日、9 月修了者は 9 月 15 日までに、2 部提出してください。表紙および背表紙(黒色)に論文題名と氏名を記載(金色)してください。詳細は学位申請ガイドを確認してください。

#### ⑤ 論文のインターネット公表

2013 年 4 月 1 日から学位規則(文部省令第 9 号)の一部を改正する省令が施行され、論文のインターネット公表が義務化されました。論文はインターネットによる全文公表が前提です(本学学位規則第 29 条)。学位が授与された博士論文は、学位授与後1年以内に、法政大学学術機関リポジトリを経由してインターネット上に公開され、国立国会図書館にも収蔵されます。

9 月修了者は 9 月 15 日、3 月修了者は 3 月 24 日までに最終版のデータファイルを提出してください。

データファイルの1ページ目には、「法政大学審査学位論文」の文字と論文題名と氏名を記載した表紙データを収めてください。また、論文のファイル名は、「氏名 .pdf」としてください。

詳細は学位申請ガイドを確認してください。

## ⑥その他

- ・ 一旦納入した論文審査料はいかなる場合でも返却しません。
- ・ 学位授与可否については、申請者に直接連絡します。
- ・ 学位申請後、審査期間中に住所を変更した場合は、必ず大学院担当に届け出てください。
- ・ 学位を授与された者は「法政大学大学院紀要」に博士学位論文の要旨および審査結果の要旨を掲載することが義務づけられています。

## ※法政大学学位規則

(論文の公表)

第29条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、本学又は独立行政法人大学評価・学位授与機構の協力により、その論文をインターネットにより公表しなければならない。ただし、博士の学位を授与される前にすでに公表したときはこの限りでない。

- 2 前項の規定により論文を公表するときは、「法政大学審査学位論文」である旨を明記しなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、研究科長会議の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。ただし、やむを得ない事由が無くなった場合には、博士の学位を授与された者は当該博士論文の全文を、公表するものとする。
- 4 前項の規定により要約を公表する場合は、「法政大学審査学位論文の要約」と明記しなければならない。

<学術機関リポジトリとは>

大学に所属する教員や大学院生等の研究者、大学に付随する研究機関が生み出す教育・研究成果(学位論文、学術雑誌掲載論文、紀要など)を電子化し収集・蓄積・保存し、学外に向けて広く発信する電子アーカイブシステムです。本学は、国立情報学研究所(NII)の委託事業(次世代学術コンテンツ基盤の共同構築)に採択され、2007 年度より本格運用を開始しています。

## 3. 博士後期課程早期修了の申請について

### (1)情報科学研究科博士後期課程早期修了の申請について

#### ①早期修了が認められる必要要件

本学大学院に1年以上在学し、各研究科専攻が定める大学院学則第22条及び第26条の修了要件を満たし、かつ「優れた業績」又は「優れた研究業績」を上げたと認められた者でなければならない。

#### ② 手続き

##### 1. 早期修了の申請

早期修了を希望する学生は、所属研究科長宛に以下の書類を添えて申請する。

申請期限 3 月修了: 当該年 6 月末日まで

9 月修了: 前年度の 12 月末日まで

申請書類 (1)早期修了申請書

(2)「学位審査内規」に定める業績

(3)指導教員からの当該学生に関する研究活動上の所見

## 2. 早期修了の適格認定

研究科長が選任した3名以上の教員によって構成される「早期修了判定委員会」により、早期修了の要件たる「優れた業績」又は「優れた研究業績」の適格性を判断し、その結果を申請者に通知する。

通知期限 3 月修了 : 当該年度の 9 月末日まで

9 月修了 : 前年度の 2 月下旬まで

## 3. 博士の学位申請

早期修了の適格認定を受けた学生は、「博士学位申請ガイド・予備申請ガイド」に従い、必要書類を添えて申請する。

申請期限 3 月授与 : (予備申請) 当該年度の 8 月末日まで / (本申請) 当該年度の 11 月 28 日まで

9 月授与 : (予備申請) 前年度の 2 月末日まで / (本申請) 当該年度の 4 月 25 日まで

## 4. 早期修了の判定

研究科教授会は、3 月又は 9 月修了の判定時期に、早期修了(学位授与)の最終的な判定を行う。

可⇒

早期修了の適格性を認める学生に対しては、研究科教授会の判断により、早期修了時期以降の配当授業科目について前倒し若しくは代替履修させるか、又は業績等の成果をもって修得単位に換算認定することができる。

不可⇒

早期修了の要件を満たさなかった場合には、研究科専攻で定める修了所要単位を修得していても、本人が希望した年次・学期での修了を認めず、次期の半年間以上の在学を義務づけるものとする。

「優れた業績」又は「優れた研究業績」の認定要件

1 修士課程入学以降、早期修了申請時まで複数の学会発表及び学術誌への投稿論文があること。

⇒ 「情報科学研究科博士後期課程学位審査内規、博士学位申請資格対象となる学術誌及び学術会議基準」参照

2 研究科長が選任した 3 名以上の教員によって構成される「早期修了判定委員会」により「優れた研究業績を上げた」と評価されること。

(参考)

法政大学大学院早期修了に関する規則(規定 1195 号)、情報科学研究科早期修了に関する学位審査内規、情報科学研究科博士後期課程学位審査内規、博士学位申請資格対象となる学術誌及び学術会議基準

## (2)理工学研究科博士後期課程早期修了に関する手続きについて

### ①早期修了が認められる必要要件

本学大学院に1年以上在学し、各研究科専攻が定める大学院学則第22条及び第26条の修了要件を満たし、かつ「優れた業績」又は「優れた研究業績」を上げたと認められた者でなければならない。

### ②手続き

1. **早期修了の申請** 早期修了を希望する学生は、所属専攻主任・副主任経由で大学院担当に以下要領で申請する。

専攻主任・副主任から大学院担当への申請期限 3月修了:当該年度の6月末日まで

9月修了:前年度の12月末日まで

申請書類(1)早期修了申請書

(2)「学位申請の受理基準」に定める業績

(3)指導教員からの当該学生に関する研究活動上の所見

2. **早期修了の適格認定** 「早期修了判定委員会」により、早期修了の要件たる「優れた業績」又は「優れた研究業績」の適格性を判断し、その結果を申請者に通知する。早期修了判定委員会は、研究科長を委員長とし、研究科長が専攻主任会議のメンバー内から3名の委員を選出し、計4名で構成する。専攻主任・副主任に早期修了申請者(研究指導責任者)が含まれる場合には、委員から除外する。

適格認定結果通知期限 3月修了:当該年度の9月末日まで

9月修了:前年度の2月末日まで

3. **博士の学位申請** 早期修了の適格認定を受けた学生は、「博士学位申請ガイド」に従い、必要書類を添えて申請する。

申請期限 3月授与:当該年度の11月28日まで

9月授与:当該年度の4月25日まで

4. **早期修了の判定** 研究科教授会は、3月又は9月修了の判定時期に、早期修了(学位授与)の最終的な判定を行う。

可⇒

早期修了判定委員会にて早期修了の適格性が認められ、さらに学位審査小委員会が設置された後、早期修了に関わる研究指導科目の前倒し履修の申請を行うことができる。

不可⇒

早期修了の要件を満たさなかった場合には、研究科専攻で定める修了所要単位を修得していても、本人が希望した年次・学期での修了を認めず、次期の半年間以上の在学を義務づけるものとする。

「優れた業績」又は「優れた研究業績」の認定要件

1 理工学研究科博士後期課程学位審査内規第3条に定める学位申請の受理基準を満たすこととする。博士後期課程在学中に、学術誌及び学術会議の議事録、あるいは同等と認められるもの(刊行著書)のうち少なくとも1件は公表済み、または早期修了判定を行う教授会までに公表が確定していること。

⇒(参照)「学位申請の受理基準」

2 「早期修了判定委員会」により「優れた研究業績を上げた」と評価されること。

(参照)「学位申請の受理基準」

博士論文に関する専門およびこれに関連する領域について、国内外の権威ある学術誌[1]，国内外の権威ある学術会議の議事録[2]，あるいは同等と認められるもの（公刊著書など）として公表された（予定を含む）業績が3件以上あること。

また，これら業績のうち，少なくとも一つは筆頭著者（またはこれに相当）であること。

[1] 審査付きプロセスを有する学術誌，Journal あるいは Transaction

[2] 審査付きプロセスを有する議事録，Proceedings

(参考)

法政大学大学院早期修了に関する規則(規定 1195 号)

理工学研究科博士後期課程学位審査内規

理工学研究科早期修了に関する学位審査内規

## 研究者倫理の向上に向けて

法政大学は、不正行為を抑止する環境整備として、研究倫理教育の実施による研究者倫理の向上を推進しています。院生各位は、研究者倫理に関する規範意識を身につけるため、図書や e-learning のツールを使って、研究倫理教育の学習を行うことが求められています。

研究倫理教育の基本を学べる方法をご紹介します。

- ◆ 『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編，丸善出版）

※文部科学省ホームページ「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－【日本語テキスト版】」（PDF:1.78MB）（※日本学術振興会ウェブサイトへリンク）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/jinzai/fusei/1353972.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/1353972.htm)

- ◆ eL CoRE（日本学術振興会、e-learning）

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』をもとに、時間と場所を選ばずに研究倫理を学修できるように作成した e ラーニング教材。平均学習時間は約 90 分。受講料は無料。

新入生は全員受講しますので、各研究科からのご案内をご確認ください。

<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>

### <研究者倫理規範の具体例>

#### ■ 研究の妥当性

計画する研究が、修士や博士などの学位取得のためのものであれ、国際的な大規模プロジェクトのようなものであれ、研究には科学的な妥当性が必要です。研究の科学的な妥当性や独創性などを確認するためには、先行研究を入念に調査・分析することは当然ですが、関連する学協会が定める倫理綱領・行動規範などと、自分が計画している研究の目的に整合性があるかどうかも見定める必要があります。

< 出典 > 日本学術振興会『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』

#### ■ 研究活動における不正行為

##### I 捏造 (Fabrication)

存在しないデータ、研究結果等を作成すること。

##### II 改ざん (Falsification)

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

##### III 盗用 (Plagiarism)

他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。

##### IV その他

同じ研究成果の重複発表、論文著作者が適正に公表されない不適切なオーサーシップなども不正行為の代表例と考えることができます。

※二重投稿は、適切な引用がされていない場合、自己盗用とみなされることがあります。

< 出典 > 文部科学省『研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン』

(参考) 研究活動上必要な研究倫理教育の案内「責任ある研究活動のために ～研究倫理教育のご案内～」

[https://www.hosei.ac.jp/application/files/4116/4481/7571/R\\_leaflet\\_ForResponsibleResearchActivities.pdf](https://www.hosei.ac.jp/application/files/4116/4481/7571/R_leaflet_ForResponsibleResearchActivities.pdf)

# 教職・資格について

## 1. 専修免許状

教育職員免許状取得に関する情報は Web 掲示板にてお知らせしますので、各自でよく確認してください。

### (1) 専修免許状とは

一種免許状取得済(所要単位を修得している場合も含む)で、専修免許に必要な単位を修得し、修士課程を修了することにより、申請取得できる上位免許です。

### (2) 専修免許状取得要件

中学校・高等学校の専修免許状を取得しようとする者は、課程認定を受けている所属専攻の開設科目を 24 単位以上修得し、修士課程を修了する必要があります(その際の基礎資格は、「修士課程修了」となります)。

また、修士論文等を提出せず、今年度修了できない場合でも、研究科に 1 年以上在学し、所属専攻の開設科目を 30 単位以上修得していれば、基礎資格を有するとみなされます。該当者は、修得した所属専攻開設科目のうち教職課程を 24 単位以上修得していれば、専修免許状を取得することができます(その際の基礎資格は、「修士課程 1 年以上在学 30 単位以上修得」となります)。

※教育職員免許法および同法施行規則が改正され、2019 年 4 月 1 日より施行されました。法改正に伴い専修免許の申請における適用法令が以下の通りとなります。

- ・ 2018 年度以前入学者:旧法
- ・ 2019 年度以降入学者:新法

なお、新法・旧法ともに専修免許の取得に係る基礎資格(免許取得要件)は従来通りです。

### (3) 教育職員免許状一括申請について

大学が集中している東京都では、卒業をもって教育職員免許状の申請を受付、審査し、採用に間に合うよう免許状を授与することは困難な状況にあるため、東京都教育委員会では、東京都内に所在する大学等の卒業生のために、免許状の申請を大学ごとにとりまとめて審査し、一括して免許状を授与する方法をとっています。

今年度の申請受付期間は 7 月上旬～中旬の予定ですので詳細は 6 月中旬以降、Web 掲示板にてお知らせいたします。

＜一括申請対象者＞

- 中学校・高等学校の一種免許状を取得済で、教育職員免許状申請年度 3 月に中学校・高等学校の専修免許状の取得要件を満たす見込みの者
- 中学校・高等学校の一種免許状を未取得で、教育職員免許状申請年度 3 月に一種免許状と専修免許状の両方の取得要件を満たす見込みの者

### (4) 教育職員免許状個人申請について

上記の＜一括申請対象者＞以外の者については、個人申請となります。個人申請の場合は、申請者の居住地の都道府県教育委員会に申請します。詳細は、各自が居住する都道府県教育委員会に問い合わせてください。ただし、東京都の場合、一括申請の取り扱いに伴い、毎年 2 月 1 日から 4 月 15 日まで、個人申請の受付を停止するので注意してください(なお、都内の国公立学校に教員として採用が内定している者は

受け付けるとの事ですので、各自で東京都教育庁へ問い合わせてください。

## 2. 一種免許状

中学校・高等学校の一種免許状を未取得の者が、修士課程および博士後期課程在学中に「一種免許状」を取得するための手続きは、以下のとおりです。また、一種免許状未取得の者で、一種免許状と同一学校種教科の専修免許状を取得される場合、一種免許状の取得要件も満たす必要があります。以下のとおり手続きしてください。

### (1) 中学校および高等学校の一種免許状の取得方法

各学部で開講している教職科目を受講し、必要単位を修得してください。教職科目を設置している学部の「科目等履修生」として、科目を受講します。

### (2) 教職および教科に関する授業科目の受講登録

① 受講登録期間 4 月 7 日(火)～ 10 日(金)

当該学部教授会の議を経て、教職および教科に関する学部授業の受講可否を判断します。

上記期間以外は追加・変更・削除を含み一切受け付けません。

受講可否が決定されるまで、授業には先んじて出席してください。

② 提出書類 「受講願」(提出書類様式は Web 掲示板に掲載)

③ 受講願提出先 大学院担当にメールで提出

③ 教職課程費および受講料

#### ● 教職課程費

・大学院において一種免許取得に係る科目の受講を希望する学生は、以下の区分に基づいて教職課程費を納入する必要があります。

入学年度	登録料	対象
2017 年度以降 入学者	[ 新規登録料 ] 30,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>他大学学部出身者および本学通信教育部出身者。</li> <li>本学学部出身者であるが、学部在籍時に教職課程費を納入したことがない者</li> <li>本学学部在籍時に教職課程費を納入したことがあるが、学部卒業後 1 年以上経過して大学院へ入学する者。</li> </ul>
	[ 継続登録料 ] 15,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学学部在籍時に教職課程費を納入したことがあり、学部卒業と同時に大学院へ入学する者。</li> </ul> ※修士 2 年次から一種免許取得に係る科目の履修を開始した場合でも、登録料の納入区分は「継続」として扱います。
2014 年度～ 2016 年度入学者	[ 新規登録料 ] 30,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>他大学学部出身者および本学通信教育部出身者。</li> </ul>
2013 年度以前 入学者	不要	<ul style="list-style-type: none"> <li>出身大学に関わらず、納入の必要はありません。</li> </ul>

※教職課程費の納入により、教育実習費(18,000 円)の納入は不要となります。実習校が教育実習費を必要とした場合は、直接実習校へお支払いいただきます。

※一度登録料を納入いただくと、現在所属の課程に在籍中は再度、教職課程費を納入する必要はありません。

※専修免許取得に係る大学院専門科目の受講にあたっては、教職課程費は発生しません。

● 受講料

入学年度に関わらず、教職科目受講者は全員、以下の区分に基づいて受講料を納入する必要があります。

<注意事項>

- ・ 教職および教科に関する授業科目は、事前に指導教員または専攻主任の承認を得て受講することができます。1年次から計画をたてて履修してください。
- ・ 大学院の授業科目と時間が重複するものについては許可しません。

出身区分	受講料	教育実習事前指導	教育実習
他大学学部出身者	4単位科目 5,000円	1,600円	3,400円
本学通信教育部出身	2単位科目 2,500円		
本学学部出身者	4単位科目 2,500円	800円	1,700円
	2単位科目 1,250円		

- ・ 教育職員免許法および同法施行規則が改正され、2019年4月1日より施行されました。法令改正に伴い、専修免許状の申請における適用法令が以下の通りとなります。

2018年度以前入学者:旧法

2019年度以降入学者:新法

なお、新法・旧法ともに専修免許状の取得に係る基礎資格(免許状取得要件)は従来通りです。

- ・ 本学学部出身者で大学院に入学し、教職および教科に関する授業科目を履修する場合は、大学院入学年度の入学者に適用される課程表に沿って科目を履修してください。本学学部在籍当時の課程表は適用されません。
- ・ 1種教育職員免許については、学部担当の窓口へお問い合わせください。
- ・ 博士後期課程在学生在が専修免許を取得したい場合、一括申請できませんので個人申請してください。
- ・ 博士後期課程在学生在が専修免許を取得したい場合、専修免許取得を目的とする場合に限り、修士課程の科目を科目等履修生として履修することができます。その際、受講料等の料金は発生しません。

<情報科学研究科 専修免許状の教科に関する科目>

情報科学研究科専修免許状(情報)【高等学校】の教科に関する科目

科目名	単位数	科目名	単位数
プログラミング言語処理系特論	2	多次元信号画像処理	2
コンピュータアーキテクチャ特論	2	3次元映像技術特論	2
インターネットアーキテクチャ	2	音声・言語処理特論	2
科学技術シミュレーション	2	データベースプログラミング言語	2
暗号理論	2	人工知能特論	2
計算機科学のための数学	2	先端網とコンピューティング	2
量子コンピュータ特論	2	オブジェクト指向言語	2
可視化特論	2	進化システム論	2
線形システム特論	2	データマイニング特論	2
数理モデリング特論	2	コンピュータグラフィックス特論	2
画像メディア情報特論	2		

\* 情報科学研究科教育職員免許状の種類は「高等学校」(情報)です。

## ＜理工学研究科 専修免許状の教科に関する科目＞

## 理工学研究科専攻別教育職員免許状の種類

研究科	専攻	専修免許教科の種類 (中学校)	専修免許教科の種類 (高等学校)
理工学研究科	機械工学	—	—
	応用化学	理科	理科
	電気電子工学	—	—
	応用情報工学	—	情報
	システム工学	数学	数学
	生命機能学	理科	理科

## 応用化学専攻専修免許状(理科)の教科に関する科目

科目名	単位数	科目名	単位数
分子シミュレーション特論	2	有機合成化学特論	2
分子分光光学特論	2	無機反応化学特論	2
固体分光光学特論	2	高分子合成化学特論	2
先端材料物性特論	2	高分子設計特論	2
無機合成化学特論	2	微粒子材料工学特論	2
高機能セラミックス特論	2	水環境工学特論	2
有機化学反応特論	2	環境科学特論	2

## 応用情報工学専攻専修免許状(情報)の教科に関する科目

科目名	単位数	科目名	単位数
離散アルゴリズム特論 1	2	情報信号処理工学特論 1	2
離散アルゴリズム特論 2	2	情報信号処理工学特論 2	2
脳情報処理特論 1	2	画像工学特論 1	2
脳情報処理特論 2	2	画像工学特論 2	2
計算機システム工学特論 1	2	知的情報処理特論 1	2
計算機システム工学特論 2	2	知的情報処理特論 2	2
通信ネットワーク特論 1	2	最適化システム特論 1	2
通信ネットワーク特論 2	2	分散処理システム特論 1	2
無線ネットワーク特論 1	2	分散処理システム特論 2	2
無線ネットワーク特論 2	2		

## システム理工学専攻専修免許状(数学)の教科に関する科目

科目名	単位数	科目名	単位数
応用論理・数理言語学特論 1	2	離散最適化特論 1	2
応用論理・数理言語学特論 2	2	離散最適化特論 2	2
知能化センシングシステム特論	2	オペレーションズ・リサーチ特論 1	2
センサ信号処理特論	2	オペレーションズ・リサーチ特論 2	2
最適化モデリング特論 1	2	確率システム解析特論	2
最適化モデリング特論 2	2	人工知能特論	2
関数解析特論 1	2	信頼性工学特論	2
関数解析特論 2	2	生体情報信号処理特論	2
確率過程特論 1	2	応用金融分析特論	2
確率過程特論 2	2	数値計算法特論	2

## 生命機能学専攻専修免許状(理科)の教科に関する科目

科目名	単位数	科目名	単位数
ゲノム科学特論	2	生物アシミレーション科学特論	2
蛋白質科学特論	2	植物免疫分子システム学特論	2
細胞生物学特論	2	応用生物生態学特論	2
生命システム科学特論	2	植物病原学特論	2
ゲノム工学特論	2	植物薬学総合特論	2
蛋白質工学特論	2	土壌環境ゲノム科学特論	2
細胞工学特論	2	有用植物開発学特論	2
生命システム工学特論	2	生命機能学演習 1	2
基礎植物医科学特論	2	生命機能学演習 2	2
応用植物医科学特論	2	植物医科学演習 1	2
植物病先端研究特論	2	植物医科学演習 2	2
植物総合診療科学特論	2		

## &lt;履修に際しての注意(例)&gt;

応用化学専攻の学生が他研究科の科目を8単位履修し、これを修了所要単位に含めようとする場合、応用化学専攻に設置されている科目のみで24単位以上を修得しなければ、大学院を修了することはできません。

**3. 資格****図書館司書・司書教諭・社会教育主事・博物館学芸員**

上記の資格の取得を希望する場合は、市ヶ谷キャンパスのキャリアデザイン学部主催科目を、キャリアデザイン学部教授会承認を得たうえで、学部聴講で履修することになります。

また小金井キャンパスでの受講ではなく、市ヶ谷キャンパスの授業履修となるので、大学院授業の履修に支障を来さないよう十分に留意してください。詳細は小金井大学院担当に確認のこと。

# 留学について

## 1. 法政大学大学院における留学制度

### 2026 年度留学希望者対象

留学先は外国の大学院の正規課程とし、当該国における正規の高等教育機関であり、かつ学位授与権を有するものとします。応募資格等の詳細、申請については大学院ホームページおよび Web 掲示板に掲載する募集要項を参照してください。研究科長会議での選考により補助金受給者が決定されます。採用者には留学期間に応じ、上限 200 万円(留学期間:1 年間)または上限 100 万円(留学期間:6 ヶ月間)が給付されます。あわせて、大学院ホームページに掲載している「法政大学大学院学生海外留学補助金規程」を必ず確認してください。申請期間は 11 月中旬を予定しています。なお、本制度は入学予定者も申請が可能です。また本海外留学補助金受給者で、やむを得ない事由による留学期間延長希望者に対して、審査により補助金が給付されることとなりました。

## 2. 法政大学派遣留学制度

学業成績が優秀で高い外国語能力を持ち、かつ留学への強い意志を持った学生を本学の海外協定大学へ派遣する制度です。春学期派遣留学の募集は 5・6 月に、秋学期派遣留学の募集は 10 月に実施されます。グローバル教育センター事務部国際交流課配付もしくはホームページ掲載の募集要項を確認し、指定応募期間に必要な書類を提出してください。留学者は選考試験を経て決定されます。大学院修士課程の場合、2 年コース在籍学生は 1 年目秋学期および 2 年目春学期に、3 年コース在籍学生は 1 年目秋学期および 2 年目春・秋学期に出願可能です。大学院博士後期課程在籍学生は 1 年目秋学期、2 年目春・秋学期および 3 年目春学期に出願可能です。派遣先大学ごとに語学力や受入れ分野の限定などの条件があります。

詳細はグローバル教育センター事務部国際交流課で確認してください。

## 3. 交換研究員制度

交換研究員協定を締結したロシア科学アカデミー東洋学研究所で最長 3 ヶ月の研究を行う制度です。教員向けの募集を行い、未使用枠が生じた場合に大学院生が利用することができます。大学院生向けの募集がある場合は、4 月に掲示します。協定先より滞在費・宿舎が提供されますが、渡航費は自己負担となります。

詳細はグローバル教育センター事務部国際支援課にお問い合わせください。

## 4. グローバル教育の推進について

法政大学では早くから学生の海外留学や外国人留学生の受入れを行い、大学教育のグローバル化を進めてきました。以下に、グローバル教育センターが提供する主なプログラムを紹介し、大学院生も積極的にご活用ください。

### (1) ERP(英語強化プログラム)

ERPは一定の英語力と高い英語学習意欲を持った学生を対象にグローバル社会で活躍するための英語力を養成するためのプログラムで、3 キャンパスで開講されています。詳細は、グローバル教育センターのホームページで確認してください。

### (2) Gラウンジ

Gラウンジは外国語コミュニケーション空間として、市ヶ谷(大内山校舎 2 階)、多摩(総合棟地下 1 階)、小

金井(管理棟 3 階)の 3 キャンパスに設けられています。Gラウンジでは英語学習アドバイザーなどネイティブスピーカーとの日常的なコミュニケーションの機会を持つことができ、実践的な学力を身に付けることができます。英語で話したい、英語の上達方法を教わりたい、海外の文化を知りたいなど、学生の様々な希望に対応します。またGラウンジはERP(英語強化プログラム)や国際交流ボランティア・インターンシップなどの窓口にもなっており、スタッフが常駐して問い合わせや相談に応じます。

### **(3)国際インターンシッププログラム**

海外での様々な体験を通して、世界を違う視点から見ることで、グローバル人材に求められる国際感覚や様々な能力を身に付けるのが、国際インターンシッププログラムです。国際インターンシップでは、派遣先での就業体験を通じて、グローバル化社会に対応した働き方や文化の違いを学びます。将来的には、グローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげていくものです。

### **(4)国際キャリア支援プログラム**

将来、グローバルに活動を展開している企業・団体で働きたいと考えている学生のキャリアを支援するプログラムです。主に、「海外プログラム(学内・学外を問わない)」に参加する、あるいは今後の参加を希望している学生を対象に、セミナーを開催します。セミナーでは、海外プログラムへの参加経験を効果的に企業にアピールする方法、人事部がグローバル人材の採用にあたり重視しているポイント、国際キャリアフォーラムに関する情報提供等を行います。実施内容により、対象学年等を限定する場合があります。詳細については、グローバル教育センターのホームページをご確認ください。

### **(5)グローバル・ポイント制度**


グローバル・ポイント制度は、留学や語学研修など大学が指定する対象プログラムへの参加についてポイントを付与することで、学生自身がそれぞれの活動状況を把握し、今後の学習に役立てることを目的として実施しています。手続きについては、グローバル教育センターホームページでお知らせします。

グローバル教育センターホームページ <https://www.global.hosei.ac.jp>

X アカウント [https://x.com/hosei\\_global](https://x.com/hosei_global)

# 学生生活の諸手続き について

## 1. 事務取扱について

内 容		窓 口
授業実施上の事	単位修得上の指導	大学院担当
証明書の発行に関する事	成績発表	
履修登録に関する事	時間割に関する事	
休学・退学等学籍に関する事	学生証の再交付受付	
学費に関する事	各種研究奨励金・補助金	
専修免許に関する事	ロゴマークの使用について	
遺失物・拾得物の届	教室使用願（休日および授業期間外）	学生生活課
合宿・遠征届	通学証明書発行（私鉄・バス他） ※但し大学院特別学生（研修生・研究生・科目等履修生等）には発行できません。	
掲示物の届	アパート紹介（大学ホームページ）	
学生教育研究災害傷害保険関係	ボランティアセンターに関する事	
奨学金について	各団体の課外活動	
催し物開催届		
アルバイト紹介（大学ホームページ）	駐輪場の利用申し込み	
健康診断書発行		診療所
情報ネットワーク、貸与ノート PC に関する事、ユーザ ID について		小金井 情報センタ ー
<p>【法政大学から大学院へ・法政大学大学院から大学院への内部進学者】</p> <p>4月に学生証が交付されたらご自身でユーザ ID（統合認証 ID）を確認し、進学後ユーザ ID（統合認証 ID）のパスワード設定、パスワード再発行用メールアドレス登録を履修登録までに必ず行ってください。</p> <p>お知らせ：【法政大学出身で20●●年4月に大学院に進学される方へ】～ 詳細はこちら→</p>		
<p>【法政大学・大学院以外からの進学者】</p> <p>学生証交付時に「ユーザ ID・パスワード発行書」をお渡しします。受領後、パスワード変更、パスワード再発行用メールアドレス登録を履修登録までに必ず行ってください。</p> <p>パスワード変更方法詳細はこちら→</p>  <p>パスワード再発行用メールアドレス登録方法ははこちら→</p> 		
就職・キャリア相談※		キャリアセンター 小金井事務課
学生生活上の不安や困りごとを心理カウンセラー（臨床心理士）に相談		学生相談室
障がいのある学生のサポートと障がい学生サポートスタッフの募集・養成		障がい学生支援室

※キャリアセンターについて

キャリアセンターでは、皆さんの進路選択やキャリアについて支援しています。  
就職活動に際しては、以下の手続きをお願いいたします。



キャリア就職システムQRコード

① キャリアセンターで必要な手続き【※全員必須】

a キャリア就職システムへの登録

修士1年次の春学期の履修登録前に「進路希望登録」、修士2年次および博士3年次に進路が決定した際に「進路報告登録」をする必要があります(※進学の場合や社会人学生の方も登録が必要です)。

◆「進路希望登録」

修士1年次 (必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士2年次から本格化する就職活動に向けて、修士1年次時点の進路希望(就職・進学)を登録してください(登録後も、随時修正可能)。</li> <li>・社会人学生は、①電話番号②メールアドレス③有職者の3項目のみ入力してください。</li> </ul> <p>※進路希望登録をしないと春学期の履修登録ができません。</p>
修士2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望が変更になった場合は修正することができます。</li> </ul>

◆「進路報告登録」

修士2年次 (必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職や進学等、進路が決定した方は「進路報告登録」をしてください。</li> <li>・社会人学生は、①必須項目②「有職者」の項目を入力してください。</li> </ul> <p>※進路報告登録をしていないと秋学期の成績確認ができません。</p>
博士3年次 (必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職や進学等、進路が決定した方は「進路報告登録」をしてください。</li> <li>・社会人学生は、①必須項目②「有職者」の項目を入力してください。</li> </ul>

b 「インターンシップ保険」への加入


インターンシップに参加する方は、インターンシップ保険への加入が必要です。インターンシップ保険にはキャリア就職システムから加入することができます。(インターンシップ保険費用無料)

【申請方法】情報ポータル → キャリア就職システム → インターンシップ保険申請

※複数のインターンシップに参加する場合、その都度申請が必要です。

※インターンシップ参加前(インターンシップ開始前日まで)に加入手続きを完了してください。

② キャリアセンターで利用できるサービス

個別相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや就職全般に関する相談</li> <li>・エントリーシートの作成に関する相談</li> <li>・面接に関する相談(模擬面接もできます)</li> </ul>
就職関連行事の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に必要な、「自己分析」、「企業研究」、「エントリーシート」、「面接」等の対策として、学内セミナーや学内企業説明会を開催しています。各行事の詳細は、キャリアセンター掲示板やHPで確認できます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">小金井 キャリアセンターHP QRコード</p> 
卒業生情報検索 PC の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生情報検索 PC を利用できます。</li> </ul>
企業パンフレットの閲覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理系学生採用に力を入れている企業のパンフレットを閲覧できます。</li> </ul>
就職活動関連図書の閲覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就職四季報」、「業界地図」など、就職活動関連書籍を閲覧できます。</li> </ul>
WEB 面接ブース・キャリアラウンジの貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインで面接や説明会を受けるためのブースです。また、適性検査受験が可能な個室の貸出も行っています。</li> </ul>

## 2. 窓口取扱時間

部 課 名	場 所	取 扱 い 時 間	休 憩 時 間	備 考
大 学 院 担 当	管理棟 2 階	4 月 9 : 00 ~ 17 : 00	11 : 30 ~ 12 : 30 ( 図 書 館 を 除 く )	土曜日は閉室
学 生 生 活 課		5 月以降 10 : 00 ~ 16 : 00		土曜日は閉室
障がい学生支援室		9 : 00 ~ 17 : 00		土曜日は閉室
学 生 相 談 室	管理棟 4 階	9 : 30 ~ 16 : 30		土曜日は閉室
図 書 館 室	南館 3・1・ B1 階	9 : 00 ~ 21 : 00		土曜日は 9 : 00 ~ 19 : 00 祝・祭日は 10 : 00 ~ 17 : 00
キャリアセンター 小金井事務課	管理棟 2 階	9 : 00 ~ 17 : 00 但し火曜日は 10 : 00 ~ 17 : 00 まで		土曜日は正午まで
診 療 所	管理棟 4 階	9 : 00 ~ 18 : 00 但し医師診察時間は 12 : 30 ~ 16 : 45	土曜日は正午まで (但し診察は休診) ※授業期間外は受付時間変更有り	

## 3. 掲示・お知らせ

名 称	内 容	場 所
各学科事務室大学院掲示板	専攻別の諸連絡等	北館・南館・西館・東館
奨学金関係掲示板	奨学金に関すること	北館通路
キャリアセンター掲示板	就職関係行事に関すること キャリア全般に関すること	管理棟 2 階 キャリアセンター前
留学生関係掲示板	留学生に関すること	管理棟 3 階 国際交流支援室前

## 4. 事務上の諸手続き

### (1) 学生証番号

研究科各専攻の学生個々に 7 桁の番号が付され、この番号は在籍中変更されません。

受講科目の登録、その他諸手続きの際に氏名と併用して使用します。

### (2) 学生証

- 常時携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでも提示してください。
- 新入生には学期はじめに交付します。
- 通学証明書となっているため、通学定期券購入の際は、駅窓口で提示してください。
- 有効期限は在学予定期間までとなっています(2023 年度以降)。留級した場合は、学部窓口にて手続きをしてください
- 課程修了、退学、除籍のときは、直ちに返却してください。
- 紛失したときは、大学院担当に届出、再交付を受けてください。再交付料は 2,000 円です。

**(3)健康診断**

毎学年度初めに実施される健康診断を受けてください。詳細は、Web 掲示板で確認のこと。

**(4)諸届・願出様式**

届・願には次のものがあります。提出先は特に指定が無い限りは大学院担当窓口にご提出ください。

a. 氏名変更届	住民票を添付し、「大学院担当」へ
b. 住所変更届	教務システムから自身で変更
c. 修了後の進路先届	「キャリアセンター小金井事務課」へ
d. 休学願	年間休学 5月末日まで受付 春学期休学 5月末日まで受付 秋学期休学 10月末日まで受付
e. 退学願	学費春学期分未納者 5月末日まで受付 学費秋学期分未納者 10月末日まで受付 所定用紙に記入し、学生証を添えて提出してください。
f. 復学願	退学したものが復学を希望する場合、願出書提出後、研究科長会議の議を経て復学を許可されることがあります。ただし、年度の始めに限ります。 希望者は2月末までに大学院担当窓口まで申し出てください。 復学料 他校出身者のみ再入学金として10万円を納入
g. 復籍願	授業料未納によって除籍されたものが復籍を希望する場合、願出書提出後、専攻教授会の議を経て復籍を許可されることがあります。ただし、年度の始めに限ります。 希望者は2月末までに大学院担当窓口まで申し出てください。 復籍料 他校出身者のみ再入学金として10万円を納入

**(5)証明書発行**

各種証明書の発行は、学務課窓口横の証明書自動発行機またはオンラインから申請できます。

詳細は以下のリンクをご確認ください。

<https://www.hosei.ac.jp/campuslife/guide/shinsei/shomei/hakko/>

**(6)修了後の証明書申請**

修了後の証明書は、窓口申込み・郵送・インターネットでの申し込みでの受け付けとなります。

電話・FAXによる申し込みは受け付けていません。詳細はHPにて確認してください。

(郵送宛先) 〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2

法政大学小金井事務部学務課大学院担当

(卒業生証明書オンライン申込システム)

<https://pay.f-regi.com/fc/hosei/certificate/>

**(7)学割・教室貸与**

## a. 学割

学生旅客運賃割引証を必要とするときは、証明書自動発行機で取得することができます。

科目等履修生は、利用できません。

## b. 教室借用手続

正課活動(ゼミ等)で教室を使用したい場合は、大学院担当(課外活動(サークル等)の予約は学生生活課)に申し出てください。ただし、使用は授業に支障のない場合に限ります。

## (8) その他

研究機関として法政大学大原社会問題研究所、野上記念法政大学能楽研究所、法政大学沖縄文化研究所、法政大学情報メディア教育研究センター、法政大学イオンビーム工学研究所、法政大学ボアソナード記念現代法研究所、法政大学日本統計研究所等があります。

利用に当っては事前に電話等で関係機関にお問い合わせください。

## 5. 学籍

### (1) 修業年限と在学年限について

修士課程の標準修業年限は2年であり、在学年限(通算4年)を超えて在学することはできません。

博士後期課程の標準修業年限は3年であり、在学年限(通算6年)を超えて在学することはできません。

### (2) 休学

a. 疾病または、その他の事情により休学する場合は、休学願に理由を明記の上、願い出て許可を受けてください。休学期間は、年間休学(4月1日～翌年3月31日)、春学期休学(4月1日～9月15日)、秋学期休学(9月16日～翌年3月31日)の3種です。

b. 休学は当該年度限りとし、引続き休学を希望する時は、理由を付して改めて休学願を出し、許可を受けた上で休学することができます。ただし、休学期間は通算して3年を超えることはできません。(春学期/秋学期休学は0.5年として計算します。)

※休学期間は在学年数に算入することはできません。

c. 春学期休学者は、その年度の春学期科目と通年科目を修得することはできません。

d. 秋学期休学者は、その年度の秋学期科目と通年科目を修得することはできません。

e. 休学の願い出期間、それに伴う学費の納入状況、および休学者としての取り扱い開始日(休学許可日)は下表の通りとします。

期 間	願い出期間	学費納入状況	許可日
年間休学	5月31日まで	当該年度の授業料・実験実習料および教育充実費は免除。休学在籍料(10万円)を納入。	4月1日付
春学期休学	5月31日まで	当該期の授業料・実験実習料および教育充実費は免除。休学在籍料の2分の1(5万円)を納入。	4月1日付
秋学期休学	10月31日まで	当該期の授業料・実験実習料および教育充実費は免除。休学在籍料の2分の1(5万円)を納入。	9月16日付

f. 休学期間終了後は、復学等の手続き(届出)は不要です。

### (3) 退学

a. やむを得ない理由により退学しようとする場合は、退学願に理由を明記の上、学生証と一緒に願い出て許可を受けてください。

b. 退学の願い出期間、および退学許可日は下表の通りです。

学費納入状況	願い出期間	退学日
当該年度分 全額納入済	4月1日～3月31日	願い出のあった日付
当該年度分 全額未納	5月31日まで	前年度3月31日付
当該年度分 秋学期分未納	10月31日まで	9月15日付

**(4) 除籍**

次のいずれかに該当する場合は除籍されます。

- a. 学費(授業料およびその他)を所定の期日までに納入しない者。

※秋学期学費未納で除籍となった場合、春学期修得した科目の成績は認められます。

- b. 大学院学則 第 25 条または第 29 条の在学年限を超えた者。

- c. 通算して 3 年を超える休学をした者。

**6. 学費**

- a. 学費納入について

**【2025 年度以降入学者】口座振替(自動引き落とし)による学費納入**

登録した口座から学費の引き落としを行います。一旦口座振替を行った学費その他は返還しません。なお、入学年度に限り、秋学期のみ口座振替の対象となります。

春学期入学者学費納入区分	口座振替日
春学期 (1 期)	4 月 30 日 ※
秋学期 (2 期)	9 月 30 日 ※

秋学期入学者学費納入区分	口座振替日
秋学期 (1 期)	9 月 30 日 ※
春学期 (2 期)	4 月 30 日 ※

※銀行休業日の場合は翌営業日

※休学・退学を検討している等の理由で通常学費の口座振替を停止したい場合、春学期は 4 月 10 日、秋学期は 9 月 10 日までに学費延納申請を行うか、休学願・退学願をご提出ください。

※期日までに学費延納申請か休学願・退学願の提出を行っていない限りは、口座振替日に自動で学費の口座振替(自動引き落とし)が行われます。期日後に、やむを得ない事情で口座振替(自動引き落とし)を停止したい場合は、口座残高を調整するか、登録口座の金融機関へご相談ください。

※登録口座の確認および口座変更の方法は、本学ウェブサイト

(<https://www.hosei.ac.jp/campuslife/guide/gakuhi/>)を確認してください。

**【2024 年度以前入学者】振込用紙による学費納入**

各学年とも学費は下記期限までに納入してください。なお、一旦納入した学費その他は返還しません。

春学期入学者学費納入区分	学費納入に関する案内送付時期	納入期限
春学期 (1 期)	4 月	4 月 30 日
秋学期 (2 期)	4 月	9 月 30 日

秋学期入学者学費納入区分	学費納入に関する案内送付時期	納入期限
秋学期 (1 期)	9 月	9 月 30 日
春学期 (2 期)	4 月	4 月 30 日

## b. 学費の延納制度について

経済的事由等のやむを得ない事情で、学則の納入期限までに学費の納入が困難な方を支援する制度です。事前に申請することで学費納入期限を所定の期日まで延期できます。学費の延納を希望する場合は、各期の延納受付期間内に学費延納申請を行ってください。申請方法は本学ウェブサイト(<https://www.hosei.ac.jp/campuslife/guide/gakuhi/#a05>)を確認してください。

期	延納期限	延納申請受付期間	学則上の納入期限
春学期	6月30日	申請期間は上記ウェブサイトを確認してください。	4月30日
秋学期	11月30日		9月30日

※延納期限までに学費が納入されなかった場合は、所属学部から学生およびその保証人へ除籍通知が發送されますので予めご承知おきください。

※【2025年度以降入学者】春学期は4月10日、秋学期は9月10日までに延納申請を行っていない場合、一切の事情に関わらず、春学期については4月30日、秋学期は9月30日に、学費の口座振替(自動引き落とし)が実施されます。延納申請を行っていないが、やむを得ない事情で口座振替(自動引き落とし)を停止したい場合は、口座残高を調整するか、登録口座の金融機関へご相談ください。

## c. 標準修業年限を超えて在学する場合の学費

- ①課程修了に必要な科目を修得していない場合は、授業料及び教育充実費の2分の1、
- ②科目修得者又は修士論文審査に合格したが科目1科目以内(2単位科目は0.5科目とする。)未修得の場合は4分の1。ただし、上記の学費に実験実習費を加えた額とします。

なお、当該年度の学費は年度の始めに決定するため、春学期末をもって修業年限に達した場合でも、2期(秋学期)学費の上記減額措置は適用されません。

博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を取得した後、引き続き在学している場合、当該年度の9月に博士学位を授与されることとなった時は、2期分の授業料は徴収しません。

- d. 休学を許可された場合は休学在籍料を納入するものとし、休学該当期間の授業料、実験実習料及び教育充実費の納入を要しません。

2019年度以降入学者 学費明細表(参考)  
・修士課程

研究科	専攻	出身	学年		授業料 (半期あたり)	入学金	実験実習費 (半期あたり)	教育充実費 (半期あたり)	春学期学 費 合計	秋学期学 費 合計	年間学費 合計
			1	2							
理工学	生命機能学 (植物医科学領域)以外	自校	1		385,000	0	50,000	50,000	485,000	485,000	970,000
			2		385,000		50,000	50,000	485,000	485,000	970,000
			2年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文修得済で4単位以下不足者	192,500 96,250 96,250		50,000 50,000 50,000	25,000 12,500 12,500	267,500 158,750 158,750	267,500 158,750 158,750	535,000 317,500 317,500
		他校	1		385,000	200,000	50,000	50,000	685,000	485,000	1,170,000
			2		385,000		50,000	50,000	485,000	485,000	970,000
			2年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文修得済で4単位以下不足者	192,500 96,250 96,250		50,000 50,000 50,000	25,000 12,500 12,500	267,500 158,750 158,750	267,500 158,750 158,750	535,000 317,500 317,500
	生命機能学 (植物医科学領域)のみ	自校	1		385,000	0	80,000	50,000	515,000	515,000	1,030,000
			2		385,000		80,000	50,000	515,000	515,000	1,030,000
			2年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文修得済で4単位以下不足者	192,500 96,250 96,250		80,000 80,000 80,000	25,000 12,500 12,500	297,500 188,750 188,750	297,500 188,750 188,750	595,000 377,500 377,500
		他校	1		385,000	200,000	80,000	50,000	715,000	515,000	1,230,000
			2		385,000		80,000	50,000	515,000	515,000	1,030,000
			2年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文修得済で4単位以下不足者	192,500 96,250 96,250		80,000 80,000 80,000	25,000 12,500 12,500	297,500 188,750 188,750	297,500 188,750 188,750	595,000 377,500 377,500
情報科学	情報科学	自校	1		385,000	0	50,000	50,000	485,000	485,000	970,000
			2		385,000		50,000	50,000	485,000	485,000	970,000
			2年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文修得済で4単位以下不足者	192,500 96,250 96,250		50,000 50,000 50,000	25,000 12,500 12,500	267,500 158,750 158,750	267,500 158,750 158,750	535,000 317,500 317,500
		他校	1		385,000	200,000	50,000	50,000	685,000	485,000	1,170,000
			2		385,000		50,000	50,000	485,000	485,000	970,000
			2年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文修得済で4単位以下不足者	192,500 96,250 96,250		50,000 50,000 50,000	25,000 12,500 12,500	267,500 158,750 158,750	267,500 158,750 158,750	535,000 317,500 317,500

※原則として前年度休学者には、前年度当初と同額の学費が適応される

※当該年度休学者には、年間休学の場合は休学在籍料100,000円、春学期/秋学期休学の場合は休学在籍料50,000円(当該期間の授業料・教育充実費・実験実習料は徴収しない)

※自校とは、大学の学部卒業生または大学院修了者を指し、他校とは、その他の者を指す。

・博士後期課程

研究科	専攻	出身	学年		授業料 (半期あたり)	入学金	実験実習費 (半期あたり)	教育充実費 (半期あたり)	春学期学 費 合計	秋学期学 費 合計	年間学費 合計
			1	2							
理工学	生命機能学 (植物医科学領域)以外	自校	1		300,000	0	50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
			2		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
			3		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
		他校	3年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000		50,000 50,000	25,000 12,500	225,000 137,500	225,000 137,500	450,000 275,000
			1		300,000	200,000	50,000	50,000	600,000	400,000	1,000,000
			2		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
	生命機能学 (植物医科学領域)のみ	自校	3		300,000		80,000	50,000	430,000	430,000	860,000
			3年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000		80,000 80,000	25,000 12,500	255,000 167,500	255,000 167,500	510,000 335,000
			1		300,000	200,000	80,000	50,000	630,000	430,000	1,060,000
		他校	2		300,000		80,000	50,000	430,000	430,000	860,000
			3		300,000		80,000	50,000	430,000	430,000	860,000
			3年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000		80,000 80,000	25,000 12,500	255,000 167,500	255,000 167,500	510,000 335,000
情報科学	情報科学	自校	1		300,000	0	50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
			2		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
			3		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
		他校	3年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000		50,000 50,000	25,000 12,500	225,000 137,500	225,000 137,500	450,000 275,000
			1		300,000	200,000	50,000	50,000	600,000	400,000	1,000,000
			2		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
	情報科学	自校	3		300,000		80,000	50,000	430,000	430,000	860,000
			3年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000		80,000 80,000	25,000 12,500	255,000 167,500	255,000 167,500	510,000 335,000
			1		300,000	200,000	50,000	50,000	600,000	400,000	1,000,000
		他校	2		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
			3		300,000		50,000	50,000	400,000	400,000	800,000
			3年 超過	(1)修了要件科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000		50,000 50,000	25,000 12,500	225,000 137,500	225,000 137,500	450,000 275,000

※原則として前年度休学者には、前年度当初と同額の学費が適応される

※当該年度休学者には、年間休学の場合は休学在籍料100,000円、春学期/秋学期休学の場合は休学在籍料50,000円(当該期間の授業料・教育充実費・実験実習料は徴収しない)

※自校とは、大学の学部卒業生または大学院修了者を指し、他校とは、その他の者を指す。

2018年度以前の入学者 学費明細表(参考)												
・修士課程												
研究科	専攻	出身	学年		授業料 (半期あたり)	入学金	実験実習費 (半期あたり)	教育充実費 (半期あたり)	春学期学費 合計	秋学期学費 合計	年間学費 合計	
理工学	生命機能学 (植物医科学領域)以外	自校	1		375,000	0	40,000	50,000	465,000	465,000	930,000	
			2		375,000		40,000	50,000	465,000	465,000	930,000	
			2年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文未修得で4単位以下不足者	187,500 93,750 93,750	40,000 40,000 40,000	25,000 12,500 12,500	252,500 146,250 146,250	252,500 146,250 146,250	505,000 292,500 292,500		
		他校	1		375,000	200,000	40,000	50,000	665,000	465,000	1,130,000	
			2		375,000		40,000	50,000	465,000	465,000	930,000	
			2年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文未修得で4単位以下不足者	187,500 93,750 93,750	40,000 40,000 40,000	25,000 12,500 12,500	252,500 146,250 146,250	252,500 146,250 146,250	505,000 292,500 292,500		
	生命機能学 (植物医科学領域)のみ	自校	1		375,000	0	70,000	50,000	495,000	495,000	990,000	
			2		375,000		70,000	50,000	495,000	495,000	990,000	
			2年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文未修得で4単位以下不足者	187,500 93,750 93,750	70,000 70,000 70,000	25,000 12,500 12,500	282,500 176,250 176,250	282,500 176,250 176,250	565,000 352,500 352,500		
		他校	1		375,000	200,000	70,000	50,000	695,000	495,000	1,190,000	
			2		375,000		70,000	50,000	495,000	495,000	990,000	
			2年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文未修得で4単位以下不足者	187,500 93,750 93,750	70,000 70,000 70,000	25,000 12,500 12,500	282,500 176,250 176,250	282,500 176,250 176,250	565,000 352,500 352,500		
情報科学	情報科学	自校	1		375,000	0	40,000	50,000	465,000	465,000	930,000	
			2		375,000		40,000	50,000	465,000	465,000	930,000	
			2年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文未修得で4単位以下不足者	187,500 93,750 93,750	40,000 40,000 40,000	25,000 12,500 12,500	252,500 146,250 146,250	252,500 146,250 146,250	505,000 292,500 292,500		
		他校	1		375,000	200,000	40,000	50,000	665,000	465,000	1,130,000	
			2		375,000		40,000	50,000	465,000	465,000	930,000	
			2年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)①修士論文のみ未修得者 (2)②修士論文未修得で4単位以下不足者	187,500 93,750 93,750	40,000 40,000 40,000	25,000 12,500 12,500	252,500 146,250 146,250	252,500 146,250 146,250	505,000 292,500 292,500		
	※原則として前年度休学者には、前年度当初と同額の学費が適応される											
	※当該年度休学者には、年間休学の場合は休学在籍料100,000円、春学期/秋学期休学の場合は休学在籍料50,000円(当該期間の授業料・教育充実費・実験実習料は徴収しない)											
	※自校とは、本学の学部卒業生または大学院修了者を指し、他校とは、その他の者を指す。											
	・博士後期課程											
	研究科	専攻	出身	学年		授業料 (半期あたり)	入学金	実験実習費 (半期あたり)	教育充実費 (半期あたり)	春学期学費 合計	秋学期学費 合計	年間学費 合計
	理工学	生命機能学 (植物医科学領域)以外	自校	1		300,000	0	40,000	50,000	390,000	390,000	780,000
2					300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000	
3					300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000	
3年 超過			(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	40,000 40,000	25,000 12,500	215,000 127,500	215,000 127,500	430,000 255,000			
			他校	1		300,000	200,000	40,000	50,000	590,000	390,000	980,000
				2		300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000
3				300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000		
3年 超過		(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	40,000 40,000	25,000 12,500	215,000 127,500	215,000 127,500	430,000 255,000				
		生命機能学 (植物医科学領域)のみ	自校	1		300,000	0	70,000	50,000	420,000	420,000	840,000
				2		300,000		70,000	50,000	420,000	420,000	840,000
3					300,000		70,000	50,000	420,000	420,000	840,000	
3年 超過			(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	70,000 70,000	25,000 12,500	245,000 157,500	245,000 157,500	490,000 315,000			
	他校		1		300,000	200,000	70,000	50,000	620,000	420,000	1,040,000	
			2		300,000		70,000	50,000	420,000	420,000	840,000	
3			300,000		70,000	50,000	420,000	420,000	840,000			
3年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	70,000 70,000	25,000 12,500	245,000 157,500	245,000 157,500	490,000 315,000					
	工学	電気工学	自校	1		300,000	0	40,000	50,000	390,000	390,000	780,000
				2		300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000
3					300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000	
3年 超過		(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	40,000 40,000	25,000 12,500	215,000 127,500	215,000 127,500	430,000 255,000				
		他校	1		300,000	200,000	40,000	50,000	590,000	390,000	980,000	
			2		300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000	
3			300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000			
3年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	40,000 40,000	25,000 12,500	215,000 127,500	215,000 127,500	430,000 255,000					
	情報科学	自校	1		300,000	0	40,000	50,000	390,000	390,000	780,000	
			2		300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000	
3				300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000		
3年 超過		(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	40,000 40,000	25,000 12,500	215,000 127,500	215,000 127,500	430,000 255,000				
		他校	1		300,000	200,000	40,000	50,000	590,000	390,000	980,000	
			2		300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000	
3			300,000		40,000	50,000	390,000	390,000	780,000			
3年 超過	(1)課程修了科目未修得者 (2)博士論文のみ未修得者	150,000 75,000	40,000 40,000	25,000 12,500	215,000 127,500	215,000 127,500	430,000 255,000					
	※原則として前年度休学者には、前年度当初と同額の学費が適応される											
	※当該年度休学者には、年間休学の場合は休学在籍料100,000円、春学期/秋学期休学の場合は休学在籍料50,000円(当該期間の授業料・教育充実費・実験実習料は徴収しない)											
※自校とは、本学の学部卒業生または大学院修了者を指し、他校とは、その他の者を指す。												

## 7. 特別学生

定員に余裕のある場合に限り、個別の定めにより特別学生の入学を許可します。

特別学生には、身分証として特別学生証が交付されますが、鉄道会社等の規程により通学定期・学割の発行はできません。特別学生は、各種サービスの提供範囲が正規学生と異なる場合があります。不明な点は大学院担当窓口までお尋ねください

## 8. 留学生

外国人留学生の方は、在留資格の取得および更新手続きに関連して、以下のとおり、出入国管理に関わる省令を遵守するよう留意してください。留学生に関する事務は、下記のとおり大学院担当とグローバル教育センター事務部国際支援課でそれぞれ取り扱っています。

### (1) 特別学生の授業履修

#### ① 研修生・委託研修生

研修生または委託研修生のうち、在留資格が「留学」の外国人留学生の方は、出入国管理法により、週 10 時間(6 科目)以上の履修科目の履修が義務付けられています。授業科目の Web 履修登録の際にも、この時間を下回らないよう手続きしてください。

#### ② 研究生・研究員

研究生または研究員のうち、在留資格が「留学」の外国人留学生の方は、週 10 時間以上の研究時間を確保できる研究計画を立て、受入指導教員の承諾を得る必要があります。指導教員と十分打合せ、研究計画を立てるようにしてください。

### (2) 入学・修了時の入国管理局届出

#### ① 新入生

本学入学前から在留資格「留学」を持っていた方で、日本国内の日本語学校や他大学から進学した方は、所属機関が変更となったこと(「離脱」と「移籍」)を入国管理局に届け出る必要があります。

「離脱」の書類は前校卒業時から 14 日以内、「移籍」の書類は本学入学時から 14 日以内に届け出る必要がありますので注意してください。

#### ② 修了生

修了決定者で、在留資格「留学」の期限が、修了月の翌月以降までである留学生の方は、法政大学大学院を修了したことを入国管理局に届け出る必要があります。「離脱」の書類は本学修了時から 14 日以内に届け出る必要がありますので注意してください。

# 研究助成制度・奨学金等 について

大学院においては、下記のような研究助成金があります。詳細は法政大学大学院ホームページを確認してください。[https://www.hosei.ac.jp/gs/gakuhi/kenkyu\\_jyosei/](https://www.hosei.ac.jp/gs/gakuhi/kenkyu_jyosei/)

## 1. 研究助成金

### (1) 法政大学大学院博士後期課程研究助成金

本制度は、博士後期課程に在籍する大学院生を対象に、学術研究を奨励し、高度な研究能力と豊かな学識を有する若手研修者として育成するための経済的支援制度です。

給付額は、原則、文系研究科 32 万円、理系研究科 48 万円です。ただし、長期履修制度の適用を受けている方の給付額は当該年度の授業料と通常授業料の比率により減額します。また、私費外国人留学生で授業の減免制度の適用を受ける場合は、私費外国人留学生授業料減免相当額を給付額から減額します。

応募資格等の詳細、申請については大学院ホームページに掲載する募集要項を参照してください。また、大学院ホームページに掲載している「法政大学大学院博士後期課程研究助成金給付規程」を確認してください。申請期間は例年 10 月上旬になっております。

### (2) 法政大学大学院学生海外留学補助金

大学院生の海外留学による学術研究を奨励し、資質の向上を図ることを目的とします。詳細については、「法政大学大学院における留学制度」を参照してください。

### (3) 法政大学大学院学生論文掲載料補助

本制度は、在籍する大学院生の学術研究を奨励し、その研究成果の発表を支援するため、学術誌へ論文を掲載する際、必要となる論文掲載料の経費を補助する制度です。対象者は、修士課程または博士後期課程の大学院生とします。給付額は、論文掲載先が国内刊行誌、海外刊行誌のいずれの場合も、毎年 1 回、1 人につき 20 万円を上限に実費支給します。なお、申請による補助金支出額の合計が予算額に達した時点で、申請締め切りとします。応募資格等の詳細、申請については大学院ホームページに掲載する募集要項を参照してください。また、大学院ホームページに掲載している「法政大学大学院学生論文掲載料補助規程」を確認してください。

### (4) 法政大学大学院学会等発表補助金

本制度は、大学院における学術研究の高度化・国際化を奨励するため、国内・国外で開催される学会等に係る経費の一部を補助する制度です。対象者は、学会において研究発表、報告等を行う修士課程または博士後期課程の大学院生とします。対象の学会等は、国内外の学術機関が主催する学会、研究会、ワークショップ等とします。また、共同による研究発表については発表者を補助対象とします。ポスター・セッションにおける発表も本制度の補助対象とします。給付額は、学会に出席するための交通費、宿泊費、学会参加費とし、実費支給します。申請期間は例年 5 月～1 月末頃です。申請による補助金支出額が予算額に達した時点で、申請締め切りとします。

応募資格等の詳細、申請については大学院ホームページに掲載する募集要項を参照してください。また、大学院ホームページに掲載している「法政大学大学院学会等発表補助金規程」を確認してください。

## (5) 法政大学大学院優秀博士論文出版助成金

本制度は、大学院における高度な学術研究を奨励し、その優れた研究成果を積極的に公表するため、博士学位を授与された方々が当該博士学位論文を出版する際、その経費の一部を助成する制度です。対象者は本学大学院博士後期課程を修了し博士学位を取得した方又は本学大学院博士後期課程を単位取得満期退学後に本大学院に論文を提出し博士学位を取得した方で、申請時学位取得後 5 年以内の方を対象とします。給付額は全研究科を通じ年間 6 人程度、1 人につき 100 万円を上限として実費支給します。

応募資格等の詳細、申請については大学院ホームページに掲載する要項を参照してください。また、大学院ホームページに掲載している「法政大学大学院優秀博士論文助成金規程」を確認してください。申請期間は 3 月初旬を予定しています。

## (6) 法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助

本制度は、大学院における学術研究の高度化・国際化を推進するため、在籍する大学院生が自ら執筆した諸外国語による論文やレポートについて、専門家・業者に校閲を必要とする場合、その経費を一部補助する制度です。対象者は、修士課程または博士後期課程の大学院生とします。給付額は全研究科を通じ年間 15 名とし、原則、毎年 1 回、1 人につき 10 万円を上限に実費支給とします。申請者多数の場合は減額して支給することがあります。

応募資格等の詳細、申請については大学院ホームページに掲載する要項を参照してください。また、大学院ホームページに掲載している「法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助規程」を確認してください。申請期間は 2 月中旬を予定しています。

## 2. 奨学金について

各奨学金の詳細については、学生生活課にお問い合わせください。

### (1) 日本学生支援機構(※休学者は出願できません)

#### ① 出願資格

日本学生支援機構奨学金の貸与希望者には、毎年選考の上採用しています。

出願資格は、大学院研究科の修士・博士後期課程在学者。

#### ② 貸与月額

	第一種（無利子）	第 2 種（有利子）
修士課程	5 万または 8.8 万から選択	5 万・8 万・10 万・13 万・15 万から選択
博士後期課程	8 万または 12.2 万から選択	5 万・8 万・10 万・13 万・15 万から選択

### (2) 法政大学 100 周年記念大学院修士課程奨学金(※休学者は出願できません)

本学独自の奨学金で、修士課程に在籍する大学院生対象の奨学金制度です。学業成績・人物ともに優れていて、就学上経済的援助が必要な学生に給付されます。本奨学金の出願資格の詳細は、「法政大学 100 周年記念大学院修士課程奨学金給付規程」を参照してください。

2026 年度の採用予定は全研究科で 144 名程度、給付額は年額 20 万円です(ただし、長期履修制度適用者の給付額は、通常授業料との比率により減額されます。また、私費外国人留学生授業料減免対象者は、減免相当額を給付額から減額します)。

(1) (2)とも、申請方法(申請書の配布・提出方法)は、3 月 25 日(水)に大学院のホームページでお知らせします。

<https://www.hosei.ac.jp/gs/info/>

(1) 日本学生支援機構奨学金申請書類の提出締切は 4 月 17 日(金)です。

(2)法政大学 100 周年記念大学院修士課程奨学金の申請書類提出は 6 月上旬の予定です。

### 3. 首都大学院コンソーシアムについて

首都圏の大学院間で締結された協定により、自身の所属する大学院以外の授業を聴講もしくは研究指導が受けられる制度です。協定により聴講する学生（協定聴講生）が、受け入れ先大学院において修得した単位は本研究科の修了要件単位として単位認定されます（上限あり）。この制度により協定先大学院での受講を希望する方は、大学院担当まで申し出てください。

（詳細については法政大学大学院HPを参照）

単位互換制度協定校一覧：順天堂大学大学院、専修大学大学院、中央大学大学院、東京電機大学大学院、東京理科大学大学院、東洋大学大学院、日本大学大学院、明治大学大学院、共立女子大学大学院

### 4. 総合研究大学院大学（総研大）との単位互換協定について

総合研究大学院大学（以下、総研大）先端学術院と法政大学大学院理工学研究科は、学生を相互に交流させ、教育研究の充実を図るため、2018 年度より単位互換に関する協定を締結しました。

特別聴講学生として 4 単位を上限として総研大の授業科目を履修することができ、法政大学大学院学則の定める範囲で本大学院の課程修了に必要な単位として認定できます。希望者は Web 掲示板のお知らせを確認してください。

### 5. 教育訓練給付制度

理工学研究科攻の修士課程については、「教育訓練給付制度一般教育訓練給付」の指定を受けています。この制度は、勤労者（離職者も含む）に対し、厚生労働大臣が指定した講座における教育訓練に要した費用の一部を補助するものです。（<http://www.mhlw.go.jp/bunya/nouryoku/kyouiku/>）

本人が修了後に住民票のある住所地のハローワーク（公共職業安定所）へ申請することにより、教育訓練経費（入学金と初年度授業料）の 20%相当額（上限 10 万円）の教育訓練給付金が支給されます。申請は、修了日（3 月 24 日または 9 月 15 日）の翌日から起算して 1 ヶ月以内です。

入学年度により支給条件が異なりますのでハローワーク発行のリーフレットでご確認ください。

支給申請に必要な書類のうち、以下の 3 点については、修了発表日以降に申請してください。

教育訓練給付金支給申請書/ 教育訓練修了証明書/領収書

### 6. ゼミで契約宿舎を利用する場合の宿泊費補助

ゼミ合宿で（株）エイチ・ユーが「ゼミ合宿の宿」として提携・紹介する宿泊施設を利用した場合に宿泊料補助を行っていますので、ぜひご利用ください。詳細は、以下の大学ホームページにて掲載しています。

大学ホームページ>キャンパスライフ>学生生活サポート>ゼミでの契約宿舎利用における宿泊料補助

<https://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/keiyaku/>

### 7. チューター制度（外国人留学生対象）

本学大学院に在籍する大学院生（外国人留学生）等の教育研究を支援するため、チューター制度を導入しています。日本人学生あるいは上級留学生をチューター役として採用し、非正規生を含む下級生あるいは新入学生に対して大学院生活全般の指導にあたります。

指導範囲は大学院授業で課されるレポートの助言・添削、学位論文、その他研究上の助言、大学院生活適応に関する助言、相談、学習上の助言、相談、その他、大学が研究遂行上、適切と認める指導、助言です。小金井キャンパスのチューターは、受講側の留学生の指導教員が必要に応じて募集します。

# 資料

## 1. 法政大学大学院諸規則一覧

本大学院の諸規則は以下のとおりです。各規則は、大学院ホームページ「大学院について-学則・諸規則」に掲載しています。

法政大学大学院学則

法政大学学位規則

退学者の課程博士申請に伴う再入学に関する規程

学位記等再交付の取り扱いに関する規則

法政大学 100 周年記念大学院修士課程奨学金給付規程

法政大学大学院博士後期課程研究助成金給付規程

法政大学大学院学生海外留学補助金規程

法政大学大学院学会等発表補助金規程

法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助規程

法政大学大学院学生論文掲載料補助規程

法政大学大学院優秀博士論文出版助成金規程

法政大学大学院生チューターに関する規程

法政大学大学院科目等履修生規程

法政大学大学院研修生・委託研修生・特別研修生規程

法政大学大学院研究生規程

法政大学大学院研究員規程

法政大学大学院紀要要領〔人文・社会科学系〕

法政大学大学院紀要要領〔理工系〕

法政大学大学院早期修了に関する規則

法政大学大学院特色ある教育研究プログラム実施補助規程

大学院休学留学に関する規程

大学院科目等履修生(履修証明プログラム生)規程

法政大学大学院現地調査実施費用補助規程

法政大学大学院学生の懲戒に関する規程

図書館利用規程

## 2. 大学院英語名称一覧

研究科 Graduate School of ****	専攻 Major in****	課程 Courses	学位 Degrees
理工学 Science and Engineering	機械工学 Mechanical Engineering	修士 Master's Course	修士 (工学) Master of Engineering (Mechanical Engineering)
		博士後期 Doctor's Course	博士 (工学) Doctor of Philosophy (Engineering)
	電気電子工学 Electrical and Electronic Engineering	修士 Master's Course	修士 (工学) Master of Engineering (Electrical and Electronic Engineering)
		博士後期 Doctor's Course	博士 (工学) Doctor of Philosophy (Engineering)
	応用情報工学 Applied Informatics	修士 Master's Course	修士 (工学) Master of Engineering (Applied Informatics)
		博士後期 Doctor's Course	博士 (工学) Doctor of Philosophy (Engineering)
	システム理工学 Systems Engineering and Science	修士 Master's Course	修士 (工学) ・ 修士 (学術) Master of Engineering (Systems Engineering and Science) ・ Master of Arts (Arts and Science)
		博士後期 Doctor's Course	博士 (工学) Doctor of Philosophy (Engineering)
	応用化学 Applied Chemistry	修士 Master's Course	修士 (理工学) Master of Science (Applied Chemistry)
		博士後期 Doctor's Course	博士 (理工学) Doctor of Philosophy (Science)
	生命機能学 Frontier Bioscience	修士 Master's Course	修士 (生命科学) Master of Science (Bioscience) Master of Science (Clinical Plant Science)
		博士後期 Doctor's Course	博士 (生命科学) Doctor of Philosophy (Science)
情報科学 Computer and Information Sciences	情報科学 Computer and Information Sciences	修士 Master's Course	修士 (理学) Master of Science (Computer and Information Sciences)
		博士後期 Doctor's Course	博士 (理学) Doctor of Philosophy (Science)

## &lt; 特別学生 &gt;

研究生	non-degree student (doctor level)
研究員	research fellow
研修生	non-degree student (master level)
科目等履修生 (聴講生)	Auditor

### 3. 法政大学プライバシーポリシー

学校法人法政大学(以下、「本学」という。)は、わが国の高等教育の充実に寄与すべき学校法人として、個人に関する情報であって、特定の個人を識別できる情報又は他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができるもの(以下、「個人情報」という。)を取得、利用、管理することがあります。その際、本学は、個人情報の保護に関する法律(以下、「個人情報保護法」という。)等の法令を遵守し、個人情報を保護するとともに、できる限り、個人の意思を尊重しつつ、個人情報を取り扱うことが社会的責務と考え、次の取組みを推進してまいります。

#### (1) 個人情報の保護、安全管理措置

- ・ 本学は、個人情報保護法等の法令を遵守いたします。
- ・ 本学は、個人情報の保護、運用、厳重な管理を実施いたします。  
また、個人情報保護に関する監査を実施するとともに、学内体制、運用の改善を図ります。  
また、本学が個人情報の取扱いを外部に委託する場合には、委託先の監督を実施いたします。
- ・ 本学は、個人情報保護及び特定個人情報取扱規程等の学内規程を定め、教職員に個人情報の保護を徹底し、教育啓発活動を推進いたします。
- ・ 本学は、保有する個人情報について、不正アクセス、漏洩、滅失又は毀損等の管理上のリスクが存在することを常に強く意識し、これらに対する人的、物的安全管理措置を講じます。
- ・ 本学は、本プライバシーポリシーや学内規程の運用について、法令等の改正、社会情勢の変化、監査の結果等に応じて継続的に改善してまいります。

#### (2) 個人情報の取扱い

- ・ 取得する個人情報の利用目的について  
本学は、必要に応じて個人情報を収集する際には、その利用目的を明らかにし、収集した個人情報の使用範囲を目的達成のために必要な範囲に限定し、適切に取扱うように努めます。  
また、取扱う個人情報の利用目的を変更する場合は、変更前の利用目的と関連性を有すると合理的に認められる範囲内で行い、変更された利用目的を本人に通知、または公表します。
- ・ 第三者提供  
本学は、以下の①から⑥に記載する場合を除き、個人データ(「個人データベース等」を構成する個人情報)をあらかじめ本人の同意を得ないで、第三者に提供することはありません。  
また、個人データに該当しない個人情報についても、できる限り個人データに準じて取扱います。
- ①法令に基づいて個人情報を取扱う場合
- ②人の生命、身体又は財産の保護のために必要な場合であって、本人の同意を得ることが困難である場合
- ③公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
- ④国の機関又は地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要があるため、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき
- ⑤本学「個人情報の取扱ガイドライン」に基づいて提供するとき
- ⑥個人情報保護法に基づくオプトアウトを行っている場合

#### (3) 問合わせ先

個人情報に関する問合わせは、  
問合わせ窓口(法政大学総務部庶務課 TEL:03-3264-9223 平日 9:00~17:00)にてお受けいたします。

## 4. 学生相談室

### ■学生相談室とは … 大学院生も利用できます。

学生相談室は、大学生活で直面するさまざまな問題について、あなたとともに考え、解決の糸口を探しているったり、新しい視点を見つけたりなど、よりよい「次の一歩」が踏み出せるように、お手伝いをしているところです。

誰に相談してよいかわからないとき、気軽に利用してください。カウンセラーが、丁寧にお話を聞き、どうしたらよいかを一緒に考えていきます。

### 【たとえばこんなときに】

- ・ 人間関係がうまくいかない
- ・ 最近眠れない
- ・ 大学生活になじめない
- ・ 自分の性格を知りたい
- ・ 学業(勉強)で悩んでいる
- ・ 将来のことで迷っている など。

### ■学生相談室の利用方法

直接来室するか、メールまたは電話で予約してください。

### ■相談方法:対面・電話・Zoom(2回目以降)

相談時間は、1回約30分～45分でその人に合わせて必要な時間をお取りしています。希望により継続することも可能です。

一人では心細いと感じられる方は、友人や、家族の方と一緒に来室されても構いません。

相談内容など秘密は守られますので、安心して来室してください。

(来室者ご本人、または他者の生命、身体に危険が及ぶ可能性がある場合、法律に触れるような内容の場合などは、例外的に、ご家族や関係者の方にお知らせすることがあります。)

キャンパス	場所	電話	受付時間	メールアドレス
小金井キャンパス	管理棟 4階	042-387-6050	[月～金] 9:30～11:30、 12:30～16:30	kgakusou_fm@ml.hosei.ac.jp

### ■インフォメーション

学生相談室は、相談だけでなく、次のようなことも行っています。

#### ・心理テスト

性格や対人関係の傾向を知るためのテストです。結果は、カウンセラーが、個別に面談しながらお伝えします。自分を知るきっかけとして利用してください。

#### ・グループワークの企画

学内の掲示板やホームページで随時お知らせしますので、興味のある方は、ぜひ参加してみてください。利用が初めての方も大歓迎です。

#### ・法律相談(原則月1回)

#### ・相談方法:対面(市ヶ谷)・Zoom

弁護士による法律相談を原則月1回実施しています。開催日は学生相談室ホームページでお知らせします。希望される方は、予約をお願いします。HPは下記QRコードでアクセスできます。



## 5. 障がい学生支援室

### ■障がい学生支援室とは

大学では、様々な障がいのある学生が学んでいます。

障がい学生支援室は、障がいのある学生がその他の学生と同等に学べる環境の実現をめざし、障がい学生支援室のコーディネーターが、修学支援(合理的配慮の調整)を中心に、学生が社会へ出るための自立を

サポートしています。

また、障がい学生支援に関する啓発活動や学生ボランティア(障がい学生サポートスタッフ)の募集、育成を行っています。

### ■支援室の主な活動

支援室の主な活動は以下のとおりです。

- ・ 障がいのある学生との個別面談
- ・ 授業、定期試験等における配慮内容の調整
- ・ 学生生活の支援
- ・ 進路・就職の支援
- ・ 障がいのある学生支援に関する啓発活動
- ・ 各種講習会の実施、学生サポートスタッフの育成など

### ■障がい学生支援室

キャンパス	場所	電話	開室時間	メールアドレス
小金井キャンパス	管理棟 2階	042-387-4556	[月～金] 9:00 ～ 11:30 12:30 ～ 17:00	kshien@hosei.ac.jp

## 6. ハラスメント相談室

### ■ハラスメント相談室

専門相談員がお話を伺い、相談者の希望を聞き取り、プライバシーに配慮し一緒に改善方法を探します。

場 所	市ヶ谷キャンパス ※オンライン(Zoom)相談、小金井キャンパスへの出張相談も行います。
開 室	[月～金] 9:30～11:30、12:30～16:30(11:30～12:30 は応相談)※土日、祝日は閉室
相 談 方 法	相談は面談を基本としています。事前予約の上お越しください。 ※大学ホームページに相談申込書あり。
連 絡 方 法	E-mail: stopharass@hosei.ac.jp (推奨) TEL: 03-3264-4409 FAX: 03-3264-4410

### ■本学におけるハラスメントとは

教育・研究、修学など、本学のあらゆる環境において、本学構成員の不適切な言動によって、他の構成員に不利益または損害を与えたり、あるいはその者の尊厳もしくは人権を侵害したりすることをいいます。相手が言動を不適切と受け止める場合はハラスメントになる可能性があります。一方で価値観や感じ方の基準は人それぞれ多様なものであり、言動がハラスメントにあたるかどうかの境界線は相手との人間関係や前後の状況により変化します。

<例>

- 「そんなことも分からないのか」「できないなら(大学・履修・ゼミ等を)やめてしまえ」「大学院生失格」など、一方的に感情にまかせて責め立てる、必要以上に長時間執拗に叱る、繰り返し人格を否定する言動をする。
- 正当な理由なく、必要な教育・研究指導をしない。
- 正当な理由なく、学会や論文などで研究成果の発表を認めない。成果の横取りをする。

- 教育や研究に無関係な雑務または私用を強要する。
- 深夜や休日、著しく長時間に渡る研究の強要、研究活動に行き詰った際に一方的に責任を押し付ける等の行為。
- 成績評価や研究指導などの便宜をほのめかして性的関係をせまる。
- 執拗に性的行為への誘いや交際の働きかけを行う(ストーカー行為を含む)。
- 性的思考・性自認について差別的な発言をしたり、本人の許可なく口外する。

## ■ハラスメントのないキャンパスのために

### 被害にあったら

- ハラスメントを受けていると感じたら、一人で悩まずに、ハラスメント相談室に相談してください。  
相談室には家族や信頼できる友人、教職員と一緒に来室することもできます。
- あなたが受けた言動について、日時・場所等がわかる記録を残してください。相談や申立ての際に役立ちます。
- 緊急の場合や暴力行為などにより心身に危険を感じる場合は、周囲に助けを求め、警察に連絡をしてください。

### 加害者にならないために

- 反対意見や「ノー」という意思表示がないからといって、それが合意・同意とは限りません。指導者や先輩など立場が上の人は十分な配慮をしてください。
- 相手がハラスメントとして受けとめていることがわかったら、すぐに行為・言動等を止めて真摯な態度で謝罪しましょう。

### ハラスメントをみかけたら

- ハラスメントを見過ごさない勇気を持ちましょう。もしあなたが相談されたら、必要に応じてハラスメント相談室での相談を勧めてください。
- ※ハラスメントを受けている方への接し方、相談された場合の対応方法についてもご相談ください。

### 女性研究者への支援

- 女性研究者を含む女性相談者の心理的負担への配慮として、専門相談員、相談や審査に関わる教員・職員等のスタッフについて、女性による対応を可能としています。

## ■ Q & A

Q1 忙しくて相談室へ行く時間がないので、メールで相談できませんか。

- A 時間の調整が難しい場合は、メールで相談できると便利ですが、ハラスメント相談室の相談は「面談」を基本としています。文面のやりとりだけでは細かいニュアンスや真意が伝わりにくいことがあり、誤送信をはじめ相談内容を守秘するうえでのリスクもあります。また、相談者から送られてきたメールだけをもとに、相談室が独自に調査をしたり対応策をとったりすることは、本学のハラスメント防止・対策規程の上でもできないことになっています。
- 授業時間等の関係で面談時間をとることが難しい場合もあると思いますが、可能な限り時間を調整いたします。オンライン（Zoom）での面談も可能ですので、まずは[ハラスメント相談室 Web サイト](#)にある「相談申込書」ご記入のうえ、お問い合わせください。

Q2 私の受けた行為・言動が、ハラスメントかどうか確信がもてずに悩んでいます。

- A 「ハラスメントかどうかを知りたい」という気持ちの裏には、いろいろな思いがあると思います。「こちらにも落ち度があったのではないか」と必要以上に自分を責めてしまうようなとき、「それはハラスメントの可能性がありそうだ」と言ってもらうだけで救われることもあるでしょう。

「悩んでいる」ということは、相手との関係の中で傷ついたり、不快な気持ちがあったりということだと思います。ただ、あなたが嫌な気持ちになったからといって、すべて「ハラスメント」と認められるというものではありません。

一方で、あなたの受けている言動は、客観的な立場から見て重大なハラスメントであると判断されることがあるかもしれません。「自分さえ我慢すれば」と一人で抱え込むことで、心身の具合を悪くしてしまったり、他の人に被害が広がったりする可能性もあります。あるいは、現時点ではハラスメントとまでは言えないまでも、そのままにしているうちに相手の言動がエスカレートすることもあり得ます。相談室では、大きな問題になる前に早めに対応を考えることがとても大事だと考えています。

ハラスメント相談室の面談では、相談者（当事者一方）のお話だけお聞きすることになるため、ハラスメントに該当するかどうかの認定はできない仕組みになっていますが、相談者の気持ちを踏まえながら、問題の改善方法を一緒に探ることはできますので、ハラスメントかどうか迷う場合でも遠慮なくご相談いただければと思います。

「ハラスメントかどうか大学として判断してほしい」「相手方を処分してほしい」等要望がある場合は「申立て」という制度があります。詳細は相談室で説明いたします。

Q3 ハラスメント相談室に相談したら、大ごとになるのではと思うと怖くなります。相談したことが相手に知られてしまうと思うと心配になります。

A ハラスメント相談室には守秘義務があります。相談者の了解なしに個人情報や相談内容をハラスメント相談室の外部に出すことはありません（※1）（※2）。

相談の中で、所属研究科等に関係調整や配慮等を依頼する、ということになった場合でも、誰にどこまでの内容をお伝えするか、必ず相談者の了解を得ながら進めていきます。相談したことで、さらに辛い思いをすることが無いよう、相談者の意向を尊重しながら最大限の配慮をしています。

（※1）相談者または他の方の生命・身体を守るため、緊急の対応を要するときなどは、必要な範囲内でご家族あるいは学内外の関係機関への連絡を優先する場合があります。

（※2）相談での改善に至らず、次の段階（申立て）をおこなう場合は、原則として審査の過程で、相手方や関係者に対して必要な範囲内で氏名や相談内容が開示されます。

■ハラスメントの防止体制や相談に関する詳細は、大学 Web サイトをご覧ください。

検索🔍:法政大学\_ハラスメント相談室

## 大学院の歩み

- 1951 年 人文科学研究科に哲学・日本文学・英文学専攻、社会科学研究科に経済学専攻のそれぞれ修士課程を設置
- 1952 年 人文科学研究科に国史学専攻(夜間)と社会科学研究科に私法学専攻の修士課程を設置
- 1953 年 人文科学研究科に地理学専攻(夜間)の修士課程を設置 大学院専用校舎 53 年館竣工
- 1954 年 国史学専攻を日本史学専攻に名称変更
- 1955 年 哲学・日本文学・英文学・日本史学・地理学専攻、経済学・私法専攻に博士後期課程を設置
- 1956 年 社会科学研究科に政治学専攻・修士課程を設置
- 1958 年 政治学専攻に博士後期課程を設置
- 1964 年 社会科学研究科に社会学専攻・修士課程を設置
- 1965 年 工学研究科を設置し、修士課程に機械工学・電気工学・建設工学専攻を設置
- 1966 年 社会学専攻に博士後期課程を設置
- 1968 年 電気工学専攻に博士後期課程を設置
- 1985 年 工学部大学院棟竣工
- 1986 年 機械工学・建設工学に博士後期課程を設置
- 1987 年 工学研究科にシステム工学専攻・修士課程を設置
- 1989 年 システム工学専攻に博士後期課程を設置
- 1991 年 私法学専攻を法律学専攻に名称変更
- 1992 年 経営学専攻を経済学専攻から分離独立させ、経営学専攻に修士・博士後期課程を設置。経済学と経営学専攻の修士課程で昼夜開講制を実施。 大学院専用棟 92 年館(現大学院棟)竣工
- 1995 年 経営学専攻・博士後期課程で昼夜開講制を実施(日本初の夜間博士後期課程)
- 1998 年 法律学専攻・修士課程に法曹コースを設置し、従来のものを研究コースとした。政治学専攻・修士課程で昼夜開講制を実施
- 2000 年 工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を設置  
電気学専攻・修士課程に 1 年制 IT プロフェッショナルコースを設置  
人文科学研究科・全専攻修士課程で昼夜開講制を設置
- 2001 年 社会科学研究科に政策科学専攻(昼夜開講制)修士・博士後期課程を設置
- 2002 年 人間社会研究科および情報科学研究科(ともに修士・博士後期課程)を設置
- 2003 年 社会科学研究科環境マネジメント専攻修士課程および国際日本学インスティテュートを設置  
社会科学研究科経済学専攻・博士後期課程で昼夜開講制を実施
- 2004 年 法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科、国際文化専攻、国際日本学インスティテュート(博士後期課程)を設置  
社会科学研究科を改組し、経済学研究科経済学専攻、法学研究科法律学専攻、政治学研究科政治学専攻、社会学研究科社会学専攻、経営学研究科経営学専攻、政策科学研究科政策科学専攻、環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻を設置
- 2005 年 経営学研究科キャリアデザイン学専攻、システムデザイン研究科システムデザイン専攻、イノベーション・マネジメント研究科アカウントニング専攻を設置
- 2006 年 人文科学研究科心理学専攻を設置  
人文科学研究科国際文化専攻を改組し、国際文化研究科国際文化専攻を設置
- 2008 年 政策創造研究科政策創造専攻を設置

- 2010 年 政治学研究科に国際政治学専攻を設置  
工学研究科建設工学専攻とシステムデザイン研究科を改組し、デザイン工学研究科建築学専攻、都市環境デザイン工学専攻、システムデザイン専攻を設置  
工学研究科に生命機能学専攻を設置
- 2011 年 国際日本学インスティテュートが改組転換の上、人文科学研究科に設置  
人文科学研究科日本史学専攻を史学専攻へ名称変更
- 2012 年 政治学(夜)、政策科学、環境マネジメント、政策創造政治・行政プログラムの 4 研究科を統合、公共政策研究科として設置  
工学研究科生命機能学専攻内に植物医科学領域を設置
- 2013 年 工学研究科を改組し、理工学研究科機械工学専攻、電気電子工学専攻、応用情報工学専攻、システム工学専攻、応用化学専攻、生命機能学専攻を設置  
経営学研究科から独立改組し、キャリアデザイン学研究科キャリアデザイン学専攻を設置  
社会学専攻・修士課程にメディアコースを設置し、従来のものを社会学コースとした。
- 2015 年 連帯社会インスティテュート(修士課程)を設置
- 2016 年 公共政策研究科にサステナビリティ学専攻を設置、スポーツ健康学研究科スポーツ健康学専攻を設置  
理工学研究科と情報科学研究科との横断型英語学位プログラム(IIST)を設置  
理工学研究科システム工学専攻をシステム理工学専攻へ名称変更
- 2015 年 連帯社会インスティテュート(修士課程)を設置
- 2016 年 公共政策研究科にサステナビリティ学専攻を設置、スポーツ健康学研究科スポーツ健康学専攻を設置
- 2017 年 経済学研究科経済学専攻・修士課程に 1 年制を設置
- 2019 年 人文科学研究科国際日本学インスティテュートと上海外国語大学日本文化経済学院との共同学位(ダブル・ディグリー)プログラム開設

# 2026 年度 小金井大学院要項Ⅱ

## 情報科学研究科 履修案内

# 情報科学研究科

## 1. 修士課程のカリキュラム

修士課程の授業科目は「講義科目」「セミナー」から成り、これらの科目を 2 年間(4 セメスター)に配当して授業を実施します。

専門科目は、「第 1 研究領域(コンピュータ基礎)」「第 2 研究領域(情報システム)」「第 3 研究領域(メディア科学)」「第 4 研究領域(国際化対応情報科学)」「共通領域」の 5 つの教育研究領域から構成され、主に講義を中心に授業が進められます。

セミナー科目は、各教員が自身の研究内容をプレゼンテーションしたり、学生が各自で研究分野にもとづいて指導教員を決め、論文審査を受けるために必要な研究指導を受けます。研究指導を受けた学生は、その成果を修士論文として提出し、審査の結果、修士(理学)の学位が授与されます。

		科目名	セメ	単位	担当教員	備考	開講予定	
講義科目	第 1 研究領域	コンピュータアーキテクチャ特論 Advanced Computer Architecture	春	2	李 亜民	英語で講義	偶数年	
		インターネットアーキテクチャ Internet Architecture	春	2	廣津 登志夫	2026 年度休講	奇数年	
		暗号理論 Cryptography	春	2	尾花 賢		偶数年	
		量子コンピュータ特論 Introduction to quantum computing	春	2	川畑 史郎	2026 年度休講	奇数年	
		オブジェクト指向言語 Object Oriented Language	秋	2	藤田 悟	2026 年度休講	奇数年	
		数理モデリング特論 Mathematical Modelling	秋	2	相島 健助	2026 年度休講	奇数年	
		計算機科学のための数学 Concrete Mathematics	秋	2	首藤 裕一		偶数年	
		第 2 研究領域	プログラミング言語処理系特論 Advanced Programming Language Processors	春	2	佐々木 晃		偶数年
	進化システム論 Evolutionary Systems		春	2	佐藤 裕二		毎年	
	データベースプログラミング言語 Database Programming Languages		秋	2	日高 宗一郎	2026 年度休講	奇数年	
	可視化特論 Advanced Visualization		春	2	細部 博史	2026 年度休講	偶数年	
	人工知能特論 Advanced AI		秋	2	黄 潤和	英語で講義	毎年	
	先端網とコンピューティング Advanced Networking and Computing		秋	2	馬 建華	英語で講義	偶数年	
	データマイニング特論 Advanced Data Mining		春	2	赤石 美奈	2026 年度休講	奇数年	

		科目名	セメ	単位	担当教員	備考	開講予定
第3研究領域	講義科目	科学技術シミュレーション Computational Science and Engineering	秋	2	善甫 康成	2026 年度休講	奇数年
		線形システム特論 Advanced Linear System Theory	春	2	小西 克巳		偶数年
		多次元信号画像処理 Multi-Dimensional Signal and Image Processing	春	2	担当者未定	2026 年度休講	未定
		3次元映像技術特論 Advanced 3D Imaging	春	2	小池 崇文		偶数年
		音声・言語処理特論 Speech and Language Processing	秋	2	伊藤 克亘	2026 年度休講	奇数年
		コンピュータグラフィックス特論 Advanced Computer Graphics	春	2	佐藤 周平	2026 年度休講	奇数年
		画像メディア情報特論 Advanced Image Media Information	秋	2	高村 誠之	2026 年度休講	奇数年
		応用解析入門 Topics in Mathematical Methods	春	2	伊藤 克亘		毎年
		グローバル CIS 特別講義 1 Global CIS Special Lecture 1	秋	2	内田 薫	英語で講義	毎年
	グローバル CIS 特別講義 2 Global CIS Special Lecture 2	秋	2	GUO Jia	英語で講義	毎年	
	グローバル CIS 特別講義 3 Global CIS Special Lecture 3	春	2	内田 薫	英語で講義	毎年	
	グローバル CIS 特別講義 4 Global CIS Special Lecture 4	春	2	内田 薫	英語で講義	毎年	
	ビジネスアプリケーションシステム開発 Business Application System Development	秋	2	担当者未定	英語で講義 2026 年度休講	未定	
	Web システム開発 Web System Development	秋	2	小林 郁夫	英語で講義	毎年	
	ソフトウェアプロセス及び品質保証 Software Process and Quality Assurance	秋	2	小池 太	英語で講義	毎年	
	企業システム構築のためのソフトウェア基盤 Software Architecture for Enterprise Systems	秋	2	山本 学 他	英語で講義	毎年	
	オブジェクト指向 Web 設計 Object Oriented Web Programming	春	2	小林 郁夫	英語で講義	毎年	
	ソフトウェア技術者の為の技術英語の書き方 Technical Writing for Software Engineers	春	2	担当者未定	英語で講義 2026 年度休講	未定	
	論文の書き方と発表技術 Writing and Presentation for Thesis	秋	2	内田 薫	英語で講義	毎年	
日本語コミュニケーション初中級(春) Pre-Intermediate Japanese Communication in Spring	春	2*	村松 葉子	英語で講義	毎年		
日本語コミュニケーション初中級(秋) Pre-Intermediate Japanese Communication in Fall	秋	2*	村松 葉子	英語で講義	毎年		

◎日本語コミュニケーション初中級(春)・(秋)は原則留学生対象の授業である。

◎単位欄に\*がついている日本語コミュニケーション初中級(春)・(秋)は修了単位(30単位)には含まれない。

		科目名	セメ	単位	担当教員	備考	開講予定
講義科目	共通領域	情報科学特別講義 1 (アルゴリズムとデータ構造) Special Lecture for Computer and Information Sciences 1 (Data Structures and Algorithms)	春	2	坂本 寛		毎年
		情報科学特別講義 2 (画像認識特論) Special Lecture for Computer and Information Sciences 2 (Advanced Image processing)	春	2	担当者未定	英語で講義 2026 年度休講	未定
		情報科学特別講義 3 (オペレーティングシステム) Special Lecture for Computer and Information Sciences 3 (Operating System)	春	2	担当者未定	英語で講義 2026 年度休講	未定
		情報科学特別講義 4 (知能メディア処理) Special Lecture for Computer and Information Sciences 4 (Intelligent Media Processing)	春	2	GUO Jia	英語で講義	未定
		情報科学特別講義 5 (音声・音楽処理特論) Special Lecture for Computer and Information Sciences 5 (Voice and Acoustics)	春	2	担当者未定	2026 年度休講	毎年
		情報科学特別講義 6 (テキストマイニング特論) Special Lecture for Computer and Information Sciences 6 (Text Mining)	秋	2	横野 光		毎年
		インターンシップ Internship	秋集中	2	佐々木 晃	履修希望者は春学期ガイダンスに参加すること	未定
		IoT システムとサイバーセキュリティ Cyber Security for IoT Systems	秋	2	池田 竜朗 他		毎年
		暗号とその応用 Cryptography and its Applications	秋	2	真鍋 義文 (IIST)	英語で講義	毎年
		ニューラルネットワークの理論と応用 Theory and Applications of Neural Networks	秋	2	齊 欣 (応用情報工学専攻)	英語で講義	毎年
		大規模言語モデルを用いた生成型 AI Generative AI with Large Language Models	秋	2	GUO Ao (応用情報工学専攻)	英語で講義	毎年
セミナー	必修	情報科学特別研究 1A Special Research for Computer and Information Sciences 1A	半期	各 1	各指導教員		毎年
		情報科学特別研究 1B Special Research for Computer and Information Sciences 1B	半期	各 2	各指導教員		毎年
		情報科学特別研究 2A Special Research for Computer and Information Sciences 2A	半期	各 1	各指導教員		毎年
		情報科学特別研究 2B Special Research for Computer and Information Sciences 2B	半期	各 2	各指導教員		毎年
		情報科学特別演習 1A Special Seminar for Computer and Information Sciences 1A	半期	各 1	各指導教員		毎年
		情報科学特別演習 1B Special Seminar for Computer and Information Sciences 1B	半期	各 1	各指導教員		毎年
		情報科学特別演習 2A Special Seminar for Computer and Information Sciences 2A	半期	各 1	各指導教員		毎年
		情報科学特別演習 2B Special Seminar for Computer and Information Sciences 2B	半期	各 1	各指導教員		毎年
	2 単位以上	情報科学オープンセミナー1 Open Seminar for Computer and Information Sciences 1	春	2	各教員		偶数年
		情報科学オープンセミナー2 Open Seminar for Computer and Information Sciences 2	春	2	各教員	2026 年度休講	奇数年
		CIS グローバルセミナー CIS Global Seminar	秋	2	高村 誠之 他	英語で講義	毎年

論文	修士論文(M2のみ) Thesis of Master Degree	半期	0	各指導教員		毎年
----	---------------------------------------	----	---	-------	--	----

◎「情報科学特別研究」「情報科学特別演習」(修士論文研究指導)研究テーマは、指導を希望する教員と、事前に話し合っ決定すること。情報科学研究科各教員の詳細な研究テーマは、情報科学部ホームページ(<https://cis.hosei.ac.jp/>)を参照する。

◎「特別研究」・「特別演習」は必修である。

◎インターンシップ、情報科学特別研究、情報科学特別演習は GPA の対象にならない。

## 2. 博士後期課程のカリキュラム

博士後期課程では、各自が第1領域から第3領域の研究分野にもとづいて指導教員を決め、論文審査を受けるために必要な研究指導を受けます。研究指導を受けた学生は、その成果を博士論文として提出し、審査の結果、博士(理学)の学位が授与されます。

科目・領域		科目名	学年	セメ	単位	担当教員	備考	開講予定
コースワーク	2 選科目 4 必修 単位	コンピュータ基礎プロジェクト Computer Fundamentals Project	/	*	2	*		毎年
		情報システムプロジェクト Information Systems Project	/	*	2	*		毎年
		メディア科学プロジェクト Media Science Project	/	*	2	*		毎年
		国際インターンシップ Global Internship	/	*	2	*	履修希望者は春学期ガイダンスに参加すること	毎年
セミナー	第1 研究 領域	コンピュータ基礎特別研究1A Special Research on Computer Fundamentals 1A	1	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別研究1B Special Research on Computer Fundamentals 1B	1	半期	2	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別研究2A Special Research on Computer Fundamentals 2A	2	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別研究2B Special Research on Computer Fundamentals 2B	2	半期	2	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別研究3A Special Research on Computer Fundamentals 3A	3	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別研究3B Special Research on Computer Fundamentals 3B	3	半期	2	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別演習1A Special Seminar on Computer Fundamentals 1A	1	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別演習1B Special Seminar on Computer Fundamentals 1B	1	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別演習2A Special Seminar on Computer Fundamentals 2A	2	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別演習2B Special Seminar on Computer Fundamentals 2B	2	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別演習3A Special Seminar on Computer Fundamentals 3A	3	半期	1	各指導教員		毎年
		コンピュータ基礎特別演習3B Special Seminar on Computer Fundamentals 3B	3	半期	1	各指導教員		毎年
	第2 研究 領域	情報システム特別研究 1A Special Research on Information Systems 1A	1	半期	1	各指導教員		毎年
		情報システム特別研究 1B Special Research on Information Systems 1B	1	半期	2	各指導教員		毎年
		情報システム特別研究2A Special Research on Information Systems 2A	2	半期	1	各指導教員		毎年
		情報システム特別研究2B Special Research on Information Systems 2B	2	半期	2	各指導教員		毎年
		情報システム特別研究3A Special Research on Information Systems 3A	3	半期	1	各指導教員		毎年
		情報システム特別研究3B Special Research on Information Systems 3B	3	半期	2	各指導教員		毎年

	情報システム特別演習1A Special Seminar on Information Systems 1A	1	半期	1	各指導教員		毎年
	情報システム特別演習1B Special Seminar on Information Systems 1B	1	半期	1	各指導教員		毎年
	情報システム特別演習2A Special Seminar on Information Systems 2A	2	半期	1	各指導教員		毎年
	情報システム特別演習2B Special Seminar on Information Systems 2B	2	半期	1	各指導教員		毎年
	情報システム特別演習3A Special Seminar on Information Systems 3A	3	半期	1	各指導教員		毎年
	情報システム特別演習3B Special Seminar on Information Systems 3B	3	半期	1	各指導教員		毎年

科目・領域	科目名	学年	セメ	単位	担当教員	備考	開講予定
セミナー 第3研究領域	メディア科学特別研究1A Special Research on Media Science 1A	1	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別研究1B Special Research on Media Science 1B	1	半期	2	各指導教員		毎年
	メディア科学特別研究2A Special Research on Media Science 2A	2	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別研究2B Special Research on Media Science 2B	2	半期	2	各指導教員		毎年
	メディア科学特別研究3A Special Research on Media Science 3A	3	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別研究3B Special Research on Media Science 3B	3	半期	2	各指導教員		毎年
	メディア科学特別演習1A Special Seminar on Media Science 1A	1	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別演習1B Special Seminar on Media Science 1B	1	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別演習2A Special Seminar on Media Science 2A	2	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別演習2B Special Seminar on Media Science 2B	2	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別演習3A Special Seminar on Media Science 3A	3	半期	1	各指導教員		毎年
	メディア科学特別演習3B Special Seminar on Media Science 3B	3	半期	1	各指導教員		毎年

◎特別研究・特別演習に加え、コースワーク科目のうち2科目(4単位)を修得すること。開講期・担当教員については別途周知する。

◎「特別研究」「特別演習」(博士論文研究指導)研究テーマは指導を希望する教員と、事前に話し合っ決定すること。情報科学研究科各教員の詳細な研究テーマは、情報科学部ホームページ(<https://cis.hosei.ac.jp/>)を参照する。

◎「特別研究」「特別演習」は必修である。

# 2026 年度 小金井大学院要項Ⅲ

## 理工学研究科 履修案内

# 理工学研究科

## 1. (理工学研究科)機械工学専攻

### (1) 修士課程授業科目および担当者一覧

授業科目	単位	担当者	備考	英語対応
弾性学特論	2	塚本 英明		
応力解析特論	2	弓削 康平		
材料強度学特論	2	佐藤 英一		
金属物理学特論	2	小泉 隆行		
金属材料学特論	2	担当者未定	本年度休講	
鉄鋼材料工学特論	2	担当者未定	本年度休講	
耐熱材料特論	2	木村 一弘		
非金属材料特論	2	浅井 茂雄		
複合材料特論	2	新井 和吉		
航空宇宙材料特論	2	青木 雄一郎		
応用熱力学特論	2	川上 忠重		
燃焼工学特論	2	川上 忠重		
伝熱工学特論	2	秋吉 亮		
熱動力特論	2	正木 大作		
流体力学特論1	2	辻田 星歩		
流体力学特論2	2	平野 利幸		
流体機械特論1	2	玉木 秀明		
流体機械特論2	2	玉木 秀明		
有限要素法特論	2	津田 徹		
機械力学特論	2	石井 千春	本年度休講	
制御工学特論	2	チャピ ゲンツイ		
機構・機械要素設計開発特論	2	野口 昭治		
機械音響工学特論	2	御法川 学		
人間・感性工学特論	2	菱田 博俊		
航空機設計特論	2	御法川 学		
宇宙飛行体特論	2	中村 揚介		
精密機械特論	2	菱田 博俊		
数値解析法特論	2	松川 豊		
トライボロジー特論	2	野口 昭治		
極地環境学特論	2	金野 祥久・松沢 孝俊		
環境エネルギー技術戦略特論	2	木村 元昭		
機械技術英語特論	2	山田 茂		
フルードパワーシステム特論	2	加藤 友規		

授業科目	単位	担当者	備考	英語対応
精密工学特論	2	吉田 一郎		
機械振動学特論	2	相原 建人		
環境マテリアル特論	2	東出 真澄	本年度休講	
機械工学特別研究1A	1	研究指導担当者	1年次必修	
機械工学特別研究1B	2	研究指導担当者	1年次必修	
機械工学特別研究2A	1	研究指導担当者	2年次必修	
機械工学特別研究2B	2	研究指導担当者	2年次必修	
機械工学特別実験1A	1	研究指導担当者	1年次必修	
機械工学特別実験1B	1	研究指導担当者	1年次必修	
機械工学特別実験2A	1	研究指導担当者	2年次必修	
機械工学特別実験2B	1	研究指導担当者	2年次必修	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1]参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	2年次(留級)	春学期	特別研究2B・特別実験2B

◎「特別研究」(計6単位)・「特別実験」(計4単位)を含む30単位を修得すること。

※「英語対応」とは、IIST生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細はWebシラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## (2)博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
機械工学発展ゼミナール	2	研究指導担当者	必修 (コースワーク科目)
ヒューマンロボティクス特別研究1A・2A・3A	各1	石井 千春	
ヒューマンロボティクス特別研究1B・2B・3B	各2	石井 千春	
ヒューマンロボティクス特別実験1A・2A・3A	各1	石井 千春	
ヒューマンロボティクス特別実験1B・2B・3B	各1	石井 千春	
ヒューマンロボティクス特別研究1A・2A・3A	各1	チャビ ゲンツィ	
ヒューマンロボティクス特別研究1B・2B・3B	各2	チャビ ゲンツィ	
ヒューマンロボティクス特別実験1A・2A・3A	各1	チャビ ゲンツィ	
ヒューマンロボティクス特別実験1B・2B・3B	各1	チャビ ゲンツィ	
ヒューマンロボティクス特別研究1A・2A・3A	各1	相原 建人	
ヒューマンロボティクス特別研究1B・2B・3B	各2	相原 建人	
ヒューマンロボティクス特別実験1A・2A・3A	各1	相原 建人	
ヒューマンロボティクス特別実験1B・2B・3B	各1	相原 建人	
マテリアルプロセッシング特別研究1A・2A・3A	各1	新井 和吉	
マテリアルプロセッシング特別研究1B・2B・3B	各2	新井 和吉	
マテリアルプロセッシング特別実験1A・2A・3A	各1	新井 和吉	
マテリアルプロセッシング特別実験1B・2B・3B	各1	新井 和吉	
環境・エネルギー特別研究1A・2A・3A	各1	川上 忠重	
環境・エネルギー特別研究1B・2B・3B	各2	川上 忠重	
環境・エネルギー特別実験1A・2A・3A	各1	川上 忠重	
環境・エネルギー特別実験1B・2B・3B	各1	川上 忠重	
環境・エネルギー特別研究1A・2A・3A	各1	御法川 学	
環境・エネルギー特別研究1B・2B・3B	各2	御法川 学	
環境・エネルギー特別実験1A・2A・3A	各1	御法川 学	
環境・エネルギー特別実験1B・2B・3B	各1	御法川 学	
航空宇宙熱流体特別研究1A・2A・3A	各1	辻田 星歩	
航空宇宙熱流体特別研究1B・2B・3B	各2	辻田 星歩	
航空宇宙熱流体特別実験1A・2A・3A	各1	辻田 星歩	
航空宇宙熱流体特別実験1B・2B・3B	各1	辻田 星歩	
航空宇宙熱流体特別研究1A・2A・3A	各1	平野 利幸	
航空宇宙熱流体特別研究1B・2B・3B	各2	平野 利幸	
航空宇宙熱流体特別実験1A・2A・3A	各1	平野 利幸	
航空宇宙熱流体特別実験1B・2B・3B	各1	平野 利幸	
材料物性・強度特別研究1A・2A・3A	各1	塚本 英明	
材料物性・強度特別研究1B・2B・3B	各2	塚本 英明	
材料物性・強度特別実験1A・2A・3A	各1	塚本 英明	
材料物性・強度特別実験1B・2B・3B	各1	塚本 英明	
デジタルエンジニアリング特別研究1A・2A・3A	各1	吉田 一朝	
デジタルエンジニアリング特別研究1B・2B・3B	各2	吉田 一朝	

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
デジタルエンジニアリング特別実験1A・2A・3A	各 1	吉田 一朗	
デジタルエンジニアリング特別実験1B・2B・3B	各 1	吉田 一朗	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2 年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3 年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例 1]参照)

[例 1]

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究2B・特別実験2B
		秋学期	特別研究3A・特別実験3A
4 年目	3 年次(留級)	春学期	特別研究3B・特別実験3B

◎コースワーク科目は必修である。

◎「特別研究」(計 9 単位)・「特別実験」(計 6 単位)とコースワーク科目(2 単位)を含む 17 単位を修得すること。

**機械工学専攻 修士課程(材料物性・強度分野) 履修モデル①**

**養成人材像** ● 材料強度や材料工学の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	—	2	弾性学特論		
		—	2	環境マテリアル特論		
		—	2	材料強度学特論		
		—	2	金属物理学特論		
		—	2	非金属材料特論		
		—	1	機械工学特別研究 1 A	1 年次必修科目	
	—	1	機械工学特別実験 1 A	1 年次必修科目		
	秋学期	—	—	2	金属材料学特論	
—		—	2	鉄鋼材料工学特論		
—		2	2	耐熱材料特論		
—		1	2	機械工学特別研究 1 B 機械工学特別実験 1 B	1 年次必修科目 1 年次必修科目	
M2	春学期	—	2	航空宇宙材料特論		
		—	2	複合材料特論		
		—	1	機械工学特別研究 2 A	2 年次必修科目	
		—	1	機械工学特別実験 2 A	2 年次必修科目	
	秋学期	—	2	2	機械工学特別研究 2 B 機械工学特別実験 2 B	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		—	1	—		
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく能力** ● 材料強度や材料工学の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力  
● 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

**想定される進路先** ● 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

**機械工学専攻 修士課程(環境・エネルギー分野) 履修モデル②**

**養成人材像** ● 環境工学やエネルギー分野の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	—	2	流体力学特論 1		
		—	2	応用熱力学特論		
		—	2	機械音響工学特論		
		—	2	流体機械特論 1		
		—	1	機械工学特別研究 1 A	1 年次必修科目	
		—	1	機械工学特別実験 1 A	1 年次必修科目	
	秋学期	—	—	2	極値環境学特論	
		—	—	2	伝熱工学特論	
		—	—	2	航空機設計特論	
		—	2	2	熱動力特論 燃焼工学特論	
—	1	2	機械工学特別研究 1 B 機械工学特別実験 1 B	1 年次必修科目 1 年次必修科目		
M2	春学期	—	2	環境エネルギー技術戦略特論		
		—	1	1	機械工学特別研究 2 A 機械工学特別実験 2 A	2 年次必修科目 2 年次必修科目
	秋学期	—	2	2	機械工学特別研究 2 B 機械工学特別実験 2 B	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		—	1	—		
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく能力** ● 環境工学やエネルギー分野の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力  
● 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

**想定される進路先** ● 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

**機械工学専攻 修士課程(ヒューマンロボティクス分野) 履修モデル③**

**養成  
人材像**

- 制御工学やヒューマンロボティクス分野の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	—	2	数値解析法特論		
		—	2	機械力学特論		
		—	2	機構・機械要素設計開発特論		
		—	2	機械音響工学特論		
		—	2	設計生産システム特論		
		—	1	機械工学特別研究 1 A		1 年次必修科目
	—	1	機械工学特別実験 1 A	1 年次必修科目		
	秋学期	—	—	2		制御工学特論
—		—	2	人間・感性工学特論		
—		—	2	航空機設計特論		
—		2	機械工学特別研究 1 B	1 年次必修科目		
—	1	—	機械工学特別実験 1 B	1 年次必修科目		
M2	春学期	—	2	宇宙飛行体特論		
		—	2	精密機械特論		
		—	1	機械工学特別研究 2 A		2 年次必修科目
		—	1	機械工学特別実験 2 A		2 年次必修科目
	秋学期	—	2	機械工学特別研究 2 B		2 年次必修科目
		—	1	機械工学特別実験 2 B		2 年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく  
能力**

- 制御工学やヒューマンロボティクス分野の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

**想定される  
進路先**

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

**機械工学専攻 修士課程(マテリアルプロセッシング分野) 履修モデル④**

**養成  
人材像**

- 加工工学や材料工学の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	—	2	弾性学特論		
		—	2	環境マテリアル特論		
		—	2	材料強度学特論		
		—	2	金属物理学特論		
		—	2	非金属材料特論		
		—	1	機械工学特別研究 1 A		1 年次必修科目
	—	1	機械工学特別実験 1 A	1 年次必修科目		
	秋学期	—	—	2		応力解析特論
		—	—	2		有限要素法特論
		—	—	2		耐熱材料特論
—		2	機械工学特別研究 1 B	1 年次必修科目		
—	1	—	機械工学特別実験 1 B	1 年次必修科目		
M2	春学期	—	2	航空宇宙材料特論		
		—	2	複合材料特論		
		—	1	機械工学特別研究 2 A		2 年次必修科目
		—	1	機械工学特別実験 2 A		2 年次必修科目
	秋学期	—	2	機械工学特別研究 2 B		2 年次必修科目
		—	1	機械工学特別実験 2 B		2 年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく  
能力**

- 加工工学や材料工学の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

**想定される  
進路先**

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

**機械工学専攻 修士課程(航空宇宙熱流体分野) 履修モデル⑤**

**養成  
人材像**

- 航空宇宙工学や熱流体工学の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期	—	2	流体力学特論 1	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		—	2	応用熱力学特論	
		—	2	数値解析法特論	
		—	2	流体機械特論 1	
		—	1	機械工学特別研究 1 A	
	—	1	機械工学特別実験 1 A		
	秋学期	—	2	流体力学特論 2	
		—	2	伝熱工学特論	
		—	2	流体機械特論 2	
		—	2	熱動力特論	
—		2	燃焼工学特論		
—	2	機械工学特別研究 1 B	1 年次必修科目		
—	1	機械工学特別実験 1 B	1 年次必修科目		
M2	春学期	—	2	宇宙飛行体特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目
		—	1	機械工学特別研究 2 A	
	—	1	機械工学特別実験 2 A		
	秋学期	—	2	機械工学特別研究 2 B	
—		1	機械工学特別実験 2 B		
修得単位数	小計	10	20		
	合計	30			

**身につく  
能力**

- 航空宇宙工学や熱流体工学の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

**想定される  
進路先**

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

**機械工学専攻 修士課程(デジタルエンジニアリング分野) 履修モデル⑥**

**養成  
人材像**

- デジタルエンジニアリング関連分野の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期	—	2	数値解析法特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		—	2	機械力学特論	
		—	2	機構・機械要素設計開発特論	
		—	2	機械音響工学特論	
		—	2	設計生産システム特論	
	—	1	機械工学特別研究 1 A		
	—	1	機械工学特別実験 1 A		
	秋学期	—	2	制御工学特論	
		—	2	人間・感性工学特論	
		—	2	航空機設計特論	
—		2	機械工学特別研究 1 B	1 年次必修科目	
—		1	機械工学特別実験 1 B	1 年次必修科目	
M2	春学期	—	2	フルードパワーシステム特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目
		—	2	精密機械特論	
	—	1	機械工学特別研究 2 A		
	—	1	機械工学特別実験 2 A		
秋学期	—	2	機械工学特別研究 2 B		
	—	1	機械工学特別実験 2 B		
修得単位数	小計	10	20		
	合計	30			

**身につく  
能力**

- デジタルエンジニアリング関連分野の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

**想定される  
進路先**

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

**機械工学専攻 博士後期課程(ヒューマンロボティクス分野) 履修モデル①**

**養成  
人材像**

- ヒューマンロボティクス分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究 1 A ヒューマンロボティクス特別実験 1 A	
	秋学期	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究 1 A ヒューマンロボティクス特別実験 1 A	
D2	春学期	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究 2 A ヒューマンロボティクス特別実験 2 A	
	秋学期	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究 2 B ヒューマンロボティクス特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究 3 A ヒューマンロボティクス特別実験 3 A	
	秋学期	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究 3 B ヒューマンロボティクス特別実験 3 B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

**身につく  
能力**

- ヒューマンロボティクス分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される  
進路先**

- 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

**機械工学専攻 博士後期課程(環境・エネルギー分野) 履修モデル②**

**養成  
人材像**

- 環境・エネルギー分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	環境・エネルギー特別研究 1 A 環境・エネルギー特別実験 1 A	
	秋学期	—	1	環境・エネルギー特別研究 1 B 環境・エネルギー特別実験 1 B	
D2	春学期	—	1	環境・エネルギー特別研究 2 A 環境・エネルギー特別実験 2 A	
	秋学期	—	1	環境・エネルギー特別研究 2 B 環境・エネルギー特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	環境・エネルギー特別研究 3 A 環境・エネルギー特別実験 3 A	
	秋学期	—	1	環境・エネルギー特別研究 3 B 環境・エネルギー特別実験 3 B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

**身につく  
能力**

- 環境・エネルギー分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される  
進路先**

- 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

**機械工学専攻 博士後期課程(デジタルエンジニアリング分野) 履修モデル③**

**養成人材像** ● デジタルエンジニアリング分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究 1 A デジタルエンジニアリング特別実験 1 A	
	秋学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究 1 B デジタルエンジニアリング特別実験 1 B	
D2	春学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究 2 A デジタルエンジニアリング特別実験 2 A	
	秋学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究 2 B デジタルエンジニアリング特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究 3 A デジタルエンジニアリング特別実験 3 A	
	秋学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究 3 B デジタルエンジニアリング特別実験 3 B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

**身につく能力** ● デジタルエンジニアリング分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

**機械工学専攻 博士後期課程(航空宇宙熱流体分野) 履修モデル④**

**養成人材像** ● 航空宇宙熱流体分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究 1 A 航空宇宙熱流体特別実験 1 A	
	秋学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究 1 B 航空宇宙熱流体特別実験 1 B	
D2	春学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究 2 A 航空宇宙熱流体特別実験 2 A	
	秋学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究 2 B 航空宇宙熱流体特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究 3 A 航空宇宙熱流体特別実験 3 A	
	秋学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究 3 B 航空宇宙熱流体特別実験 3 B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

**身につく能力** ● 航空宇宙熱流体分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

**機械工学専攻 博士後期課程(材料物性・強度分野) 履修モデル⑤**

**養成人材像** ● 材料物性・強度分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	材料物性・強度特別研究 1 A 材料物性・強度特別実験 1 A	
	秋学期	—	2	材料物性・強度特別研究 1 B 材料物性・強度特別実験 1 B	
D2	春学期	—	1	材料物性・強度特別研究 2 A 材料物性・強度特別実験 2 A 機械工学発展ゼミナール	
	秋学期	—	2	材料物性・強度特別研究 2 B 材料物性・強度特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	材料物性・強度特別研究 3 A 材料物性・強度特別実験 3 A	
	秋学期	—	2	材料物性・強度特別研究 3 B 材料物性・強度特別実験 3 B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

**身につく能力** ● 材料物性・強度分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

**機械工学専攻 博士後期課程(マテリアルプロセッシング分野) 履修モデル⑥**

**養成人材像** ● マテリアルプロセッシング分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	マテリアルプロセッシング特別研究 1 A マテリアルプロセッシング特別実験 1 A	
	秋学期	—	2	マテリアルプロセッシング特別研究 1 B マテリアルプロセッシング特別実験 1 B	
D2	春学期	—	1	マテリアルプロセッシング特別研究 2 A マテリアルプロセッシング特別実験 2 A 機械工学発展ゼミナール	
	秋学期	—	2	マテリアルプロセッシング特別研究 2 B マテリアルプロセッシング特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	マテリアルプロセッシング特別研究 3 A マテリアルプロセッシング特別実験 3 A	
	秋学期	—	2	マテリアルプロセッシング特別研究 3 B マテリアルプロセッシング特別実験 3 B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

**身につく能力** ● マテリアルプロセッシング分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

## 2. (理工学研究科)応用化学専攻

## (1) 修士課程授業科目および担当者一覧

分野名	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
物性化学分野	分子シミュレーション特論	2	高井 和之	本年度休講	奇数年	○
	分子分光光学特論	2	高井 和之		偶数年	○
	固体分光光学特論	2	緒方 啓典		偶数年	○
	先端材料物性特論	2	緒方 啓典	本年度休講	奇数年	○
	高分子物理化学特論	2	渡辺 敏行			
材料化学分野	無機合成化学特論	2	藤井 孝太郎	本年度休講	奇数年	○
	高機能セラミックス特論	2	藤井 孝太郎		偶数年	○
	有機化学反応特論	2	河内 敦	本年度休講	奇数年	○
	有機合成化学特論	2	河内 敦		偶数年	○
	高エネルギー反応場特論	2	小林 清・松本 尚之			
	無機反応化学特論	2	明石 孝也			○
	高分子合成化学特論	2	杉山 賢次	本年度休講	奇数年	○
	高分子設計特論	2	杉山 賢次		偶数年	○
化学工学分野	化学装置物性特論	2	森 隆昌	本年度休講	奇数年	○
	反応工学特論	2	山下 明泰		偶数年	○
	物質移動特論	2	山下 明泰	本年度休講	奇数年	○
	分離工学特論	2	森 隆昌		偶数年	○
	微粒子材料工学特論	2	神谷 秀博			
	結晶化学工学特論	2	打越 哲郎			
環境化学分野	水環境工学特論	2	渡邊 雄二郎		偶数年	○
	環境計測特論	2	中嶋 吉弘			
	環境衛生学特論	2	福島 由美子・高橋 勉			
	環境科学特論	2	渡邊 雄二郎	本年度休講	奇数年	○
共通選択	起業特論	2	辻井 康一			
	国際会議化学英語表現法	2	山田 茂			○
	フロンティア化学特論 A	2	小鍋 哲・岡田 浩 岡本 敏・本橋 輝樹 田村 堅志	本年度休講	奇数年	
	フロンティア化学特論 B	2	小鍋 哲・菊池 裕 小林 真盛・後関 頼太 富沢 成美・見附 孝一郎		偶数年	
	コンピュータ利用化学特論	2	山田 祐理			
	科学プレゼンテーション演習	2	山田 茂			
	サステナビリティ研究入門A	2	富永 洋一			
	サステナビリティ研究入門B	2	今村 隆史			
	応用化学特別研究1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	応用化学特別研究1B	2	研究指導担当者	1年次必修		
	応用化学特別研究2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	応用化学特別研究2B	2	研究指導担当者	2年次必修		
	応用化学特別実験1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	応用化学特別実験1B	1	研究指導担当者	1年次必修		
	応用化学特別実験2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	応用化学特別実験2B	1	研究指導担当者	2年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。〔例1〕参照

〔例1〕

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	2年次(留級)	春学期	特別研究2B・特別実験2B

◎「特別研究」(計6単位)・「特別実験」(計4単位)を含む30単位を修得すること。

◎授業科目一覧の主要4分野および共通選択の配当科目から、各分野に指定された数以上の単位を受講すること。

物性化学分野 - 2単位(1科目)以上
材料化学分野 - 4単位(2科目)以上
化学工学分野 - 2単位(1科目)以上
環境化学分野 - 2単位(1科目)以上
共通選択 - 2単位(1科目)以上

※「英語対応」とは、IIST生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細はWebシラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## (2)博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
応用化学発展ゼミナール	2	緒方・明石・杉山・山下 河内・高井・森・渡邊	必修(コースワーク 科目)
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	緒方 啓典	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	緒方 啓典	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	緒方 啓典	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	緒方 啓典	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	明石 孝也	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	明石 孝也	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	明石 孝也	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	明石 孝也	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	杉山 賢次	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	杉山 賢次	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	杉山 賢次	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	杉山 賢次	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	山下 明泰	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	山下 明泰	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	山下 明泰	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	山下 明泰	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	河内 敦	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	河内 敦	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	河内 敦	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	河内 敦	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	高井 和之	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	高井 和之	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	高井 和之	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	高井 和之	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	森 隆昌	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	森 隆昌	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	森 隆昌	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	森 隆昌	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	渡邊 雄二郎	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	渡邊 雄二郎	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	渡邊 雄二郎	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	渡邊 雄二郎	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1]参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	3年次	春学期	特別研究2B・特別実験2B
		秋学期	特別研究3A・特別実験3A
4年目	3年次(留級)	春学期	特別研究3B・特別実験3B

◎コースワーク科目は必修である。

◎「特別研究」(計9単位)・「特別実験」(計6単位)とコースワーク科目(2単位)を含む17単位を修得すること。

## 応用化学専攻 修士課程(物性化学分野) 履修モデル①

養成  
人材像

- 物質のもつ様々な機能の探求と新規機能性物質の創製に関する基礎及び応用能力を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	物性化学分野		2	固体分光学特論	
		環境化学分野		2	環境科学特論	
		共通選択		2	国際会議化学英語表現法	
	秋学期	物性化学分野		2	分子分光学特論	
		共通必修	1		応用化学特別研究 1 A	1年次必修科目
		共通必修	1		応用化学特別実験 1 A	1年次必修科目
M2	春学期	材料化学分野		2	高機能セラミックス特論	
		材料化学分野		2	有機化学反応特論	
	化学工学分野		2	化学装置物性特論		
	共通必修	2		応用化学特別研究 1 B	1年次必修科目	
秋学期	共通必修	1		応用化学特別実験 1 B	1年次必修科目	
	物性化学分野		2	先端材料物性特論		
春学期	物性化学分野		2	分子シミュレーション特論		
	共通必修	1		応用化学特別研究 2 A	2年次必修科目	
秋学期	共通必修	1		応用化学特別実験 2 A	2年次必修科目	
	材料化学分野		2	高エネルギー反応場特論		
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 原子・分子に立脚した物質の本質を理解し、物質のもつ様々な機能の探求と新規機能性物質の創製に関する基礎及び応用能力
- 物質設計、材料開発に関する総合的な知識

想定される  
進路先

- 物質開発等に関連した様々な製造業における研究者、技術者

## 応用化学専攻 修士課程(材料化学分野) 履修モデル②

養成  
人材像

- 現代社会が求める新素材開発のための新規合成手法の開発能力を持ち社会で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	物性化学分野		2	固体分光学特論	
		材料化学分野		2	高分子設計特論	
		材料化学分野		2	無機反応化学特論	
	秋学期	共通必修	1		応用化学特別研究 1 A	1年次必修科目
		共通必修	1		応用化学特別実験 1 A	1年次必修科目
		材料化学分野		2	高機能セラミックス特論	
M2	春学期	環境化学分野		2	環境計測特論	
		共通選択		2	サステナビリティ研究入門A	
	共通必修	2		応用化学特別研究 1 B	1年次必修科目	
	共通必修	1		応用化学特別実験 1 B	1年次必修科目	
秋学期	物性化学分野		2	先端材料物性特論		
	共通選択		2	フロンティア化学特論 A/B		
春学期	共通必修	1		応用化学特別研究 2 A	2年次必修科目	
	共通必修	1		応用化学特別実験 2 A	2年次必修科目	
秋学期	材料化学分野		2	高エネルギー反応場特論		
	化学工学分野		2	物質移動特論		
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 有機合成化学、無機合成化学等合成化学的手法の基礎及び応用
- 材料化学に関する総合的な知識

想定される  
進路先

- 物質開発等に関連した様々な製造業における研究者、技術者

### 応用化学専攻 修士課程(化学工学分野) 履修モデル③

#### 養成 人材像

- 環境に調和した化学プロセスの開発分野で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	物性化学分野		2	固体分光化学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		材料化学分野		2	無機反応化学特論	
		環境化学分野		2	環境科学特論	
	共通必修	1		応用化学特別研究 1 A		
	共通必修	1		応用化学特別実験 1 A		
	秋学期	材料化学分野		2	有機合成化学特論	
化学工学分野			2	分離工学特論		
化学工学分野			2	反応工学特論		
共通選択			2	コンピュータ利用化学特論		
共通必修		2		応用化学特別研究 1 B		
共通必修	1		応用化学特別実験 1 B			
M2	春学期	共通必修	1		応用化学特別研究 2 A	2年次必修科目 2年次必修科目
		共通必修	1		応用化学特別実験 2 A	
	秋学期	共通選択		2	起業特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		化学工学分野		2	化学装置物性特論	
		化学工学分野		2	物質移動特論	
		共通必修	2		応用化学特別研究 2 B	
共通必修	1		応用化学特別実験 2 B			
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

#### 身につく 能力

- 環境に調和した化学工学的プロセス開発の基礎及び応用能力

#### 想定される 進路先

- 化学系製造業をはじめ様々な産業分野における研究者、技術者

### 応用化学専攻 修士課程(環境化学分野) 履修モデル④

#### 養成 人材像

- 環境問題を化学的手法により解決できる技術をもち、社会で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	物性化学分野		2	固体分光化学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		材料化学分野		2	高分子設計特論	
		環境化学分野		2	環境科学特論	
	共通選択		2	国際会議化学英語表現法		
	共通必修	1		応用化学特別研究 1 A		
	共通必修	1		応用化学特別実験 1 A		
秋学期	材料化学分野		2	高機能セラミックス特論	1年次必修科目 1年次必修科目	
	化学工学分野		2	反応工学特論		
	環境化学分野		2	環境衛生学特論		
	環境化学分野		2	環境計測特論		
	共通必修	2		応用化学特別研究 1 B		
共通必修	1		応用化学特別実験 1 B			
M2	春学期	共通必修	1		応用化学特別研究 2 A	2年次必修科目 2年次必修科目
		共通必修	1		応用化学特別実験 2 A	
	秋学期	環境化学分野		2	水環境工学特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		共通選択		2	サステイナビリティ研究入門B	
共通必修	2		応用化学特別研究 2 B			
共通必修	1		応用化学特別実験 2 B			
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

#### 身につく 能力

- 環境化学に関する基礎及び応用能力
- 環境保全、環境再生などの化学的解決法に関する能力

#### 想定される 進路先

- 化学系企業、環境分析、環境保全事業等における研究者、技術者

## 応用化学専攻 博士後期課程 履修モデル

養成  
人材像

- 研究者として自立して研究活動を行い、先端化学に関する高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	先端応用化学特別研究 1 A	必修
		—	1	先端応用化学特別実験 1 A	
秋学期	—	2	2	応用化学発展ゼミナール	
	—	1	1	先端応用化学特別研究 1 B 先端応用化学特別実験 1 B	
D2	春学期	—	1	先端応用化学特別研究 2 A	
	—	1	1	先端応用化学特別実験 2 A	
秋学期	—	2	2	先端応用化学特別研究 2 B	
	—	1	1	先端応用化学特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	先端応用化学特別研究 3 A	
	—	1	1	先端応用化学特別実験 3 A	
秋学期	—	2	2	先端応用化学特別研究 3 B	
	—	1	1	先端応用化学特別実験 3 B	
修得単位数		小計	17	0	
		合計	17		

身につく  
能力

- 先端化学に関する高度の研究能力と豊かな学識

想定される  
進路先

- 国内外の化学関連企業の研究所もしくは大学教員

## 3. (理工学研究科)電気電子工学専攻

## (1)修士課程授業科目および担当者一覧

科目区分	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
専門基礎科目	回路工学特論1	2	安田 彰			○
	回路工学特論2	2	斉藤 利通			○
	電磁波通信工学特論1	2	有馬 卓司	2026年度は英語対応をしない		○
	電磁波通信工学特論2	2	広瀬 数秀	本年度休講	奇数年	
	通信伝送工学特論1	2	藤澤 剛	2026年度は英語対応をしない		○
	通信伝送工学特論2	2	広瀬 数秀		偶数年	
	電磁力学特論	2	担当者未定	本年度休講		
	半導体デバイス工学特論1	2	担当者未定	本年度休講		
	電子材料工学特論1	2	担当者未定	本年度休講		
	電子材料工学特論2	2	担当者未定	本年度休講		
	電子物性工学特論1	2	中村 俊博			○
	電子物性工学特論2	2	中村 俊博			○
	知能ロボット特論	2	伊藤 一之			
	知的制御特論	2	伊藤 一之			○
	情報通信工学特論	2	柴山 純			○
	人工知能回路特論	2	鳥飼 弘幸			○
	生物模倣回路特論	2	鳥飼 弘幸			
	電磁界数値解析特論	2	阿波根 明	2026年度は英語対応をしない		○
	ナノマイクロシステム工学特論	2	笠原 崇史			○
	知的情報処理特論1	2	彌富 仁 (応用情報工学専攻)			○
ニューラルネットワークの理論と応用	2	斉 欣 (応用情報工学専攻)			○	
専門応用科目	集積回路特論1	2	南部 博昭			
	集積回路特論2	2	南部 博昭			
	半導体工学特論	2	担当者未定	本年度休講		
	イオンビーム応用工学特論	2	西村 智朗			
	電力システム工学特論1	2	担当者未定	本年度休講		
	知的電機システム設計特論	2	佐々木 秀徳			
	パワーエレクトロニクス特論	2	海野 洋			
	制御工学特論1	2	鈴木 雅康			
	制御工学特論2	2	担当者未定	本年度休講		
	情報伝送工学特論1	2	斉藤 茂樹			
	情報伝送工学特論2	2	斉藤 茂樹			
	応用数学特論	2	田川 泰敬			
	通信機器工学特論1	2	斉藤 茂樹			
	通信機器工学特論2	2	斉藤 茂樹			
	集積化光エレクトロニクス工学特論	2	担当者未定	本年度休講		
	オペレーティングシステム特論	2	担当者未定	本年度休講		
	マイクロ波トランジスタ工学特論	2	担当者未定	本年度休講		
	知能システム化技術特論	2	中村 壮亮			○
	ロボティクス特論	2	岩城 敏			
	電気機器の数理最適化特論	2	岡本 吉史			

科目区分	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
専門応用科目	ナノ材料工学特論	2	担当者未定	本年度休講		
	機械学習特論	2	神野 健哉			
	光電変換デバイス工学特論1	2	担当者未定	本年度休講		
	電気化学エネルギー工学特論	2	五十嵐 泰史	本年度休講		
	生体センシングエレクトロニクス特論	2	担当者未定	本年度休講		
	マルチメディア通信特論	2	深沢 徹	本年度休講		
	電子材料プロセッシング	2	石橋 啓次			
	応用ナノマイクロデバイス特論	2	水野 潤	本年度休講		
	電磁界有限要素法特論	2	阿波根 明			
	電気電子工学特別研究1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別研究1B	2	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別研究2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	電気電子工学特別研究2B	2	研究指導担当者	2年次必修		
	電気電子工学特別実験1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別実験1B	1	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別実験2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	電気電子工学特別実験2B	1	研究指導担当者	2年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1]参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	2年次(留級)	春学期	特別研究2B・特別実験2B

## 【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究1・2」・「特別実験1・2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究1」・「特別実験1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究2A」・「特別実験2A」・「特別研究2B」・「特別実験2B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。([例 2]参照)

[例 2]

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究1・特別実験1
2 年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

◎「特別研究」(計 6 単位)・「特別実験」(計 4 単位)を含む 30 単位を修得すること。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## (2) 博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
回路工学コアスタディ	2	斉藤 利通・安田 彰・鳥飼 弘幸	2 単位 必修 (コースワーク科目)
通信工学コアスタディ	2	柴山 純・藤澤 剛	
マイクロ・ナノ工学コアスタディ	2	中村 俊博・笠原 崇史	
エネルギー工学コアスタディ	2	岡本 吉史・佐々木 秀徳	
制御工学コアスタディ	2	伊藤 一之・中村 壮亮	
プラズマ工学コアスタディ	2	担当者未定	
回路工学特別研究1A・2A・3A	各 1	斉藤 利通	
回路工学特別研究1B・2B・3B	各 2	斉藤 利通	
回路工学特別実験1A・2A・3A	各 1	斉藤 利通	
回路工学特別実験1B・2B・3B	各 1	斉藤 利通	
回路工学特別研究1A・2A・3A	各 1	安田 彰	
回路工学特別研究1B・2B・3B	各 2	安田 彰	
回路工学特別実験1A・2A・3A	各 1	安田 彰	
回路工学特別実験1B・2B・3B	各 1	安田 彰	
回路工学特別研究1A・2A・3A	各 1	鳥飼 弘幸	
回路工学特別研究1B・2B・3B	各 2	鳥飼 弘幸	
回路工学特別実験1A・2A・3A	各 1	鳥飼 弘幸	
回路工学特別実験1B・2B・3B	各 1	鳥飼 弘幸	
通信工学特別研究1A・2A・3A	各 1	柴山 純	
通信工学特別研究1B・2B・3B	各 2	柴山 純	
通信工学特別実験1A・2A・3A	各 1	柴山 純	
通信工学特別実験1B・2B・3B	各 1	柴山 純	

授業科目	単位	担当者	備考
通信工学特別研究1A・2A・3A	各1	藤澤 剛	
通信工学特別研究1B・2B・3B	各2	藤澤 剛	
通信工学特別実験1A・2A・3A	各1	藤澤 剛	
通信工学特別実験1B・2B・3B	各1	藤澤 剛	
電子物性工学特別研究1A・2A・3A	各1	中村 俊博	
電子物性工学特別研究1B・2B・3B	各2	中村 俊博	
電子物性工学特別実験1A・2A・3A	各1	中村 俊博	
電子物性工学特別実験1B・2B・3B	各1	中村 俊博	
制御工学特別研究1A・2A・3A	各1	伊藤 一之	
制御工学特別研究1B・2B・3B	各2	伊藤 一之	
制御工学特別実験1A・2A・3A	各1	伊藤 一之	
制御工学特別実験1B・2B・3B	各1	伊藤 一之	
制御工学特別研究1A・2A・3A	各1	中村 壮亮	
制御工学特別研究1B・2B・3B	各2	中村 壮亮	
制御工学特別実験1A・2A・3A	各1	中村 壮亮	
制御工学特別実験1B・2B・3B	各1	中村 壮亮	
エネルギー工学特別研究1A・2A・3A	各1	岡本 吉史	
エネルギー工学特別研究1B・2B・3B	各2	岡本 吉史	
エネルギー工学特別実験1A・2A・3A	各1	岡本 吉史	
エネルギー工学特別実験1B・2B・3B	各1	岡本 吉史	
エネルギー工学特別研究1A・2A・3A	各1	佐々木 秀徳	
エネルギー工学特別研究1B・2B・3B	各2	佐々木 秀徳	
エネルギー工学特別実験1A・2A・3A	各1	佐々木 秀徳	
エネルギー工学特別実験1B・2B・3B	各1	佐々木 秀徳	
プラズマ工学特別研究1A・2A・3A	各1	担当者未定	
プラズマ工学特別研究1B・2B・3B	各2	担当者未定	
プラズマ工学特別実験1A・2A・3A	各1	担当者未定	
プラズマ工学特別実験1B・2B・3B	各1	担当者未定	
ナノマイクロシステム工学特別研究1A・2A・3A	各1	笠原 崇史	
ナノマイクロシステム工学特別研究1B・2B・3B	各2	笠原 崇史	
ナノマイクロシステム工学特別実験1A・2A・3A	各1	笠原 崇史	
ナノマイクロシステム工学特別実験1B・2B・3B	各1	笠原 崇史	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

次頁の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1]参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	3年次	春学期	特別研究2B・特別実験2B
		秋学期	特別研究3A・特別実験3A
4年目	3年次(留級)	春学期	特別研究3B・特別実験3B

◎コースワーク科目は必修である。コースワーク科目6科目のうち、自身が専門とする分野の科目を1科目履修すること。

◎「特別研究」(計9単位)・「特別実験」(計6単位)とコースワーク科目(2単位)を含む17単位を修得すること。

電気電子工学専攻 修士課程(回路工学分野) 履修モデル①

**養成人材像**

- 回路工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	専門基礎科目		2	回路工学特論 1	
		専門基礎科目		2	通信伝送工学特論 1	
		専門応用科目		2	電気機器の数理最適化特論	
		専門応用科目		2	制御工学特論 1	
		専門応用科目		2	機械学習特論	
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別研究 1 A	1 年次必修科目
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別実験 1 A	1 年次必修科目
	秋学期	専門基礎科目		2	回路工学特論 2	
		専門基礎科目		2	人工知能回路特論	
		専門基礎科目		2	生物模倣回路特論	
		専門基礎科目		2	通信伝送工学特論 2	
		専門応用科目		2	生体センシングエレクトロニクス特論	
		専門応用科目		2	知的電機システム設計特論	
		専門応用科目		2	パワーエレクトロニクス特論	
—	2		電気電子工学特別研究 1 B	1 年次必修科目		
—	1		電気電子工学特別実験 1 B	1 年次必修科目		
M2	春学期	専門応用科目		2	集積回路特論 1	
		—	1		電気電子工学特別研究 2 A	2 年次必修科目
	—	1		電気電子工学特別実験 2 A	2 年次必修科目	
	秋学期	—	2		電気電子工学特別研究 2 B	2 年次必修科目
—		1		電気電子工学特別実験 2 B	2 年次必修科目	
修得単位数	小計	10	26			
	合計	36				

**身につく能力**

- 回路工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用能力
- 電気電子工学全般の基礎力を有する能力

**想定される進路先**

- 電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種

電気電子工学専攻 修士課程(通信工学分野) 履修モデル②

**養成人材像**

- 通信工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	専門基礎科目		2	通信伝送工学特論 1	
		専門基礎科目		2	電磁波通信工学特論 1	
		専門基礎科目		2	回路工学特論 1	
		専門応用科目		2	情報伝送工学特論 1	
		専門応用科目		2	通信機器工学特論 1	
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別研究 1 A	1 年次必修科目
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別実験 1 A	1 年次必修科目
	秋学期	専門基礎科目		2	通信伝送工学特論 2	
		専門基礎科目		2	情報通信工学特論	
		専門基礎科目		2	電磁波通信工学特論 2	
		専門応用科目		2	情報伝送工学特論 2	
		専門応用科目		2	通信機器工学特論 2	
		—	2		電気電子工学特別研究 1 B	1 年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験 1 B	1 年次必修科目
M2	春学期	—	1		電気電子工学特別研究 2 A	2 年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験 2 A	2 年次必修科目
	秋学期	専門応用科目		2	マルチメディア通信特論	
		—	2		電気電子工学特別研究 2 B	2 年次必修科目
—	1		電気電子工学特別実験 2 B	2 年次必修科目		
修得単位数	小計	10	22			
	合計	32				

**身につく能力**

- 通信工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用能力
- 電気電子工学全般の基礎力を有する能力

**想定される進路先**

- 電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種

### 電気電子工学専攻 修士課程(エネルギー工学分野) 履修モデル③

<b>養成 人材像</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギー工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材</li> <li>● 電動化技術の習得による SDGs GOALS 7, 9, 13 を実現できる人材</li> </ul>
-------------------	--

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	専門基礎科目		2	電磁界数値解析特論	
		専門基礎科目		2	回路工学特論 1	
		専門応用科目		2	電気機器の数理最適化特論	
		専門応用科目		2	制御工学特論 1	
		専門応用科目		2	機械学習特論	
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別研究 1 A	1 年次必修科目
	特別研究特別実験	1		電気電子工学特別実験 1 A	1 年次必修科目	
M1	秋学期	専門基礎科目		2	回路工学特論 2	
		専門応用科目		2	パワーエレクトロニクス特論	
		専門応用科目		2	知的電機システム設計特論	
		専門応用科目		2	電磁界有限要素法特論	
		—	2		電気電子工学特別研究 1 B	1 年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験 1 B	1 年次必修科目
M2	春学期	—	1		電気電子工学特別研究 2 A	2 年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験 2 A	2 年次必修科目
	秋学期	専門基礎科目		2	情報通信工学特論	
		—	2		電気電子工学特別研究 2 B	2 年次必修科目
	—	1		電気電子工学特別実験 2 B	2 年次必修科目	
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

<b>身につく 能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギー工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用能力</li> <li>● SDGs GOALS 7, 9, 13 を実現できる電動化技術</li> </ul>
--------------------	---

<b>想定される 進路先</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気電子工学全般の研究者・技術者を必要とするあらゆる業界・業種</li> </ul>
----------------------	---

### 電気電子工学専攻 修士課程(制御工学分野) 履修モデル④

<b>養成 人材像</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 制御工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材</li> </ul>
-------------------	---

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	専門基礎科目		2	知能ロボット特論	
		専門基礎科目		2	回路工学特論 1	
		専門応用科目		2	制御工学特論 1	
		専門応用科目		2	電気機器の数理最適化特論	
		専門応用科目		2	機械学習特論	
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別研究 1 A	1 年次必修科目
	特別研究特別実験	1		電気電子工学特別実験 1 A	1 年次必修科目	
M1	秋学期	専門基礎科目		2	知的制御特論	
		専門基礎科目		2	回路工学特論 2	
		専門応用科目		2	制御工学特論 2	
		専門応用科目		2	ロボティクス特論	
		専門応用科目		2	知能システム化技術特論	
		—	2		電気電子工学特別研究 1 B	1 年次必修科目
—	1		電気電子工学特別実験 1 B	1 年次必修科目		
M2	春学期	—	1		電気電子工学特別研究 2 A	2 年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験 2 A	2 年次必修科目
	秋学期	専門基礎科目		2	情報通信工学特論	
		—	2		電気電子工学特別研究 2 B	2 年次必修科目
	—	1		電気電子工学特別実験 2 B	2 年次必修科目	
修得単位数	小計	10	22			
	合計	32				

<b>身につく 能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 制御工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用能力</li> <li>● 電気電子工学全般の基礎力を有する能力</li> </ul>
--------------------	---

<b>想定される 進路先</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種</li> </ul>
----------------------	---

電気電子工学専攻 修士課程(材料・物性分野)履修モデル⑤

**養成人材像**

- ナノマイクロプロセス工学・電子物性工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	専門基礎科目		2	電子物性工学特論1	
		専門基礎科目		2	ナノマイクロシステム工学特論	
		専門応用科目		2	マイクロ波トランジスタ工学特論	
	秋学期	専門応用科目		2	集積回路特論1	
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別研究1A	1年次必修科目
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別実験1A	1年次必修科目
M2	春学期	専門基礎科目		2	電子物性工学特論2	
		専門応用科目		2	イオンビーム応用工学特論	
		専門応用科目		2	応用ナノマイクロデバイス特論	
	秋学期	専門応用科目		2	ナノ材料工学特論	
		—	2		電気電子工学特別研究1B	1年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	春学期	専門応用科目		2	電気化学エネルギー工学特論	
		—	1		電気電子工学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	専門応用科目		2	電子材料プロセスング	
		—	2		電気電子工学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく能力**

- ナノマイクロプロセス工学・電子物性工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用能力
- 電気電子工学全般の基礎力を有する能力

**想定される進路先**

- 電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種

電気電子工学専攻 博士後期課程(回路工学分野)履修モデル①

**養成人材像**

- 研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
D1	春学期	—	1	—	回路工学特別研究1A	
		—	1	—	回路工学特別実験1A	
		—	2	—	回路工学コアスタディ	必修
D1	秋学期	—	2	—	回路工学特別研究1B	
		—	1	—	回路工学特別実験1B	
D2	春学期	—	1	—	回路工学特別研究2A	
		—	1	—	回路工学特別実験2A	
	秋学期	—	2	—	回路工学特別研究2B	
—		1	—	回路工学特別実験2B		
D3	春学期	—	1	—	回路工学特別研究3A	
		—	1	—	回路工学特別実験3A	
	秋学期	—	2	—	回路工学特別研究3B	
—		1	—	回路工学特別実験3B		
修得単位数	小計	17	0			
	合計	17				

**身につく能力**

- 高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先**

- 国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(通信工学分野) 履修モデル②

**養成人材像** ● 研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	通信工学特別研究 1 A	必修
		—	1	通信工学特別実験 1 A	
		—	2	通信工学コスタディ	
D1	秋学期	—	2	通信工学特別研究 1 B	
		—	1	通信工学特別実験 1 B	
		—	—	—	
D2	春学期	—	1	通信工学特別研究 2 A	
		—	1	通信工学特別実験 2 A	
		—	—	—	
D2	秋学期	—	2	通信工学特別研究 2 B	
		—	1	通信工学特別実験 2 B	
		—	—	—	
D3	春学期	—	1	通信工学特別研究 3 A	
		—	1	通信工学特別実験 3 A	
		—	—	—	
D3	秋学期	—	2	通信工学特別研究 3 B	
		—	1	通信工学特別実験 3 B	
		—	—	—	
修得単位数	小計	17	0		
	合計	17			

**身につく能力** ● 高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(エネルギー工学分野) 履修モデル③

**養成人材像** ● 研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	エネルギー工学特別研究 1 A	必修
		—	1	エネルギー工学特別実験 1 A	
		—	2	エネルギー工学コスタディ	
D1	秋学期	—	2	エネルギー工学特別研究 1 B	
		—	1	エネルギー工学特別実験 1 B	
		—	—	—	
D2	春学期	—	1	エネルギー工学特別研究 2 A	
		—	1	エネルギー工学特別実験 2 A	
		—	—	—	
D2	秋学期	—	2	エネルギー工学特別研究 2 B	
		—	1	エネルギー工学特別実験 2 B	
		—	—	—	
D3	春学期	—	1	エネルギー工学特別研究 3 A	
		—	1	エネルギー工学特別実験 3 A	
		—	—	—	
D3	秋学期	—	2	エネルギー工学特別研究 3 B	
		—	1	エネルギー工学特別実験 3 B	
		—	—	—	
修得単位数	小計	17	0		
	合計	17			

**身につく能力** ● 高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(制御工学分野) 履修モデル④

**養成人材像** ● 研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	1	—	制御工学特別研究 1 A	必修
		1	—	制御工学特別実験 1 A	
		2	—	制御工学コアスタディ	
D1	秋学期	2	—	制御工学特別研究 1 B	
		1	—	制御工学特別実験 1 B	
D2	春学期	1	—	制御工学特別研究 2 A	
		1	—	制御工学特別実験 2 A	
D2	秋学期	2	—	制御工学特別研究 2 B	
		1	—	制御工学特別実験 2 B	
D3	春学期	1	—	制御工学特別研究 3 A	
		1	—	制御工学特別実験 3 A	
D3	秋学期	2	—	制御工学特別研究 3 B	
		1	—	制御工学特別実験 3 B	
修得単位数		小計	17	0	
		合計	17		

**身につく能力** ● 高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(材料・物性工学分野) 履修モデル⑤

**養成人材像** ● 研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	1	—	電子物性工学特別研究 1 A	必修
		1	—	電子物性工学特別実験 1 A	
		2	—	電子物性工学コアスタディ	
D1	秋学期	2	—	電子物性工学特別研究 1 B	
		1	—	電子物性工学特別実験 1 B	
D2	春学期	1	—	電子物性工学特別研究 2 A	
		1	—	電子物性工学特別実験 2 A	
D2	秋学期	2	—	電子物性工学特別研究 2 B	
		1	—	電子物性工学特別実験 2 B	
D3	春学期	1	—	電子物性工学特別研究 3 A	
		1	—	電子物性工学特別実験 3 A	
D3	秋学期	2	—	電子物性工学特別研究 3 B	
		1	—	電子物性工学特別実験 3 B	
修得単位数		小計	17	0	
		合計	17		

**身につく能力** ● 高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

**想定される進路先** ● 国内外の企業の研究所及び大学教員

## 4. (理工学研究科)応用情報工学専攻

## (1)修士課程授業科目および担当者一覧

	分野名	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
基幹科目	計算機工学分野	離散アルゴリズム特論1	2	李 磊			○
		離散アルゴリズム特論2	2	李 磊			
		計算機システム工学特論1	2	担当者未定	本年度休講	偶数年	○
		計算機システム工学特論2	2	担当者未定	本年度休講	奇数年	
		理論計算機科学特論1	2	和佐 州洋			○
		理論計算機科学特論2	2	和佐 州洋			
	工学ネットワーク分野	通信ネットワーク特論1	2	金井 敦			
		通信ネットワーク特論2	2	谷本 茂明			○
		分散処理システム特論1	2	藤井 章博			○
		分散処理システム特論2	2	藤井 章博			
		無線ネットワーク特論1	2	品川 満			○
		無線ネットワーク特論2	2	品川 満			
	工学情報処分野	情報信号処理工学特論1	2	周 金佳			○
		情報信号処理工学特論2	2	周 金佳			○
		画像工学特論1	2	尾川 浩一	本年度休講	奇数年	○
		画像工学特論2	2	尾川 浩一		偶数年	
		知的情報処理特論1	2	彌富 仁			○
		知的情報処理特論2	2	彌富 仁			○
		ニューラルネットワークの理論と応用	2	斉 欣			○
	深層学習の効率的処理	2	CAP, Huu Quan			○	
	工学人間情報分野	最適化システム特論1	2	山岸 昌夫	2023年度「感性情報処理システム特論1」を履修済みの場合は履修不可		○
		最適化システム特論2	2	山岸 昌夫	2023年度「感性情報処理システム特論2」を履修済みの場合は履修不可		
		脳情報処理特論1	2	平原 誠			
		脳情報処理特論2	2	平原 誠			○
		大規模言語モデルを用いた生成型AI	2	GUO, Ao			○
	展開科目	画像解析特論	2	清水 昭伸			
		応用信号処理特論	2	吉田 久			○
学習アルゴリズム特論		2	新井 淳也				
データマイニング特論		2	小林 透				
計算幾何学特論		2	古賀 久志				
自然言語処理特論		2	長谷川 拓				
プログラム意味論特論		2	藤田 憲悦				
情報処理未来洞察特論		2	七丈 直弘				

	分野名	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
展 開 科 目		センサーネット特論	2	門 勇一			
		インターネットとイノベーション特論	2	齊藤 眞			○
		感覚・感性センシング特論	2	吉田 宏之			
		3次元モデリング特論	2	斎藤 隆文			
		視覚環境認識・理解特論	2	清水 郁子			
		ヒューマンインタラクション特論	2	倉掛 正治			
		マルチモーダル情報処理特論	2	倉掛 正治			
		科学技術文技法	2	柴山 純・藤澤 剛 李 磊・彌富 仁 川口 悠子・和佐 州洋			
		暗号とその応用	2	真鍋 義文 (IIST)			○
	応用情報工学特別研究1A	1	研究指導担当者	1年次必修			
	応用情報工学特別研究1B	2	研究指導担当者	1年次必修			
	応用情報工学特別研究2A	1	研究指導担当者	2年次必修			
	応用情報工学特別研究2B	2	研究指導担当者	2年次必修			
	応用情報工学特別実験1A	1	研究指導担当者	1年次必修			
	応用情報工学特別実験1B	1	研究指導担当者	1年次必修			
	応用情報工学特別実験2A	1	研究指導担当者	2年次必修			
	応用情報工学特別実験2B	1	研究指導担当者	2年次必修			

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。〔例1〕参照

〔例1〕

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	2年次(留級)	春学期	特別研究2B・特別実験2B

◎「特別研究」(計 6 単位)・「特別実験」(計 4 単位)を含む 30 単位を修得すること。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## (2) 博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
応用情報工学プロジェクト	2	尾川・金井・品川 李・周・藤井・彌富 余・和佐・山岸	必修 (コースワーク科目)
計算機工学特別研究1A・2A・3A	各 1	李 磊	
計算機工学特別研究1B・2B・3B	各 2	李 磊	
計算機工学特別実験1A・2A・3A	各 1	李 磊	
計算機工学特別実験1B・2B・3B	各 1	李 磊	
計算機工学特別研究1A・2A・3A	各 1	和佐 州洋	
計算機工学特別研究1B・2B・3B	各 2	和佐 州洋	
計算機工学特別実験1A・2A・3A	各 1	和佐 州洋	
計算機工学特別実験1B・2B・3B	各 1	和佐 州洋	
情報ネットワーク工学特別研究1A・2A・3A	各 1	金井 敦	
情報ネットワーク工学特別研究1B・2B・3B	各 2	金井 敦	
情報ネットワーク工学特別実験1A・2A・3A	各 1	金井 敦	
情報ネットワーク工学特別実験1B・2B・3B	各 1	金井 敦	
情報ネットワーク工学特別研究1A・2A・3A	各 1	品川 満	
情報ネットワーク工学特別研究1B・2B・3B	各 2	品川 満	
情報ネットワーク工学特別実験1A・2A・3A	各 1	品川 満	
情報ネットワーク工学特別実験1B・2B・3B	各 1	品川 満	
情報ネットワーク工学特別研究1A・2A・3A	各 1	藤井 章博	
情報ネットワーク工学特別研究1B・2B・3B	各 2	藤井 章博	
情報ネットワーク工学特別実験1A・2A・3A	各 1	藤井 章博	
情報ネットワーク工学特別実験1B・2B・3B	各 1	藤井 章博	
情報処理工学特別研究1A・2A・3A	各 1	尾川 浩一	
情報処理工学特別研究1B・2B・3B	各 2	尾川 浩一	
情報処理工学特別実験1A・2A・3A	各 1	尾川 浩一	
情報処理工学特別実験1B・2B・3B	各 1	尾川 浩一	
情報処理工学特別研究1A・2A・3A	各 1	彌富 仁	
情報処理工学特別研究1B・2B・3B	各 2	彌富 仁	
情報処理工学特別実験1A・2A・3A	各 1	彌富 仁	
情報処理工学特別実験1B・2B・3B	各 1	彌富 仁	
情報処理工学特別研究1A・2A・3A	各 1	周 金佳	
情報処理工学特別研究1B・2B・3B	各 2	周 金佳	
情報処理工学特別実験1A・2A・3A	各 1	周 金佳	
情報処理工学特別実験1B・2B・3B	各 1	周 金佳	

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
人間情報工学特別研究1A・2A・3A	各1	余 恪平	
人間情報工学特別研究1B・2B・3B	各2	余 恪平	
人間情報工学特別実験1A・2A・3A	各1	余 恪平	
人間情報工学特別実験1B・2B・3B	各1	余 恪平	
人間情報工学特別研究1A・2A・3A	各1	山岸 昌夫	
人間情報工学特別研究1B・2B・3B	各2	山岸 昌夫	
人間情報工学特別実験1A・2A・3A	各1	山岸 昌夫	
人間情報工学特別実験1B・2B・3B	各1	山岸 昌夫	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1]参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	3年次	春学期	特別研究2B・特別実験2B
		秋学期	特別研究3A・特別実験3A
4年目	3年次(留級)	春学期	特別研究3B・特別実験3B

◎コースワーク科目は必修である。

◎「特別研究」(計9単位)・「特別実験」(計6単位)とコースワーク科目(2単位)を含む17単位を修得すること。

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル①

養成  
人材像

- 最先端の計算機工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	計算機システム工学特論 1	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基幹科目		2	離散アルゴリズム特論 1	
		基幹科目		2	理論計算機科学特論 1	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究 1 A	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験 1 A	
	秋学期	基幹科目		2	計算機システム工学特論 2	1 年次必修科目 1 年次必修科目
基幹科目			2	離散アルゴリズム特論 2		
基幹科目			2	理論計算機科学特論 2		
—		2		応用情報工学特別研究 1 B		
—	1		応用情報工学特別実験 1 B			
M2	春学期	展開科目		2	プログラム意味論特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		—	1		応用情報工学特別研究 2 A	
		—	1		応用情報工学特別実験 2 A	
	秋学期	展開科目		2	自然言語処理特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		展開科目		2	データマイニング特論	
		展開科目		2	計算幾何学特論	
—	2		応用情報工学特別研究 2 B			
—	1		応用情報工学特別実験 2 B			
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 計算機工学に関する専門知識
- システム研究開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力

想定される  
進路先

- システムインテグレータ、コンピュータメーカーをはじめとする、電機メーカー、ITベンチャー、通信事業者等

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル②

養成  
人材像

- 最先端の通信ネットワーク工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	通信ネットワーク特論 1	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基幹科目		2	分散処理システム特論 1	
		基幹科目		2	無線ネットワーク特論 1	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究 1 A	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験 1 A	
	秋学期	基幹科目		2	通信ネットワーク特論 2	1 年次必修科目 1 年次必修科目
基幹科目			2	分散処理システム特論 2		
基幹科目			2	無線ネットワーク特論 2		
—		2		応用情報工学特別研究 1 B		
—	1		応用情報工学特別実験 1 B			
M2	春学期	展開科目		2	センサーネット特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		展開科目		2	インターネットとイノベーション特論	
		—	1		応用情報工学特別研究 2 A	
	—	1		応用情報工学特別実験 2 A		
	秋学期	展開科目		2	情報処理未来洞察特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		展開科目		2	データマイニング特論	
—		2		応用情報工学特別研究 2 B		
—	1		応用情報工学特別実験 2 B			
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 通信ネットワーク工学に関する専門知識
- システム研究開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力

想定される  
進路先

- 通信事業者、ISPをはじめとする、システムインテグレータ、電機メーカー、コンピュータメーカー、ITベンチャー等

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル③

養成  
人材像

- 最先端の情報処理工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	情報信号処理工学特論 1	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基幹科目		2	画像工学特論 1	
		基幹科目		2	知的情報処理特論 1	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究 1 A	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験 1 A	
	秋学期	基幹科目		2	情報信号処理工学特論 2	
基幹科目			2	画像工学特論 2		
基幹科目			2	知的情報処理特論 2		
—		2		応用情報工学特別研究 1 B		
	—	1		応用情報工学特別実験 1 B	1 年次必修科目 1 年次必修科目	
M2	春学期	展開科目		2	応用信号処理特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		展開科目		2	学習アルゴリズム特論	
		—	1		応用情報工学特別研究 2 A	
		—	1		応用情報工学特別実験 2 A	
	秋学期	展開科目		2	画像解析特論	
		展開科目		2	データマイニング特論	
	—	2		応用情報工学特別研究 2 B	2 年次必修科目	
	—	1		応用情報工学特別実験 2 B	2 年次必修科目	
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 情報処理工学に関する専門知識
- システム研究開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力

想定される  
進路先

- 電機メーカー、医療機器メーカーをはじめとする、コンピュータメーカー、ITベンチャーなど、システムインテグレータ等

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル④

養成  
人材像

- 最先端の人間情報処理工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	感性情報処理システム特論 1	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基幹科目		2	脳情報処理特論 1	
		展開科目		2	学習アルゴリズム特論	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究 1 A	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験 1 A	
	秋学期	基幹科目		2	感性情報処理システム特論 2	
基幹科目			2	脳情報処理特論 2		
展開科目			2	感覚・感性センシング特論		
展開科目			2	視覚環境認識・理解特論		
	—	2		応用情報工学特別研究 1 B	1 年次必修科目	
	—	1		応用情報工学特別実験 1 B	1 年次必修科目	
M2	春学期	展開科目		2	3次元モデリング特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目
		展開科目		2	ヒューマンインタラクション特論	
		展開科目		2	マルチモーダル情報処理特論	
		—	1		応用情報工学特別研究 2 A	
	—	1		応用情報工学特別実験 2 A		
	秋学期	—	2		応用情報工学特別研究 2 B	
—		1		応用情報工学特別実験 2 B	2 年次必修科目	
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 人間情報工学に関する専門知識
- システム開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力

想定される  
進路先

- 電機メーカー、コンピュータメーカーをはじめとする、システムインテグレータ、ITベンチャー、通信事業者等

## 応用情報工学専攻 博士後期課程 履修モデル

養成  
人材像

- 自立して世界最先端で創造的な研究活動を行うことができる研究開発者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	計算機工学特別研究 1 A	
		—	1	計算機工学特別実験 1 A	
D1	秋学期	—	2	計算機工学特別研究 1 B	
		—	1	計算機工学特別実験 1 B	
		2		応用情報工学プロジェクト	必修
D2	春学期	—	1	計算機工学特別研究 2 A	
		—	1	計算機工学特別実験 2 A	
D2	秋学期	—	2	計算機工学特別研究 2 B	
		—	1	計算機工学特別実験 2 B	
D3	春学期	—	1	計算機工学特別研究 3 A	
		—	1	計算機工学特別実験 3 A	
D3	秋学期	—	2	計算機工学特別研究 3 B	
		—	1	計算機工学特別実験 3 B	
修得単位数	小計	2	15		
	合計	17			

身につく  
能力

- 計算機工学に関する知識、課題設定および解決能力
- 研究遂行能力、システム開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力

想定される  
進路先

- 大学、企業での研究・教育者、システムインテグレータ、コンピュータメーカーをはじめとする、電機メーカー、ITベンチャー、通信事業者等。

## 5. (理工学研究科)システム理工学専攻

## (1) 修士課程授業科目および担当者一覧

## システム理工学専攻(創生科学系)授業科目

	授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
基 礎 科 学 領 域	計算工学特論1	2	担当者未定	本年度休講		
	計算工学特論2	2	担当者未定	本年度休講		
	言語科学特論1	2	担当者未定	本年度休講	偶数年	
	機械学習特論1	2	柴田 千尋		偶数年	
	機械学習特論2	2	柴田 千尋	本年度休講	奇数年	
	応用論理・数理言語学特論1	2	金沢 誠		偶数年	○
	応用論理・数理言語学特論2	2	金沢 誠	本年度休講	奇数年	○
	データサイエンス特論	2	堤 瑛美子	本年度休講		
	最適制御特論	2	木山 健			
	システム・モデリング特論	2	木山 健			
	知能化センシングシステム特論	2	小林 一行			
	センサ信号処理特論	2	小林 一行			○
	天体宇宙物理学特論	2	小宮山 裕			
	天体宇宙観測特論	2	小宮山 裕			
	時空間物理学特論1	2	佐藤 修一	本年度休講	奇数年	
	時空間物理学特論2	2	佐藤 修一		偶数年	
	地方創生特論	2	田中 幹人			
	天文文化特論	2	田中 幹人			
	リスクマネジメント特論	2	担当者未定	本年度休講	偶数年	
	eビジネス特論	2	呉 暁林	本年度休講	奇数年	
	量子エレクトロニクス特論	2	松尾 由賀利			
	原子分子物理特論	2	松尾 由賀利			
	最適化モデリング特論1	2	鮎川 矩義			
	最適化モデリング特論2	2	鮎川 矩義			
	人間工学特論	2	鈴木 郁	本年度休講	奇数年	
	生体情報信号処理特論	2	鈴木 郁		偶数年	
	産業人間科学特論1	2	担当者未定	本年度休講		
	産業経済分析特論	2	呉 暁林		偶数年	
	フィールドワーク特論	2	担当者未定	本年度休講	偶数年	
	言語能力評価特論	2	片桐 一彦		偶数年	
	科学技術英語表現	2	担当者未定	本年度休講		
	応用認知心理学特論1	2	山本 晃輔	本年度休講	奇数年	
応用認知心理学特論2	2	山本 晃輔		偶数年		
ロボットプログラミング	2	田胡 和哉				

	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
発展科学領域	知識獲得特論	2	劉 健全	本年度休講		○
	インテリジェントセンシング	2	佐藤 浩志			
	システム診断特論	2	佐藤 浩志			
	人工知能特論	2	高間 康史			
	電子回路特論	2	今枝 佑輔			
	相対性理論	2	今枝 佑輔			
	標準計測特論	2	今枝 佑輔			
	固体物性応用	2	永崎 洋			
	量子物性デバイス	2	小野 新平			
	固体物理学特論	2	百瀬 孝昌			
	システム理工学特別研究1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	システム理工学特別研究1B	2	研究指導担当者	1年次必修		
	システム理工学特別研究2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	システム理工学特別研究2B	2	研究指導担当者	2年次必修		
	システム理工学特別実験1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	システム理工学特別実験1B	1	研究指導担当者	1年次必修		
	システム理工学特別実験2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	システム理工学特別実験2B	1	研究指導担当者	2年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1]参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	2年次(留級)	春学期	特別研究2B・特別実験2B

◎「特別研究」(計 6 単位)・「特別実験」(計 4 単位)を含む 30 単位を修得すること。

◎授業科目一覧の基礎科目・発展科目内の配当科目から、それぞれ指定された数以上の科目を受講すること。

基礎科目 -4単位(2科目)以上
------------------

発展科目 -2単位(1科目)以上
------------------

※経営システム系授業科目 基礎科目-4 単位(2 科目)以上、発展科目-2 単位(1 科目)以上を履修しても上記の要件に含まれる。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## システム理工学専攻(経営システム系)授業科目

	授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語 対応	
基 礎 科 目	経営システム領域	関数解析特論1	2	磯島 伸	本年度休講	奇数年	○
	関数解析特論2	2	磯島 伸		偶数年	○	
	確率過程特論1	2	安田 和弘			○	
	確率過程特論2	2	安田 和弘			○	
	数値計算法特論	2	五島 洋行		偶数年	○	
	最適化ファイナンス特論	2	林 俊介			○	
	オペレーションズ・リサーチ特論1	2	田村 信幸		偶数年	○	
	計量経済学特論1	2	劉 慶豊	本年度休講	奇数年	○	
	先進経営科学特論	2	林・劉(子)・木村・作村 田村・安田・劉(慶)			○	
発 展 科 目	経営システム領域	オペレーションズ・リサーチ特論2	2	千葉 英史	本年度休講	奇数年	○
	確率システム解析特論	2	田村 信幸	本年度休講	奇数年	○	
	デリバティブ理論特論	2	畑 宏明			○	
	生産情報特論	2	作村 建紀			○	
	信頼性工学特論	2	木村 光宏			○	
	応用経済分析特論	2	殷 婷			○	
	符号理論特論1	2	寺杣 友秀	本年度休講	奇数年	○	
	符号理論特論2	2	寺杣 友秀		偶数年	○	
	最適化アルゴリズム特論	2	劉 子昂		偶数年	○	
	応用金融分析特論	2	担当者未定	本年度休講	奇数年	○	
	離散最適化特論1	2	高澤 兼二郎		偶数年	○	
	離散最適化特論2	2	高澤 兼二郎	本年度休講	奇数年	○	
	暗号とその応用	2	真鍋 義文 (IIST)			○	
	システム理工学特別研究1A	1	研究指導担当者	1年次必修			
	システム理工学特別研究1B	2	研究指導担当者	1年次必修			
	システム理工学特別研究2A	1	研究指導担当者	2年次必修			
	システム理工学特別研究2B	2	研究指導担当者	2年次必修			
	システム理工学特別実験1A	1	研究指導担当者	1年次必修			
	システム理工学特別実験1B	1	研究指導担当者	1年次必修			
	システム理工学特別実験2A	1	研究指導担当者	2年次必修			
	システム理工学特別実験2B	1	研究指導担当者	2年次必修			

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

次頁の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。〔例1〕参照

〔例1〕

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	2年次(留級)	春学期	特別研究2B・特別実験2B

◎「特別研究」(計6単位)・「特別実験」(計4単位)を含む30単位を修得すること。

◎授業科目一覧の基礎科目・発展科目内の配当科目から、それぞれ指定された数以上の科目を受講すること。

**基礎科目 -4単位(2科目)以上**

**発展科目 -2単位(1科目)以上**

※創生科学系授業科目 基礎科目-4単位(2科目)以上、発展科目-2単位(1科目)以上を履修しても上記の要件に含まれる。

※「英語対応」とは、IIST生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細はWebシラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## (2)博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
創生科学博士プロジェクト	2	小林・佐藤・鈴木 松尾・金沢・田中 柴田・小宮山・鮎川	必修【創生】 (コースワーク科目)
経営システム工学コアスタディ	2	五島 洋行	必修【経営】 (コースワーク科目)
計測システム特別研究1A・2A・3A	各1	小宮山 裕	
計測システム特別研究1B・2B・3B	各2	小宮山 裕	
計測システム特別実験1A・2A・3A	各1	小宮山 裕	
計測システム特別実験1B・2B・3B	各1	小宮山 裕	
計測システム特別研究1A・2A・3A	各1	佐藤 修一	
計測システム特別研究1B・2B・3B	各2	佐藤 修一	
計測システム特別実験1A・2A・3A	各1	佐藤 修一	
計測システム特別実験1B・2B・3B	各1	佐藤 修一	
計測システム特別研究1A・2A・3A	各1	田中 幹人	
計測システム特別研究1B・2B・3B	各2	田中 幹人	
計測システム特別実験1A・2A・3A	各1	田中 幹人	
計測システム特別実験1B・2B・3B	各1	田中 幹人	
数理科学特別研究1A・2A・3A	各1	柴田 千尋	
数理科学特別研究1B・2B・3B	各2	柴田 千尋	
数理科学特別実験1A・2A・3A	各1	柴田 千尋	
数理科学特別実験1B・2B・3B	各1	柴田 千尋	
数理科学特別研究1A・2A・3A	各1	鮎川 矩義	
数理科学特別研究1B・2B・3B	各2	鮎川 矩義	
数理科学特別実験1A・2A・3A	各1	鮎川 矩義	
数理科学特別実験1B・2B・3B	各1	鮎川 矩義	
制御システム特別研究1A・2A・3A	各1	小林 一行	
制御システム特別研究1B・2B・3B	各2	小林 一行	
制御システム特別実験1A・2A・3A	各1	小林 一行	
制御システム特別実験1B・2B・3B	各1	小林 一行	
計算工学特別研究1A・2A・3A	各1	金沢 誠	
計算工学特別研究1B・2B・3B	各2	金沢 誠	
計算工学特別実験1A・2A・3A	各1	金沢 誠	
計算工学特別実験1B・2B・3B	各1	金沢 誠	
物質科学特別研究1A・2A・3A	各1	松尾 由賀利	
物質科学特別研究1B・2B・3B	各2	松尾 由賀利	
物質科学特別実験1A・2A・3A	各1	松尾 由賀利	
物質科学特別実験1B・2B・3B	各1	松尾 由賀利	
水工学特別研究1A・2A・3A	各1	担当者未定	
水工学特別研究1B・2B・3B	各2	担当者未定	
水工学特別実験1A・2A・3A	各1	担当者未定	

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
水工学特別実験1B・2B・3B	各1	担当者未定	
人間システム特別研究1A・2A・3A	各1	鈴木 郁	
人間システム特別研究1B・2B・3B	各2	鈴木 郁	
人間システム特別実験1A・2A・3A	各1	鈴木 郁	
人間システム特別実験1B・2B・3B	各1	鈴木 郁	
応用統計工学特別研究1A・2A・3A	各1	田村 信幸	
応用統計工学特別研究1B・2B・3B	各2	田村 信幸	
応用統計工学特別実験1A・2A・3A	各1	田村 信幸	
応用統計工学特別実験1B・2B・3B	各1	田村 信幸	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	木村 光宏	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	木村 光宏	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	木村 光宏	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	木村 光宏	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	五島 洋行	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	五島 洋行	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	五島 洋行	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	五島 洋行	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	寺杣 友秀	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	寺杣 友秀	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	寺杣 友秀	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	寺杣 友秀	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	礪島 伸	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	礪島 伸	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	礪島 伸	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	礪島 伸	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	林 俊介	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	林 俊介	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	林 俊介	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	林 俊介	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	高澤 兼二郎	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	高澤 兼二郎	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	高澤 兼二郎	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	高澤 兼二郎	
応用経済分析特別研究1A・2A・3A	各1	劉 慶豊	
応用経済分析特別研究1B・2B・3B	各2	劉 慶豊	
応用経済分析特別実験1A・2A・3A	各1	劉 慶豊	
応用経済分析特別実験1B・2B・3B	各1	劉 慶豊	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1]参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	3年次	春学期	特別研究2B・特別実験2B
		秋学期	特別研究3A・特別実験3A
4年目	3年次(留級)	春学期	特別研究3B・特別実験3B

◎コースワーク科目は必修である。創生科学系は「創生科学博士プロジェクト」、経営システム系は「経営システム工学コアスタディ」を履修すること。

◎「特別研究」(計9単位)・「特別実験」(計6単位)とコースワーク科目(2単位)を含む17単位を修得すること。

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル①

**養成人材像** ● システム理工学に関する問題を知能科学、数理科学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論 1	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙物理学特論	
	実践科目	1		システム理工学特別研究 1 A		
	実践科目	1		システム理工学特別実験 1 A		
M1	秋学期	基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論 1	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙観測特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	応用論理・数理言語学特論 1	
		基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論 2	
	-	2		システム理工学特別研究 1 B	1 年次必修科目	
-	1		システム理工学特別実験 1 B			
M2	春学期	発展科目 創生科学領域		2	人工知能特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		発展科目 創生科学領域		2	知識獲得特論	
	-	1		システム理工学特別研究 2 A		
	-	1		システム理工学特別実験 2 A		
M2	秋学期	基礎科目 創生科学領域		2	データサイエンス特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	応用論理・数理言語学特論 2	
		基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論 1	
		-	2		システム理工学特別研究 2 B	
-	1		システム理工学特別実験 2 B			
修得単位数	小計	10	22			
	合計	32				

**身につく能力** ● 知能科学、数理科学の観点から問題を導き出し、表現できる能力  
● 知能科学、数理科学の観点から問題を積極的に解決できる専門能力

**想定される進路先** ● システム理工学の観点から物事を捉えることのできる技術者を必要とする業界・業種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル②

**養成人材像** ● システム理工学に関する問題を知能科学、制御工学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	システム・モデリング特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	知能化センシングシステム特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	生体情報信号処理特論	
		実践科目	1		システム理工学特別研究 1 A	
	実践科目	1		システム理工学特別実験 1 A		
M1	秋学期	基礎科目 創生科学領域		2	最適制御特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	センサ信号処理特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論 1	
		-	2		システム理工学特別研究 1 B	
-	1		システム理工学特別実験 1 B			
M2	春学期	発展科目 創生科学領域		2	インテリジェントセンシング	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		発展科目 創生科学領域		2	人工知能特論	
	-	1		システム理工学特別研究 2 A		
	-	1		システム理工学特別実験 2 A		
M2	秋学期	基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論 2	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		発展科目 創生科学領域		2	システム診断特論	
		-	2		システム理工学特別研究 2 B	
		-	1		システム理工学特別実験 2 B	
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく能力** ● システム理工学の観点からシステムを的確にモデリングできる能力  
● システム理工学の観点から問題点を把握し、制御工学を駆使し解決できる能力

**想定される進路先** ● システム理工学を必要とする分野、特に、計測制御分野、計装分野を必要とする業界・業種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル③

養成  
人材像

- システム理工学に関する問題を物理学、センシング工学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙物理学特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	時空間物理学特論 1	
		基礎科目 創生科学領域		2	システム・モデリング特論	
		実践科目	1		システム理工学特別研究 1 A	
		実践科目	1		システム理工学特別実験 1 A	
M1	秋学期	基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙観測特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	天文文化特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	センサ信号処理特論	
		-	2		システム理工学特別研究 1 B	
		-	1		システム理工学特別実験 1 B	
M2	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	時空間物理学特論 2	2 年次必修科目 2 年次必修科目
		発展科目 創生科学領域		2	標準計測特論	
		-	1		システム理工学特別研究 2 A	
		-	1		システム理工学特別実験 2 A	
		M2	秋学期	発展科目 創生科学領域		
発展科目 創生科学領域				2	電子回路特論	
-	2				システム理工学特別研究 2 B	
-	1				システム理工学特別実験 2 B	
修得単位数	小計			10	20	
	合計	30				

身につく  
能力

- 現象の本質を理解し、物理的数学的に表現する能力
- 伝統的・革新的手法を駆使して問題を解決に導く能力

想定される  
進路先

- 製造業・研究機関等、問題解決型の職種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル④

養成  
人材像

- システム理工学に関する問題を物理学、物質科学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙物理学特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	量子エレクトロニクス特論	
		発展科目 創生科学領域		2	標準計測特論	
		実践科目	1		システム理工学特別研究 1 A	
		実践科目	1		システム理工学特別実験 1 A	
M1	秋学期	基礎科目 創生科学領域		2	最適制御特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	原子分子物理特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	センサ信号処理特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙観測特論	
		-	2		システム理工学特別研究 1 B	
-	1		システム理工学特別実験 1 B			
M2	春学期	発展科目 創生科学領域		2	固体物理学特論	春学期集中 春学期集中 春学期集中 2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目
		発展科目 創生科学領域		2	量子物性デバイス	
		発展科目 創生科学領域		2	固体物性応用	
		-	1		システム理工学特別研究 2 A	
		-	1		システム理工学特別実験 2 A	
M2	秋学期	-		2	システム理工学特別研究 2 B	
		-		1	システム理工学特別実験 2 B	
		-		1		
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 現象の意味・意義を理論的に捉える能力
- 物理・数学の手法を用いて問題を解決していける能力

想定される  
進路先

- 製造業・研究機関等、問題解決型の職種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル⑤

**養成人材像** ● システム理工学に関する問題を人間科学、人間工学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	人間工学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論 1	
	基礎科目 創生科学領域		2	応用認知心理学特論 1		
	実践科目 創生科学領域	1		システム理工学特別研究 1 A		
M1	秋学期	実践科目 創生科学領域	1		システム理工学特別実験 1 A	
		基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論 1	1年次必修科目 1年次必修科目
	基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論 2		
	基礎科目 創生科学領域		2	データサイエンス特論		
-	2		システム理工学特別研究 1 B			
M2	春学期	-	1		システム理工学特別実験 1 B	
		基礎科目 創生科学領域		2	生体情報信号処理特論	2年次必修科目 2年次必修科目
	基礎科目 創生科学領域		2	応用認知心理学特論 2		
	発展科目 創生科学領域	1		知識獲得特論		
-	1		システム理工学特別研究 2 A			
秋学期	-	2		システム理工学特別実験 2 A		
	発展科目 創生科学領域		2	人工知能特論	2年次必修科目 2年次必修科目	
-	2		システム理工学特別研究 2 B			
-	1		システム理工学特別実験 2 B			
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく能力** ● 人間科学、人間工学の観点から問題を導き出し、表現できる能力  
● 人間科学、人間工学の観点から問題を積極的に解決できる専門能力

**想定される進路先** ● 人間科学、人間工学の観点から物事を捉えることのできる能力を必要とする業界・業種

システム理工学専攻(創生科学系) 博士後期課程 履修モデル

**養成人材像** ● 研究者として自立して研究活動を行い、システム理工学の観点から問題を把握・解決できる高度な研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	-	1	数理科学特別研究 1 A	
		-	1	数理科学特別実験 1 A	
秋学期	-	-	2	数理科学特別研究 1 B	
		-	1	数理科学特別実験 1 B	
D2	春学期	-	1	数理科学特別研究 2 A	
		-	1	数理科学特別実験 2 A	
	秋学期	-	2	数理科学特別研究 2 B	
		-	1	数理科学特別実験 2 B	
-	2		創生科学博士プロジェクト		
D3	春学期	-	1	数理科学特別研究 3 A	
		-	1	数理科学特別実験 3 A	
	秋学期	-	2	数理科学特別研究 3 B	
		-	1	数理科学特別実験 3 B	
修得単位数	小計	2	15		
	合計	17			

**身につく能力** ● 高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識および、プレゼンテーション能力

**想定される進路先** ● 国内外の企業の研究所及び大学教員

システム理工学専攻(経営システム系) 修士課程 履修モデル①

**養成人材像**

- システムの問題を数理的に解決できる人

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考		
		必修	選択				
M1	春学期	基礎科目 経営システム領域		2	数値計算法特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目	
		基礎科目 経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論 1		
		基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論 1		
		基礎科目 経営システム領域		2	計量経済学特論 1		
		実践科目	1		システム理工学特別研究 1 A		
	実践科目	1		システム理工学特別実験 1 A			
	秋学期	基礎科目 経営システム領域		2	関数解析特論 1 または 2		1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論 2		
		発展科目 経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論 2		
		実践科目	2		システム理工学特別研究 1 B		
実践科目		1		システム理工学特別実験 1 B			
M2	春学期	発展科目 経営システム領域		2	符号理論特論 1 または 2	2 年次必修科目 2 年次必修科目	
		発展科目 経営システム領域		2	確率システム解析特論		
		実践科目	1		システム理工学特別研究 2 A		
	実践科目	1		システム理工学特別実験 2 A			
	秋学期	発展科目 経営システム領域		2	離散最適化特論 1 または 2		2 年次必修科目 2 年次必修科目
		実践科目	2		システム理工学特別研究 2 B		
実践科目		1		システム理工学特別実験 2 B			
修得単位数	小計	10	20	※隔年開講科目に注意すること			
	合計	30					

**身につく能力**

- 企業・社会・生産システムなどを数理的に表現することができる能力
- 現実的な環境の中で、システムの最適な運営方法を見つけ出す能力

**想定される進路先**

- 民間企業や公共機関でのシステム設計、運用、改善など、DX 化の推進

システム理工学専攻(経営システム系) 修士課程 履修モデル②

**養成人材像**

- 金融技術をリードするエンジニア

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考		
		必修	選択				
M1	春学期	基礎科目 経営システム領域		2	数値計算法特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目	
		基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論 1		
		基礎科目 経営システム領域		2	計量経済学特論 1		
		発展科目 経営システム領域		2	デリバティブ理論特論		
		実践科目	1		システム理工学特別研究 1 A		
	実践科目	1		システム理工学特別実験 1 A			
	秋学期	基礎科目 経営システム領域		2	関数解析特論 1 または 2		1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論 2		
		基礎科目 経営システム領域		2	最適化ファイナンス特論		
		発展科目 経営システム領域		2	応用金融分析特論		
実践科目		2		システム理工学特別研究 1 B			
M2	春学期	実践科目	1		システム理工学特別実験 1 B	2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目	
		発展科目 経営システム領域		2	確率システム解析特論		
		実践科目	1		システム理工学特別研究 2 A		
	実践科目	1		システム理工学特別実験 2 A			
	秋学期	実践科目	2		システム理工学特別研究 2 B		
		実践科目	1		システム理工学特別実験 2 B		
小計		10	20	※隔年開講科目に注意すること。また、1 または 2 となっている科目については、両科目の履修も各自の研究計画に合わせて行うこと。			
合計	30						

**身につく能力**

- 新たな金融商品やリスク・マネジメントの方法を提案する能力
- 企業財務管理、年金運用などの最適化を行う能力

**想定される進路先**

- 銀行、証券、保険などの金融機関、企業の財務管理部門

システム理工学専攻(経営システム系) 修士課程 履修モデル③

養成  
人材像

- 生産、流通の管理、効率・性能向上にあたる人

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論 1	
		基礎科目 経営システム領域		2	数値計算法特論	
		基礎科目 経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論 1	
		基礎科目 創生科学領域		2	人間工学特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	生体情報信号処理特論	
	基礎科目 創生科学領域		2	産業心理学特論 1		
	発展科目 経営システム領域		2	生産情報特論		
	実践科目	1		システム理工学特別研究 1 A	1 年次必修科目	
	実践科目	1		システム理工学特別実験 1 A	1 年次必修科目	
	秋学期	基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論 2	
発展科目 経営システム領域			2	オペレーションズ・リサーチ特論 2		
実践科目		2		システム理工学特別研究 1 B	1 年次必修科目	
実践科目		1		システム理工学特別実験 1 B	1 年次必修科目	
M2	春学期	発展科目 経営システム領域		2	信頼性工学特論	
		実践科目	1		システム理工学特別研究 2 A	2 年次必修科目
		実践科目	1		システム理工学特別実験 2 A	2 年次必修科目
	秋学期	実践科目	2		システム理工学特別研究 2 B	2 年次必修科目
		実践科目	1		システム理工学特別実験 2 B	2 年次必修科目
修得単位数	小計	10	20	※隔年開講科目に注意すること		
	合計	30				

身につく  
能力

- 生産、流通などのシステムを数理的に表現し、最適な設計を行う能力
- 製品、サービス、システムの品質を向上させ、効率的に管理する能力

想定される  
進路先

- 製造、流通、通信、サービス業などにおける、生産・品質・在庫管理部門

システム理工学専攻(経営システム系) 博士後期課程 履修モデル

養成  
人材像

● 独創的な工夫と創造で解を求めることができる自立的な研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	2	1	応用統計工学特別研究 1 A	必修
	1		応用数理工学特別研究 1 A		
			1	応用経済分析特別研究 1 A	
			1	応用統計工学特別実験 1 A	
			1	応用数理工学特別実験 1 A	
			1	応用経済工学特別実験 1 A	
			1	経営システム工学コスタディ	
D1	秋学期		2	応用統計工学特別研究 1 B	
	2	応用数理工学特別研究 1 B			
			2	応用経済分析特別研究 1 B	
			1	応用統計工学特別実験 1 B	
			1	応用数理工学特別実験 1 B	
			1	応用経済工学特別実験 1 B	
D2	春学期		1	応用統計工学特別研究 2 A	
	1	応用数理工学特別研究 2 A			
			1	応用経済分析特別研究 2 A	
			1	応用統計工学特別実験 2 A	
			1	応用数理工学特別実験 2 A	
			1	応用経済工学特別実験 2 A	
D2	秋学期		2	応用統計工学特別研究 2 B	
	2	応用数理工学特別研究 2 B			
			2	応用経済分析特別研究 2 B	
			1	応用統計工学特別実験 2 B	
			1	応用数理工学特別実験 2 B	
			1	応用経済工学特別実験 2 B	
D3	春学期		1	応用統計工学特別研究 3 A	
	1	応用数理工学特別研究 3 A			
			1	応用経済分析特別研究 3 A	
			1	応用統計工学特別実験 3 A	
			1	応用数理工学特別実験 3 A	
			1	応用経済工学特別実験 3 A	
D3	秋学期		2	応用統計工学特別研究 3 B	
	2	応用数理工学特別研究 3 B			
			2	応用経済分析特別研究 3 B	
			1	応用統計工学特別実験 3 B	
			1	応用数理工学特別実験 3 B	
			1	応用経済工学特別実験 3 B	
修得単位数	小計	2	15		
	合計	17			

身につく  
能力

● システムを数理的に表現し、最適な解を得る能力と基礎となる学識  
● 高付加価値の商品やサービスを生み出す能力

想定される  
進路先

● 研究機関、企業の研究部門、大学教員など

## 6. (理工学研究科)生命機能学専攻

## (1) 修士課程授業科目および担当者一覧

## 生命機能学専攻(生命機能学領域・植物医科学領域)授業科目

区分	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
基幹科目	ゲノム科学特論	2	宮尾 安藝雄		偶数年	
	蛋白質科学特論	2	曾和 義幸		偶数年	
	細胞生物学特論	2	金子 智行		偶数年	
	生命システム科学特論	2	廣野 雅文		偶数年	
	ゲノム工学特論	2	山中 幸	本年度休講	奇数年	
	蛋白質工学特論	2	竹田 哲也	本年度休講	奇数年	○
	細胞工学特論	2	水澤 直樹	本年度休講	奇数年	
	生命システム工学特論	2	川岸 郁朗	本年度休講	奇数年	
	基礎植物医科学特論	2	大島 研郎・佐野 俊夫	本年度休講	奇数年	○
	応用植物医科学特論	2	津田 新哉・廣岡 裕吏		偶数年	○
	植物病先端研究特論	2	濱本 宏・鍵和田 聡	本年度休講	奇数年	○
	植物総合診療科学特論	2	池田 健太郎・廣岡 裕吏		偶数年	○
	発展科目	バイオインフォマティクス特論	2	大島 拓		
生体超分子構造学特論		2	村上 聡			
生体分子設計特論		2	黒田 裕・野口 恵一 篠原 恭介・黒谷 篤之			
生体分子計測工学特論		2	久保 智広			
細胞操作工学特論		2	西川 正俊			
細胞間コミュニケーション特論		2	堀口 安彦	本年度休講		
画像工学特論1		2	尾川 浩一 (応用情報工学専攻)	本年度休講	奇数年	○
画像工学特論2		2	尾川 浩一 (応用情報工学専攻)		偶数年	
分子シミュレーション特論		2	高井 和之 (応用化学専攻)	本年度休講	奇数年	○
有機化学反応特論		2	河内 敦 (応用化学専攻)	本年度休講	奇数年	○
有機合成化学特論		2	河内 敦 (応用化学専攻)		偶数年	○
高分子物理化学特論		2	渡辺 敏行 (応用化学専攻)			
反応工学特論		2	山下 明泰 (応用化学専攻)		偶数年	○
環境科学特論		2	渡邊 雄二郎 (応用化学専攻)	本年度休講	奇数年	○
水環境工学特論		2	渡邊 雄二郎 (応用化学専攻)		偶数年	○
環境計測特論		2	中嶋 吉弘 (応用化学専攻)			
環境衛生学特論		2	福島 由美子・高橋 勉 (応用化学専攻)			
生物アシミレーション科学特論		2	佐野 俊夫・濱本 宏		偶数年	○
植物免疫分子システム学特論		2	鍵和田 聡・大島 研郎		偶数年	○
応用生物生態学特論		2	大井田 寛・池田 健太郎	本年度休講	奇数年	○
植物病原学特論		2	有江 力			
植物薬学総合特論	2	石川 亮				

区分	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
	土壌環境ゲノム科学特論	2	吉田 重信・大友 量 関口 博之・越智 直			
	有用植物開発学特論	2	青木 直大			
研究 実 践 科 目	生命機能学演習1	2	佐藤 勉・金子 智行 曾和 義幸・廣野 雅文	本年度休講 生命機能学領域 開講科目(注1)	奇数年	
	生命機能学演習2	2	川岸 郁朗・竹田 哲也 山本 兼由・水澤 直樹	生命機能学領域 開講科目(注1)	偶数年	
	生命機能学特別研究1A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生命機能学特別研究1B	2	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生命機能学特別研究2A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修		
	生命機能学特別研究2B	2	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修		
	生命機能学特別実験1A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生命機能学特別実験1B	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生命機能学特別実験2A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修		
生命機能学特別実験2B	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修			
研究 実 践 科 目	植物医科学演習1	2	濱本 宏・大井田 寛 池田 健太郎・大島 研郎	植物医科学領域 開講科目(注2)	偶数年	○
	植物医科学演習2	2	佐野 俊夫・鍵和田 聡 廣岡 裕吏・津田 新哉	本年度休講 植物医科学領域 開講科目(注2)	奇数年	○
	植物医科学特別研究1A	1	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 1年次必修		
	植物医科学特別研究1B	2	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 1年次必修		
	植物医科学特別研究2A	1	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 2年次必修		
	植物医科学特別研究2B	2	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 2年次必修		
	植物医科学特別実験1A	1	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 1年次必修		
植物医科学特別実験1B	1	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 1年次必修			

区分	授業科目	単位	担当者	備考	隔年開講	英語対応
	植物医科学特別実験2A	1	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 2年次必修		
	植物医科学特別実験2B	1	研究指導担当者	植物医科学領域 開講科目 2年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。〔例1〕参照

〔例1〕

	学年	履修期	科目
1年目	1年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2年目	2年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3年目	2年次(留級)	春学期	特別研究2B・特別実験2B

◎「特別研究」(計6単位)・「特別実験」(計4単位)を含む30単位を修得すること。

◎授業科目一覧の基礎科目・発展科目・研究実践科目内の配当科目から、それぞれ指定された数以上の科目を受講すること。

<b>基幹科目 -4単位(2科目)以上</b>
<b>発展科目 -2単位(1科目)以上</b>
<b>研究実践科目 -2単位(1科目)以上</b>

(注1)生命機能学領域の学生は「生命機能学演習1」「生命機能学演習2」の内、いずれかを必ず受講すること。

(注2)植物医科学領域の学生は「植物医科学演習1」「植物医科学演習2」の内、いずれかを必ず受講すること。

※「英語対応」とは、IIST生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細はWebシラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## (2)博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
生命機能学発展ゼミナール	2	川岸・金子・佐藤・竹田 廣野・水澤・山本・曾和・西川	<b>必修【生命】</b> (コースワーク科目)
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	川岸 郁朗	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	川岸 郁朗	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	川岸 郁朗	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	川岸 郁朗	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	佐藤 勉	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	佐藤 勉	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	佐藤 勉	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	佐藤 勉	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	山本 兼由	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	山本 兼由	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	山本 兼由	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	山本 兼由	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	竹田 哲也	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	竹田 哲也	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	竹田 哲也	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	竹田 哲也	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	金子 智行	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	金子 智行	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	金子 智行	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	金子 智行	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	廣野 雅文	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	廣野 雅文	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	廣野 雅文	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	廣野 雅文	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	水澤 直樹	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	水澤 直樹	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	水澤 直樹	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	水澤 直樹	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	曾和 義幸	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	曾和 義幸	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	曾和 義幸	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	曾和 義幸	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	西川 正俊	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	西川 正俊	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	西川 正俊	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	西川 正俊	
植物医科学発展ゼミナール	2	大井田・津田・濱本 大島・佐野・廣岡・池田	<b>必修【植物】</b> (コースワーク科目)

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	津田 新哉	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	津田 新哉	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	津田 新哉	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	津田 新哉	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	濱本 宏	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	濱本 宏	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	濱本 宏	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	濱本 宏	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	大井田 寛	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	大井田 寛	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	大井田 寛	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	大井田 寛	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	大島 研郎	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	大島 研郎	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	大島 研郎	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	大島 研郎	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	佐野 俊夫	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	佐野 俊夫	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	佐野 俊夫	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	佐野 俊夫	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	廣岡 裕吏	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	廣岡 裕吏	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	廣岡 裕吏	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	廣岡 裕吏	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	池田 健太郎	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	池田 健太郎	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	池田 健太郎	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	池田 健太郎	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例 1]参照)

[例 1]

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究2B・特別実験2B
		秋学期	特別研究3A・特別実験3A
4 年目	3 年次(留級)	春学期	特別研究3B・特別実験3B

◎コースワーク科目は必修である。生命機能学領域は「生命機能学発展ゼミナール」、植物医科学領域は「植物医科学発展ゼミナール」を履修すること。

◎「特別研究」(計 9 単位)・「特別実験」(計 6 単位)とコースワーク科目(2 単位)を含む 17 単位を修得すること。

生命機能学専攻(植物医科学領域) 修士課程 履修モデル①

養成  
人材像

- 植物病の診断と防除を生産現場で行う人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	応用植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物病先端研究特論	
		基幹科目		2	植物免疫分子システム学特論	
		基幹科目		2	植物薬学総合特論	
		研究実践科目		2	有用植物開発学特論	
	研究実践科目	1			植物医科学特別研究 1 A	1 年次必修科目
	研究実践科目	1			植物医科学特別実験 1 A	1 年次必修科目
	秋学期	基幹科目		2	基礎植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物総合診療科学特論	
		発展科目		2	応用生物生態学特論	
研究実践科目			2	植物医科学演習 1		
—		2		植物医科学特別研究 1 B	1 年次必修科目	
—	1			植物医科学特別実験 1 B	1 年次必修科目	
M2	春学期	—	1		植物医科学特別研究 2 A	2 年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験 2 A	2 年次必修科目
	秋学期	研究実践科目		2	植物医科学演習 2	
		—	2		植物医科学特別研究 2 B	2 年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験 2 B	2 年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 植物病の正確な診断と、的確な予防と防除を行う能力
- 植物病の診断、防除の新しい手法を開発する能力

想定される  
進路先

- 独立行政法人、都道府県の農業試験場や、農業会社等農業生産系企業

生命機能学専攻(植物医科学領域) 修士課程 履修モデル②

養成  
人材像

- 植物医科学を環境維持・保全等の分野に応用できる人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	応用植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物病先端研究特論	
		発展科目		2	土壌環境ゲノム科学特論	
		発展科目		2	有用植物開発学特論	
		研究実践科目	1			植物医科学特別研究 1 A
	研究実践科目	1			植物医科学特別実験 1 A	1 年次必修科目
	秋学期	基幹科目		2	基礎植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物総合診療科学特論	
		発展科目		2	生物アシミレーション科学特論	
		発展科目		2	応用生物生態学特論	
研究実践科目			2	植物医科学演習 1		
—	2			植物医科学特別研究 1 B	1 年次必修科目	
—	1			植物医科学特別実験 1 B	1 年次必修科目	
M2	春学期	—	1		植物医科学特別研究 2 A	2 年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験 2 A	2 年次必修科目
	秋学期	研究実践科目		2	植物医科学演習 2	
		—	2		植物医科学特別研究 2 B	2 年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験 2 B	2 年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 植物病の診断、防除、予防の知識と、それを環境保全に応用する能力
- 行政制度にも通暁し、行政的視点と自然科学の視点をバランスをもって見ることができる能力

想定される  
進路先

- 国や都道府県の自然管理・公園管理事業や、民間の緑化、造園系企業

### 生命機能学専攻(植物医科学領域) 修士課程 履修モデル③

**養成  
人材像**

- 食品系企業等で、食の安全・安心に積極的に貢献する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	応用植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物病先端研究特論	
		発展科目		2	細胞間コミュニケーション特論	
		発展科目		2	植物免疫分子システム学特論	
		研究実践科目	1		植物医科学特別研究 1 A	1年次必修科目
		研究実践科目	1		植物医科学特別実験 1 A	1年次必修科目
	秋学期	基幹科目		2	基礎植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物総合診療科学特論	
		発展科目		2	生物アシミレーション科学特論	
		発展科目		2	植物病原学特論	
研究実践科目			2	植物医科学演習 1		
	—	2		植物医科学特別研究 1 B	1年次必修科目	
	—	1		植物医科学特別実験 1 B	1年次必修科目	
M2	春学期	—	1		植物医科学特別研究 2 A	2年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験 2 A	2年次必修科目
	秋学期	研究実践科目		2	植物医科学演習 2	
		—	2		植物医科学特別研究 2 B	2年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験 2 B	2年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく  
能力**

- 植物病原が生産する毒素や、残留農薬等に関する知識と、実際の化合物を分析する能力
- IPM等の総合的防除手法を生産現場に適用する能力
- 農産物・食品等の成分分析能力と、新しい手法を開発する能力

**想定される  
進路先**

- 食品系企業

### 生命機能学専攻(植物医科学領域) 博士後期課程 履修モデル

**養成  
人材像**

- 植物病の診断、防除、予防の基盤を築く人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
D1	春学期	—		1	植物医科学発展特別研究 1 A	
		—		1	植物医科学発展特別実験 1 A	
	秋学期	—		2	植物医科学発展特別研究 1 B	
		—		1	植物医科学発展特別実験 1 B	
	—	2		植物医科学発展ゼミナール	必修	
D2	春学期	—		1	植物医科学発展特別研究 2 A	
		—		1	植物医科学発展特別実験 2 A	
	秋学期	—		2	植物医科学発展特別研究 2 B	
		—		1	植物医科学発展特別実験 2 B	
D3	春学期	—		1	植物医科学発展特別研究 3 A	
		—		1	植物医科学発展特別実験 3 A	
	秋学期	—		2	植物医科学発展特別研究 3 B	
		—		1	植物医科学発展特別実験 3 B	
修得単位数	小計	2	15			
	合計	17				

**身につく  
能力**

- 植物病の正確な診断と、的確な予防と防除に関する高度な能力
- 植物病の診断、防除の新しい手法の基盤を研究・開発する能力

**想定される  
進路先**

- 大学等の博士研究員、教員。独法、都道府県の農業試験場の研究員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル①

養成  
人材像

- ゲノム機能分野の研究者・技術員

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	ゲノム科学特論	
		基幹科目		2	蛋白質科学特論	
		基幹科目		2	細胞生物学特論	
	秋学期	基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習 1	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究 1 A	1 年次必修科目
M2	春学期	研究実践科目	1		生命機能学特別実験 1 A	1 年次必修科目
		基幹科目		2	ゲノム工学特論	
		発展科目		2	細胞操作工学特論	
	秋学期	研究実践科目		2	生命機能学演習 2	
		—	2		生命機能学特別研究 1 B	1 年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験 1 B	1 年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 多数の機能未知の遺伝子が含まれているゲノムの全遺伝子の機能の全容を理解できる能力

想定される  
進路先

- 化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所のゲノム機能分野の研究者・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル②

養成  
人材像

- 蛋白質機能分野の研究者・技術員

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	蛋白質科学特論	
		基幹科目		2	ゲノム科学特論	
		基幹科目		2	細胞生物学特論	
	秋学期	基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習 1	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究 1 A	1 年次必修科目
M2	春学期	研究実践科目	1		生命機能学特別実験 1 A	1 年次必修科目
		基幹科目		2	蛋白質工学特論	
		発展科目		2	生体分子設計特論	
	秋学期	研究実践科目		2	生命機能学演習 2	
		—	2		生命機能学特別研究 1 B	1 年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験 1 B	1 年次必修科目
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 多様な機能を担う蛋白質分子が立体的に折りたたまれて機能を発揮するメカニズムを理解できる能力
- 構造と機能の改変や新しい人工蛋白質を設計できる能力

想定される  
進路先

- 化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所の蛋白質機能分野の研究者・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル③

養成  
人材像

- 細胞機能分野の研究者・技術員

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	細胞生物学特論	
		基幹科目		2	ゲノム科学特論	
		基幹科目		2	蛋白質科学特論	
	秋学期	基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習 1	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究 1 A	1 年次必修科目
M2	春学期	研究実践科目	1		生命機能学特別実験 1 A	1 年次必修科目
		基幹科目		2	細胞工学特論	
		発展科目		2	細胞操作工学特論	
	秋学期	研究実践科目	2		生命機能学演習 2	
		—	2		生命機能学特別研究 1 B	1 年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験 1 B	1 年次必修科目
M2	春学期	発展科目		2	細胞間コミュニケーション特論	
		—	1		生命機能学特別研究 2 A	2 年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験 2 A	2 年次必修科目
秋学期	発展科目		2	細胞操作工学特論		
	—	2		生命機能学特別研究 2 B	2 年次必修科目	
	—	1		生命機能学特別実験 2 B	2 年次必修科目	
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 動物および植物細胞の増殖・分化・情報処理・恒常性維持などの分子メカニズムを理解できる能力

想定される  
進路先

- 化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所の細胞機能分野の研究者・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル④

養成  
人材像

- 生命システム機能分野の研究者・技術員

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	生命システム科学特論	
		基幹科目		2	ゲノム科学特論	
		基幹科目		2	蛋白質科学特論	
	秋学期	基幹科目		2	細胞生物学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習 1	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究 1 A	1 年次必修科目
M2	春学期	研究実践科目	1		生命機能学特別実験 1 A	1 年次必修科目
		基幹科目		2	生命システム工学特論	
		発展科目		2	細胞操作工学特論	
	秋学期	研究実践科目	2		生命機能学演習 2	
		—	2		生命機能学特別研究 1 B	1 年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験 1 B	1 年次必修科目
M2	春学期	発展科目		2	細胞間コミュニケーション特論	
		—	1		生体超分子構造学特論	
		—	1		生命機能学特別研究 2 A	2 年次必修科目
秋学期	—	1		生命機能学特別実験 2 A	2 年次必修科目	
	—	2		生命機能学特別研究 2 B	2 年次必修科目	
	—	1		生命機能学特別実験 2 B	2 年次必修科目	
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

身につく  
能力

- 階層縦断的なアプローチにより、多数遺伝子や多数蛋白質が共存する複合系の生命現象をも理解できる能力

想定される  
進路先

- 化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所の生命システム機能分野の研究者・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル⑤

**養成人材像**

- 理科教員、科学ジャーナリスト

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
M1	春学期	基幹科目		2	ゲノム科学特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基幹科目		2	蛋白質科学特論	
		基幹科目		2	細胞生物学特論	
		基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究 1 A	
		研究実践科目	1		生命機能学特別実験 1 A	
	秋学期	基幹科目		2	ゲノム工学特論	1 年次必修科目 1 年次必修科目
		基幹科目		2	蛋白質工学特論	
基幹科目			2	細胞工学特論		
基幹科目			2	生命システム工学特論		
	—	2		生命機能学特別研究 1 B	1 年次必修科目 1 年次必修科目	
	—	1		生命機能学特別実験 1 B		
M2	春学期	発展科目		2	細胞間コミュニケーション特論	2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目 2 年次必修科目
		研究実践科目		2	生命機能学演習 1	
		—	1		生命機能学特別研究 2 A	
	秋学期	—	1		生命機能学特別実験 2 A	
		—	2		生命機能学特別研究 2 B	
		—	1		生命機能学特別実験 2 B	
修得単位数	小計	10	20			
	合計	30				

**身につく能力**

- 理科教員に必要な生物に関する分野全般の能力

**想定される進路先**

- 理科教員、科学ジャーナリスト

生命機能学専攻(生命機能学領域) 博士後期課程 履修モデル

**養成人材像**

- 生命機能全分野の高度研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考	
		必修	選択			
D1	春学期	—		1	生命機能学発展特別研究 1 A	必修
		—		1	生命機能学発展特別実験 1 A	
	秋学期	—		2	生命機能学発展特別研究 1 B	
		—		1	生命機能学発展特別実験 1 B	
		2		生命機能学発展ゼミナール		
D2	春学期	—		1	生命機能学発展特別研究 2 A	
		—		1	生命機能学発展特別実験 2 A	
	秋学期	—		2	生命機能学発展特別研究 2 B	
		—		1	生命機能学発展特別実験 2 B	
D3	春学期	—		1	生命機能学発展特別研究 3 A	
		—		1	生命機能学発展特別実験 3 A	
	秋学期	—		2	生命機能学発展特別研究 3 B	
		—		1	生命機能学発展特別実験 3 B	
修得単位数	小計	2	15			
	合計	17				

**身につく能力**

- ゲノム機能、蛋白質機能、細胞機能、生命システム機能それぞれの分野に関する高度な能力
- 生命科学に積極的に貢献できる能力
- さまざまな分野の研究者と対等に議論が出来る能力

**想定される進路先**

- 博士研究員(ポストドクトラルフェロー)・教員・研究員